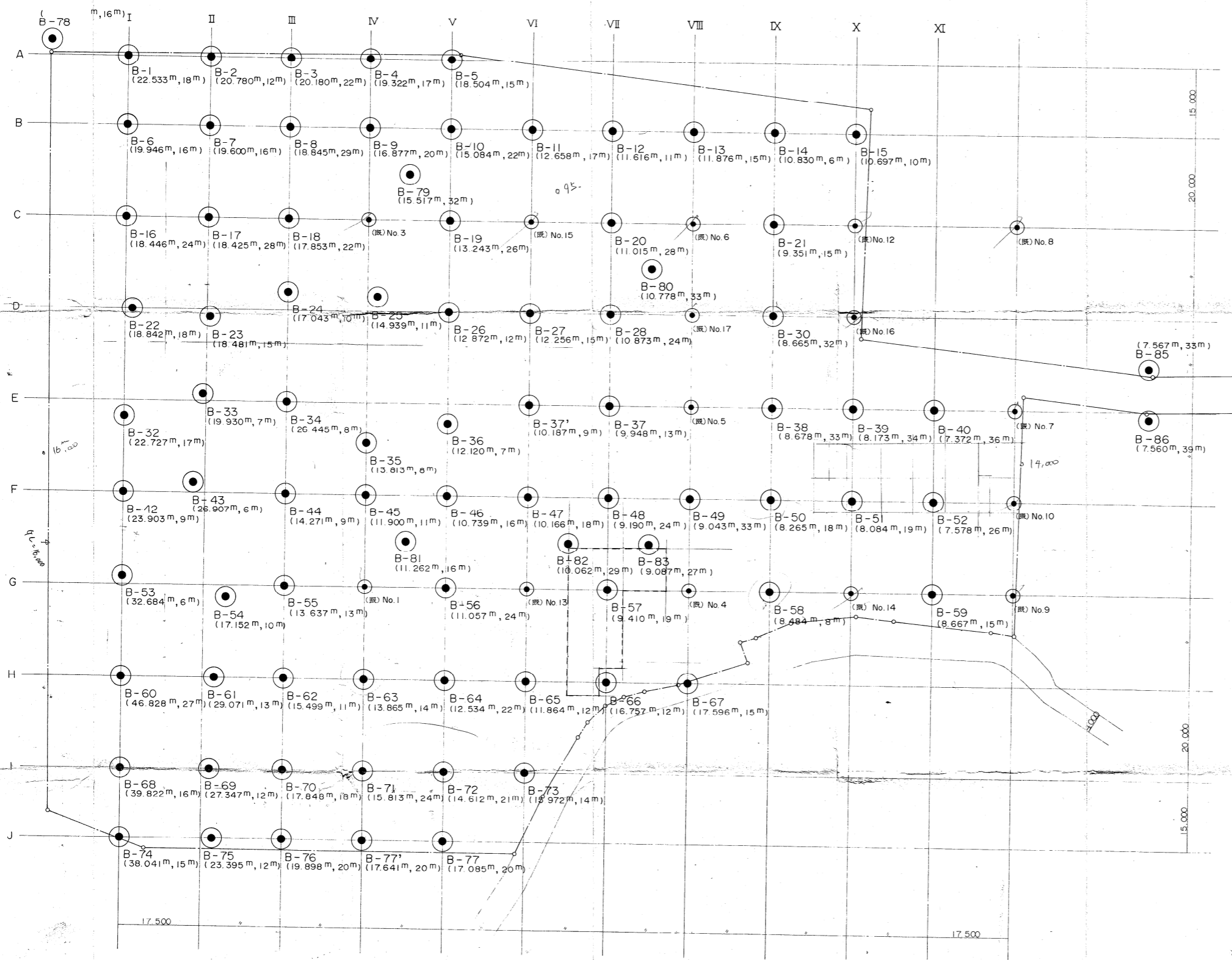


南処理工場煙突部ほか解体工事

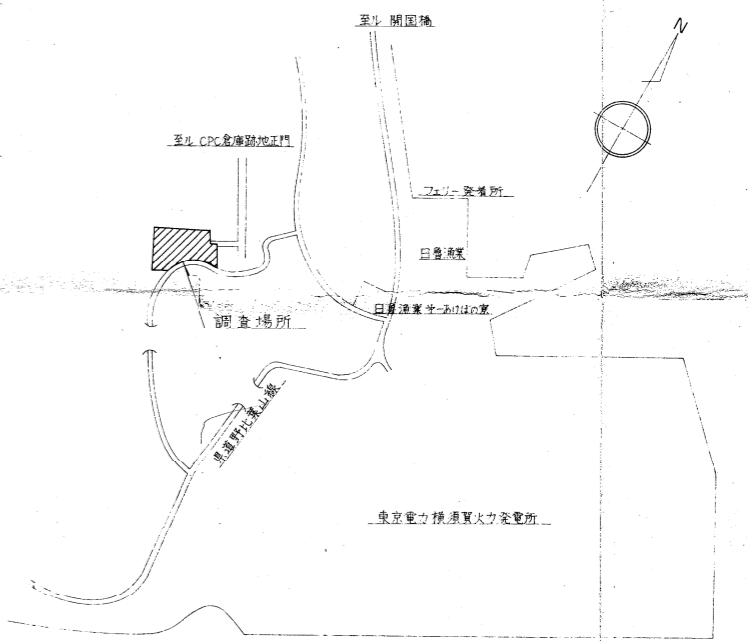
10 S55 地質調査 報告書



凡例

- 今回ボーリング位置
- 既存ボーリング位置

B-1
 (22.533m, 18m)
 標高 深度 (BMは一等水準点、10845、
 H=4.249mを使用した。)



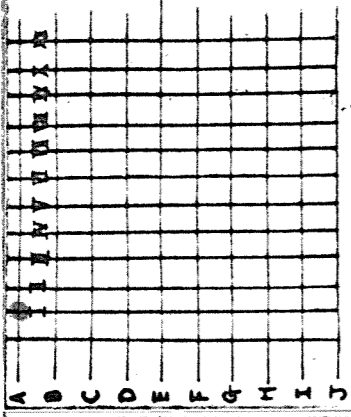
案内図

件名	(仮称)南部清掃工場建設敷地地質調査		
調査場所	横浜市神奈川区 2/87 地		
図面の名称	調査位置図	縮尺	1:500
年月日	55年10月日	工事番号	B-10

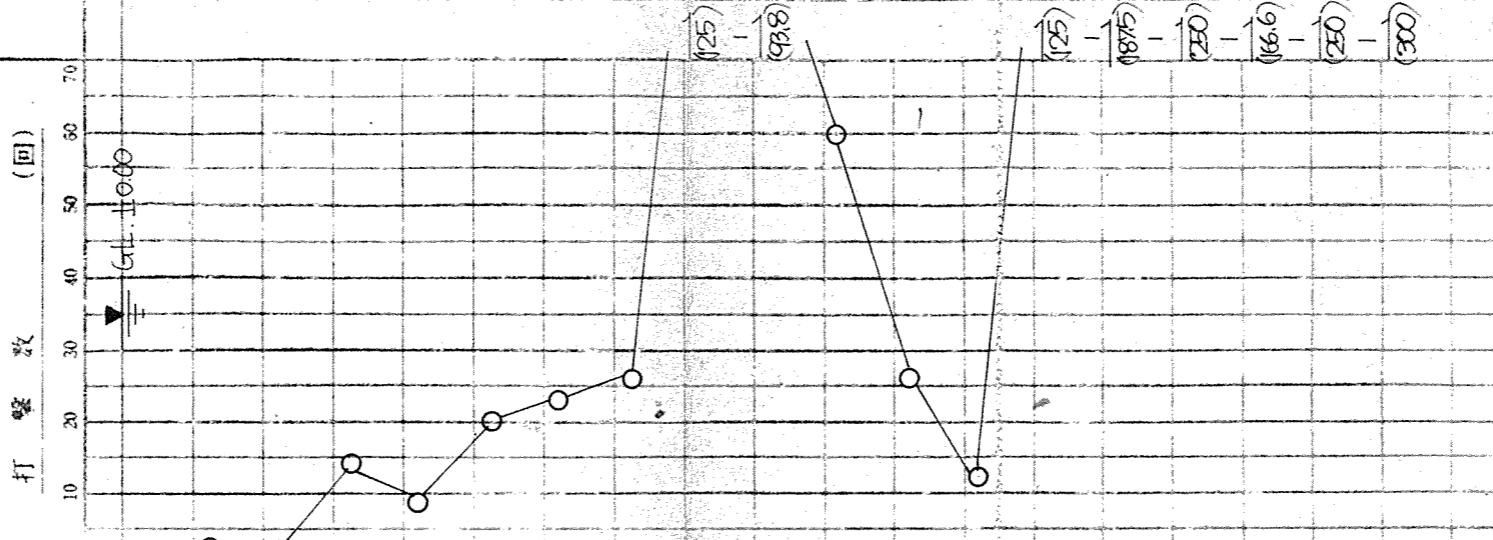
土質柱状図

46 1

調査員名 所 昭和 55年 9月 3日 ~ 昭和 55年 9月 3日
 (係) 京都府建設工事現場建設地地質調査
 機原原町神明町 287 他
 標高 22.553 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然水位)
 取土機 式 KR 100 口径 66 mm
 現場相違者

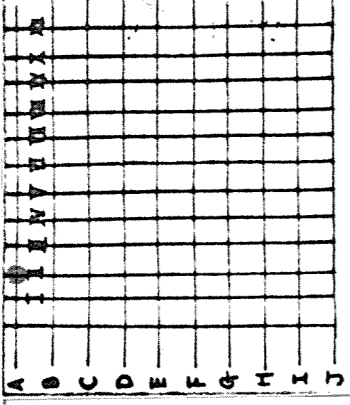


標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対含水量	標準貫入試験	
									深打 30 cm 毎の 打撃回数 (回)	10, 20, 30 cm 打撃回数 換算数
22.553	0.00									
21.403	1.15	1.15	表	土	黄	シルト主体で加岩砕混る 線形多量混る 0~3.10M面層水	系	1.15	2	15/15
20.653	1.90	0.75	粗土	復土	黄	腐植物混入、若干岩砕混る 青灰の層状のシルト状に 入り混じり、加岩砕混入	粘	2.15	1.8	14
19.453	3.10	1.20	岩砕混り	土	黄	酸化鉄く細かく砕付 ボロボロに混る 酸化されている 全体的に細かく砕付 ボロボロに混る	硬	3.15	14	4 6 4
							硬	4.15	9	3 2 4
							硬	5.15	20	5 9 6
							硬	6.15	23	7 9 7
							硬	7.15	26	6 9 11
							硬	8.00	50	12 41 9 2
							硬	8.12	50	16 24 6
							硬	9.00	60	9 10 5
							硬	9.16	60	9 10 5
							硬	10.00	26	6 9 11
11.753	10.80	7.70		風化 泥	黄	シルト M 硬くなる 7mm 有り 含む少ない 工試料細かく砕付て 落けてしま)	硬	11.15	26	6 9 11
							硬	11.45	12	5 3 4
9.853	12.70	1.90		粗土	黄	固結したものであるがボロボロ している 加岩砕層状に粘土 均一で凝り固い 貫入時、リフトする	硬	12.15	50	12 39 1 2
							硬	13.12	50	50
							硬	14.00	50	50
							硬	14.08	50	50
							硬	15.00	50	50
							硬	15.06	50	50
							硬	16.00	50	50
							硬	16.09	50	50
							硬	17.00	50	50
							硬	17.06	50	50
4.503	18.05			泥	黄	16M 泥水のシルト状に 工試料は落けてしま)	硬	18.00	50	50
							硬	18.05	50	50



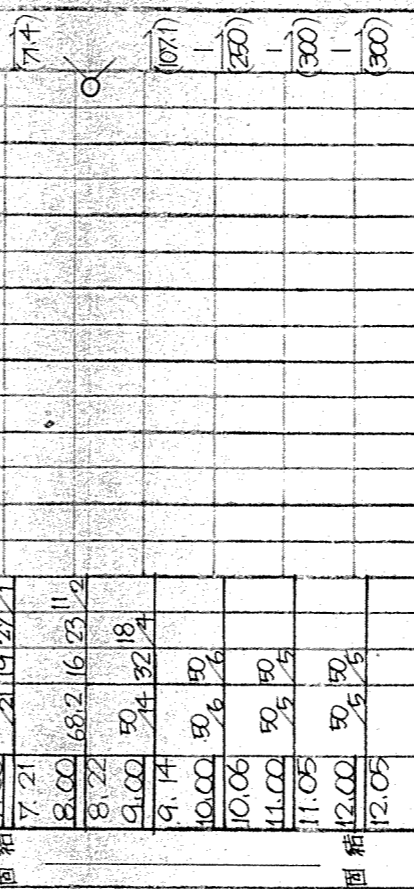
土質柱状図

No. 2



調査件名	(路線) 南都清瀬工場建設敷地 地質調査		
調査場所	横須賀市神明町 2187 他		
調査期	昭和 55 年 9 月 4 日	~	昭和 55 年 9 月 4 日
地盤高	20.78	(M) 地下水位 G.L.	± 0.00 (M) (自然孔内)
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 %		
現場担当者			

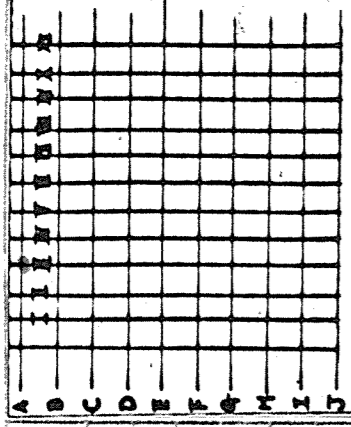
層 尺	深 度 G.L. (M)	層 厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対開度	標準貫入試験			
									深打 30打 cm G.L. (M)	30打 cm 打撃回数 換算数	10cm 毎の 打撃回数 換算数	打撃数 (回)
0.00	0.00	0.40	X	表土 (シルト) 腐	灰	含枝、草根等混入。 粟殻等			1.15	1.9	1.15	
0.40	0.40	1.20	/	シルト 復 粘 土 腐	灰	粘着(大きい) 腐植物多量混入 粘土混入			1.49	1.9	1.14	
1.60	1.60	1.60	/	シルト 復 粘 土 腐	灰	粘着物多量混入 粘土混入 粘着物多量混入 粘土混入			2.46	4	1.8	
3.20	3.20	1.60	/	シルト 復 粘 土 腐	灰	若干粘混入 全体中に粘着物多量混入 粘土混入			3.45	1.8	1.12	
4.80	4.80	1.60	/	シルト 復 粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			4.48	3	1.1	
6.40	6.40	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			5.15	24	9.10.5	
9.00	9.00	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			6.45	50	19.27.1	
11.60	11.60	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			7.00	50	16.23.2	
14.20	14.20	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			7.21	50	18	
16.80	16.80	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			8.00	50	32.4	
19.40	19.40	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			8.22	50	50	
22.00	22.00	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			9.00	50	50	
24.60	24.60	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			9.14	50	50	
27.20	27.20	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			10.00	50	50	
29.80	29.80	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			10.06	50	50	
32.40	32.40	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			11.00	50	50	
35.00	35.00	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			11.05	50	50	
37.60	37.60	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			12.00	50	50	
40.20	40.20	2.60	/	粘 土 腐	灰	粘着物混入 含水多			12.05	50	50	



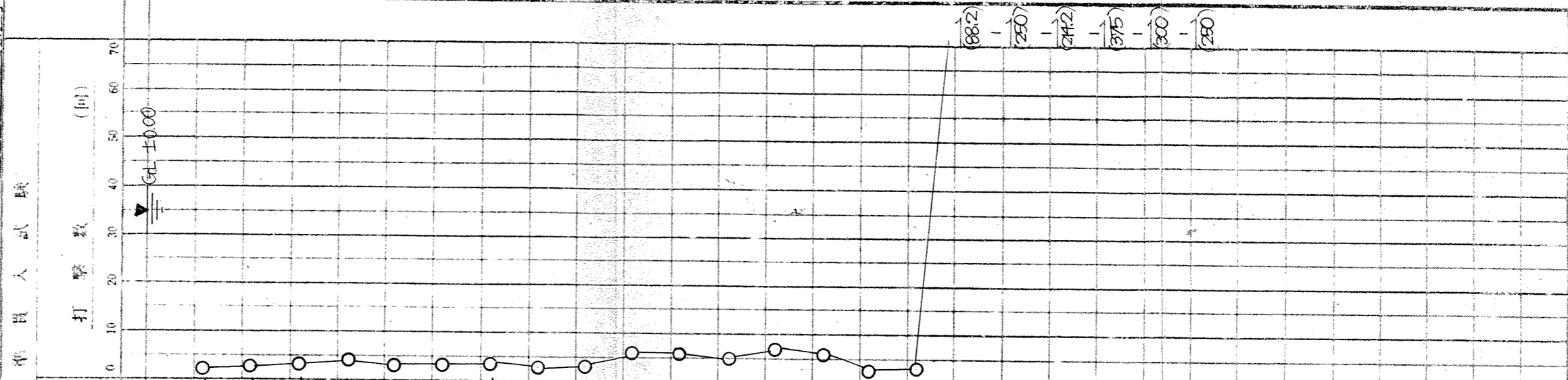
土質柱状図

No. 3

調査件名 (仮称) 南部有権工場建設敷地地質調査
 調査場所 機原原町神用町 2187 他
 調査期間 昭和 55年 9月 4日 ~ 昭和 55年 9月 5日
 地盤高 20.18 (M), 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然(内))
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm



標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験	
									深打 30打 10cm毎の 吹撃回 10cm G.L. 吹撃回数	打撃数 (回)
20.18	0.00		表土	シルト主体で砂り O40M付近に岩砕混る 色調不均一						
19.48	0.70	0.70		粘土 粘性大 腐植物若干混る 細かい岩砕若干含む 腐植土混りの粘土で 粘着力大 腐植物混入 加岩砕(青灰)の細かいの 混る	暗青灰					
10.33	9.85	9.15		シルト復粘土 岩砕混り粘土 粘性大 色調不均一	灰					
7.58	2.60	2.75		岩砕混り粘土 粘性大 腐植物混入 色調不均一	灰					
5.73	4.45	1.85		岩砕混り粘土 粘性大 腐植物混入 色調不均一	灰					
3.03	17.15	2.70		岩砕混り粘土 粘性大 腐植物混入 色調不均一	灰					
1.88	22.06			土	灰					

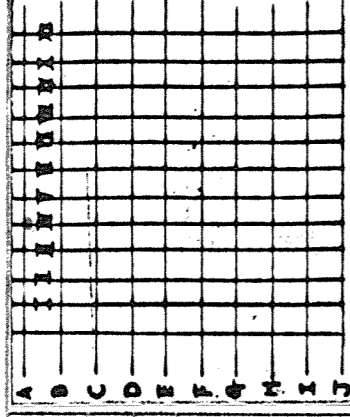


(88.2) -
 (250) -
 (242) -
 (375) -
 (300) -
 (250)

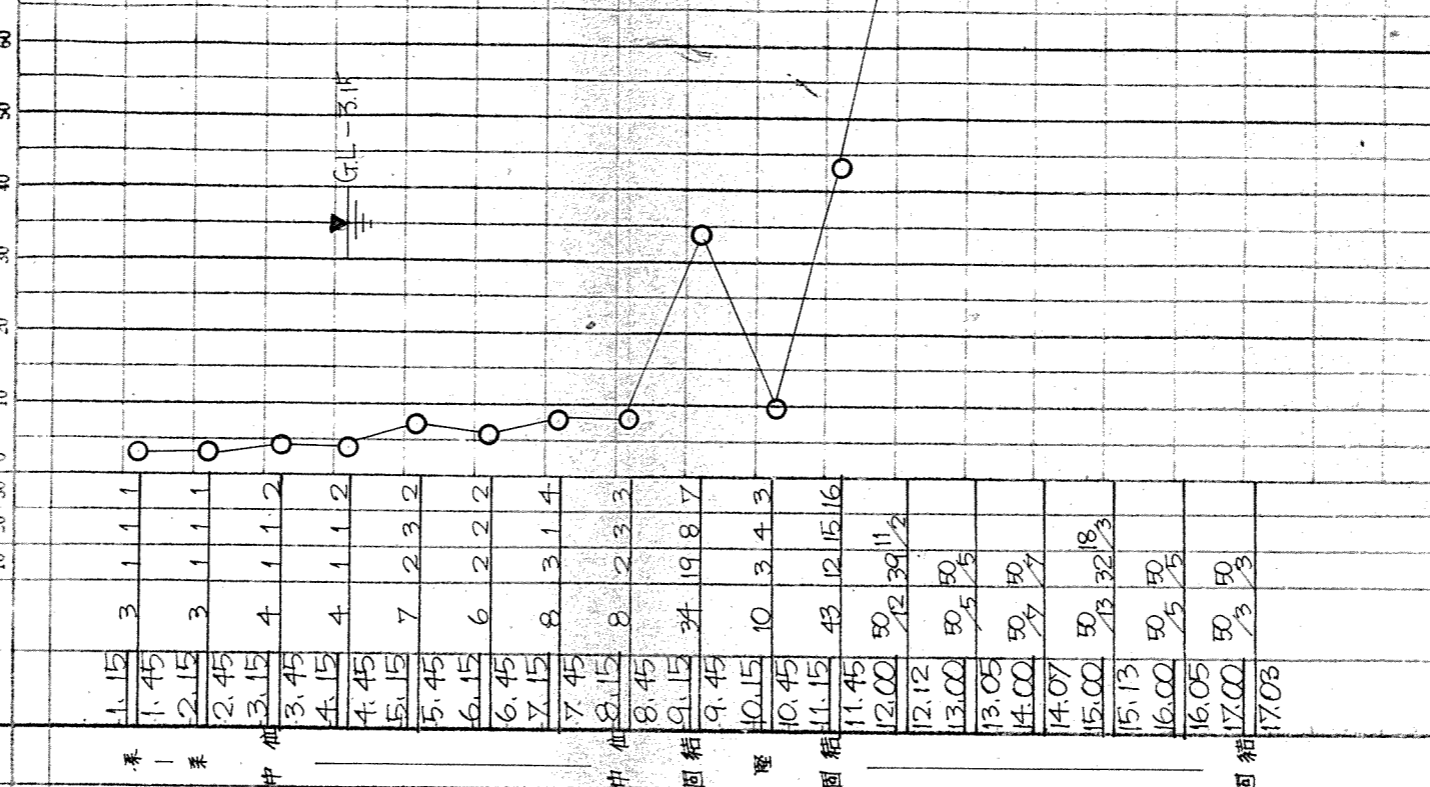
土質柱状図

No. 4

調査件名 (仮称) 南新着掃工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 機原宿字神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55年 9月 5日 ~ 昭和 55年 9月 6日
 地盤高 標高 19.322 (M) 地下水位 G.L. - 3.15 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 ㎜
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験	
										深打 30打 10cm毎の 度撃 撃回數 G.L. 10cm (M) 算數	打撃數 (回)
0	19.322	0.00	0.35		表土 (シルト) 層		シルト主体で粘りがある				
1	18.972	0.35	0.35		粘土 (シルト) 層		酸化岩片若干混る 粘性大さくなる 若干粘土あり				
2	17.522	1.80	1.45		粘土 (シルト) 層		粘土質の岩片混る 硬質土混りがある 粘性大 亀甲状の面がある 粘着力大				
4	14.822	4.50	2.70		シルト質粘土層		茶褐色の岩片混る 若干粘性あり 粘土質				
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11	8.422	10.90	6.40		岩層 (凝り) シルト層		石灰質の塊状物混る 塊状物混る G.M. 岩片混る 石灰質の塊状物混る 形状で岩多量混る				
12											
13											
14											
15											
16											
17	2.282	17.08			岩		15M 粘土. 風化されて ボロボロの塊状物混る 固結状態で均一で硬く 貫入時リバウンドする				
18											
19											



(125) - (300) - (242) - (1154) - (300) - (500)

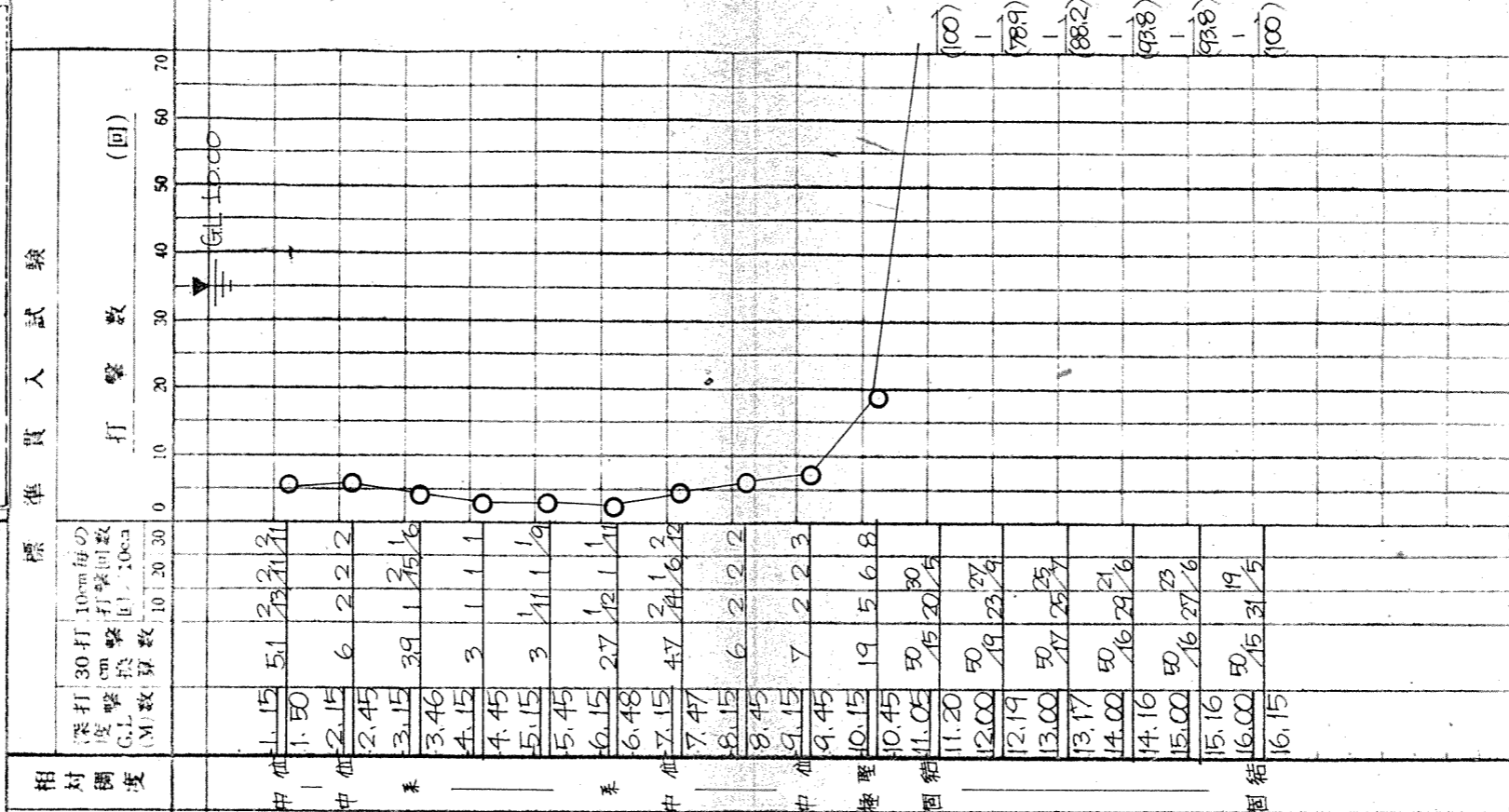
土質柱状図

No. 6

調査件名	(原株) 前部清掃工場建設敷地地盤調査		
調査場所	横浜市神奈川区 2187 地		
調査期間	昭和 55 年 9 月 2 日 ~ 昭和 55 年 9 月 2 日		
地盤高	標高 19.946 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然孔内)		
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 ㎜		
現場担当者			

A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対含水量	標準貫入試験	
										深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)
0	19.946	0.00	0.30	○	表土 (シルト) 層		篠根、草根混入				
1	19.646	0.30	0.30	○	表土 (シルト) 層		粘土大、含水多し				
2				○	粘土大、含水多し		植物物混入				
3				○	1.40M 附近 粘土大、含水多し		1.40M 附近 粘土大、含水多し				
4	15.406	4.45	4.15	○	シルト復粘土層		3M 程度の岩片混入				
5				○	シルト復粘土層		木根混入				
6				○	シルト復粘土層		青灰と暗灰のミックス状				
7				○	シルト復粘土層		青灰の岩片混入 (20~50% 程度の)				
8				○	シルト復粘土層		若干粘土混入				
9				○	シルト復粘土層		植物物混入				
10	10.046	9.90	5.45	○	岩片混入シルト層		下部になるに従い岩片多量				
11	8.886	11.05	1.15	○	泥岩 (岩) 砕青		色調不均一、風化激しい				
12				○	泥岩 (岩) 砕青		細かく砕けていて若干粘土混入				
13				○	泥岩 (岩) 砕青		固結状であるが、試験時細かく砕ける為、落してしま				
14				○	泥岩 (岩) 砕青		本試験材料、ボロで細かく砕けてしま				
15				○	泥岩 (岩) 砕青		土中固結している				
16	3.726	16.15		○	泥岩 (岩) 砕青		試験材料落してしま				
17				○	泥岩 (岩) 砕青		上がらず				
18				○	泥岩 (岩) 砕青		風化激しい				
19				○	泥岩 (岩) 砕青		風化激しい				



土質柱状図

No. 7

調査件名 (仮称) 南部清掃工場建設敷地地質調査
 調査場所 機原町神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 8 月 31 日 ~ 昭和 55 年 8 月 31 日
 地盤高 19.60 (M) 地下水位 G.L. ~ 0.45 (M) (自然(内))
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対含水量	標準貫入試験	
										深打 30 打 10cm 毎の G.L. 打撃回数 (M 数) 換算数	打撃数 (回)
0	19.60	0.00									
1	19.30	0.30	0.30	表土 (シルト)			草根混入、含砂土 (シルト)	1.15	1.9	1/15	
2	18.05	1.55	1.25	粘土層 (シルト)			粘性大、少量の岩砕混入	1.47	1.9	1/15	
3	16.70	2.90	1.35	岩砕層 (シルト)			20~50% 位の岩砕混入 能懐 (すい) 若干混 (砂)	2.46	3	1/11	
4	16.05	3.55	0.65	粘土層 (シルト)			含砂土、腐植物少量混入	3.15	3	1/11	
5	14.75	4.85	1.30	粘土層 (シルト)			腐植土混入、若干粘土混入 細砂岩砕少量混入	3.45	2.7	1/11	
6	13.90	5.70	0.85	粘土層 (シルト)			腐植物少量混入	4.49	3	1/11	
7							粘土若干含まれる	5.15	3	1/11	
8							腐植物、腐植土混入	6.15	3	1/11	
9							細砂岩砕少量混入	6.45	3	1/11	
10							色調不均	7.15	3	1/11	
11	8.70	10.90	5.20	粘土層 (シルト)			9.80M 程度の粘着力 大きくある	7.45	3	1/11	
12							砂岩主体で硬質である	8.15	7	2/3	
13							クワが入り込む	10.15	50/5	50/3	(300)
14							貫入時、リバンドする	11.05	50/4	50/4	242
15							工費材料 2~5cm 位の 2~3 個入っている (M 当り)	12.00	50/4	50/4	375
16	3.52	16.08		泥	砂		砂岩主体であり 地盤細かく固結している 粘土質の砂岩状	13.00	50/4	50/6	(300)
17								14.00	50/5	50/6	(280)
18								14.05	50/6	50/8	(1875)
19								15.00	50/6	50/8	
								15.06	50/8	50/8	
								16.00	50/8	50/8	
								16.08	50/8	50/8	

土質柱状図

№ 8

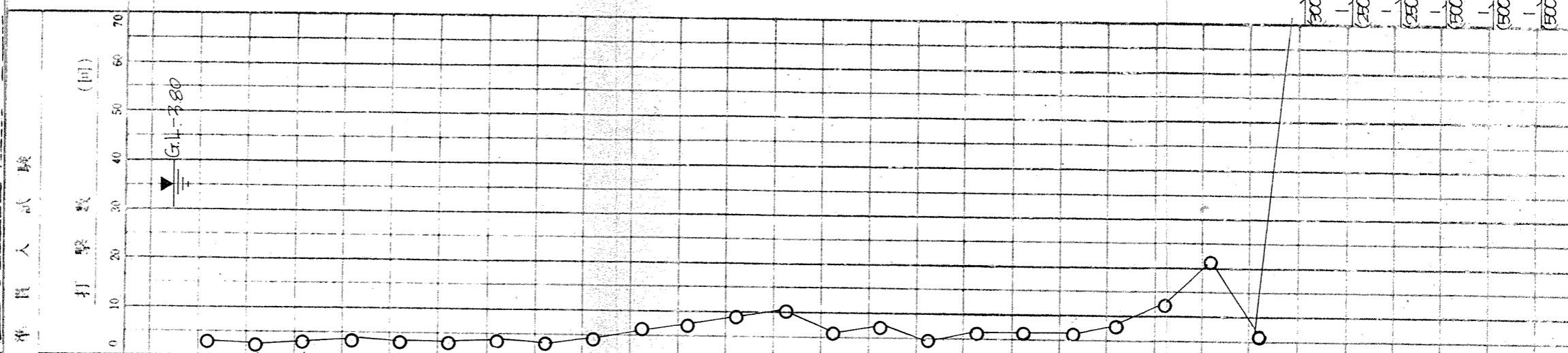
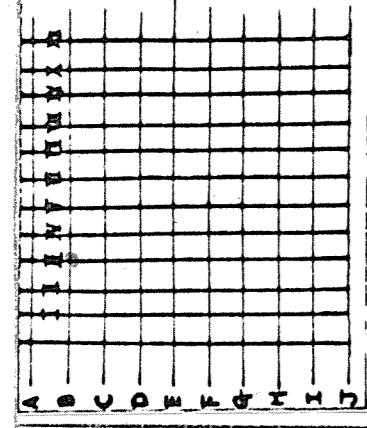
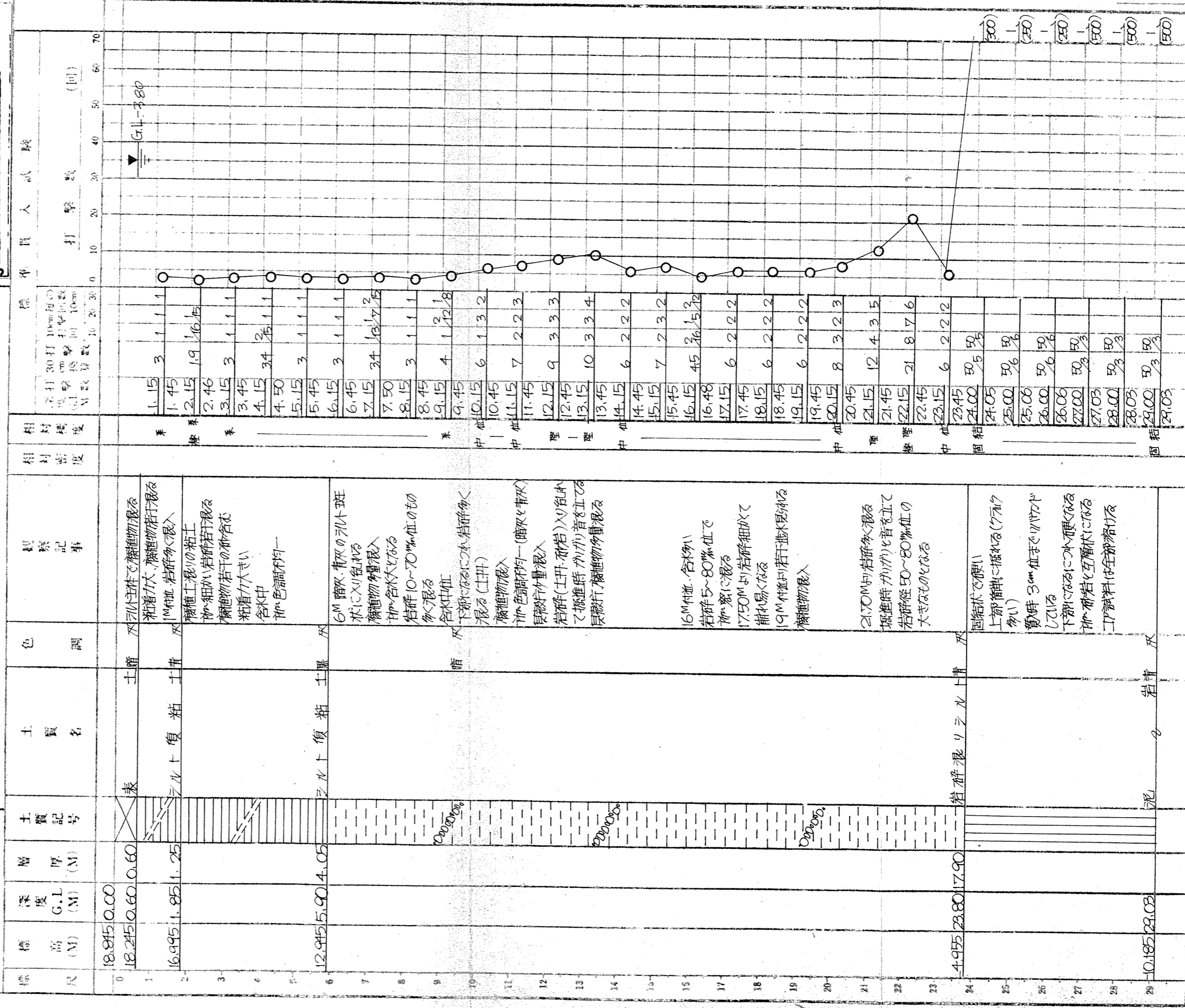
調査件名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機材
現場担当者

(仮称)南武清掃工場建設敷地地盤調査
横浜復興神町 2187 地

昭和 55 年 9 月 8 日 ~ 昭和 55 年 9 月 9 日

標高 18.845 (M) 地下水位 G.L. - 0.38 (M) (自然孔内)

ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



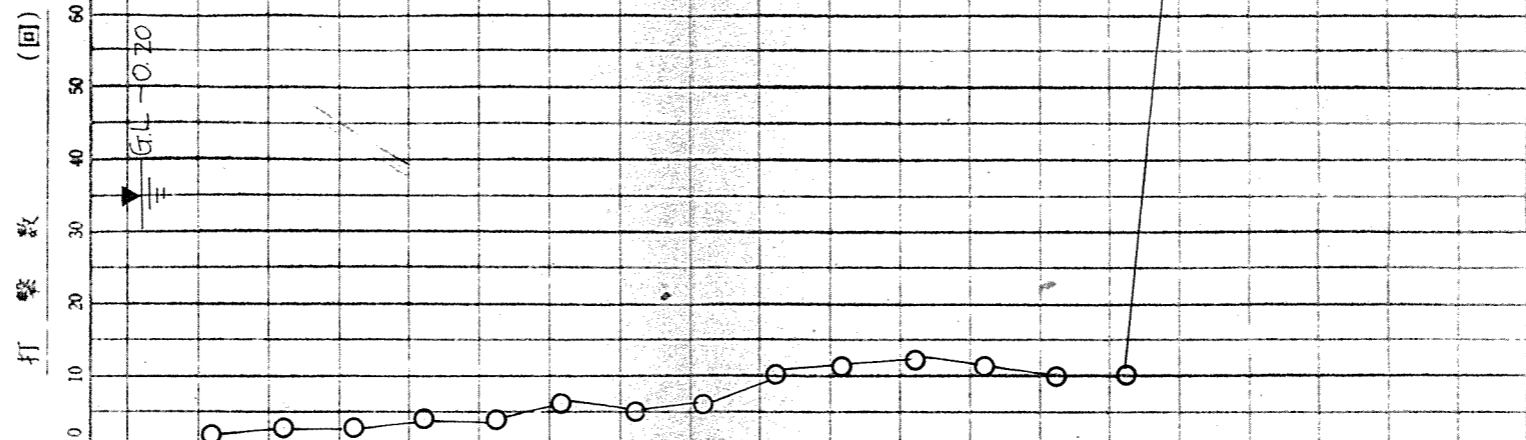
土質柱状図

No. 9

調査件名	(仮称) 南部清掃工場建設敷地地盤調査		
調査場所	横須賀市神明町 2187 他		
調査期間	昭和 55 年 9 月 11 日 ~ 昭和 55 年 9 月 11 日		
地盤高	標高 16.877 (M) 地下水位 G.L. - 0.20 (M) (自然凡因)		
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm		
現場担当者			

A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30 打 10cm 毎の 深打 10cm 毎の 深打 10cm 毎の G.L. (M) 数 算数	深打 30 打 10cm 毎の 深打 10cm 毎の 深打 10cm 毎の G.L. (M) 数 算数	深打 30 打 10cm 毎の 深打 10cm 毎の 深打 10cm 毎の G.L. (M) 数 算数
0	16.877	0.00										
1	15.827	1.05	1.05	表	粘土	灰	粘性土主体 草根等混入			1.7	1.5	15
2	15.077	1.80	0.75	②	シルト混り岩 砕	暗緑灰	全体にシルトを含む岩砕を 主体とし、含水率 5~10% 程度の造岩岩砕を主体			3	1.1	11
3				③	暗		全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			3	1.1	11
4				④			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			4	1.1	12
5				⑤			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			4	1.1	12
6	10.727	6.15	4.35	⑥	泥	黒	全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			6	1.2	23
7				⑦			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			5	2.1	22
8				⑧			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			6	2.2	22
9	7.977	8.90	2.75	⑨	シルト混り岩 砕	暗緑灰	全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			10	2.3	5
10				⑩			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			11	2.3	6
11	6.127	10.75	1.85	⑪	岩	暗緑灰	全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			12	3.3	6
12				⑫			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			11	3.3	5
13	3.377	13.50	2.75	⑬	シルト混り岩 砕	暗緑灰	全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			10	2.3	5
14				⑭			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			10	2.3	5
15	1.977	14.90	1.40	⑮	泥	暗緑灰	全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			50	50	250
16				⑯			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			50	50	250
17				⑰			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			50	50	150
18				⑱			全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			50	50	150
19	-3.123	20.00		⑲	泥	暗緑灰	全体にシルトを主体とし 加へ、緑灰色シルトを混入 軟い 含水率			50	50	300

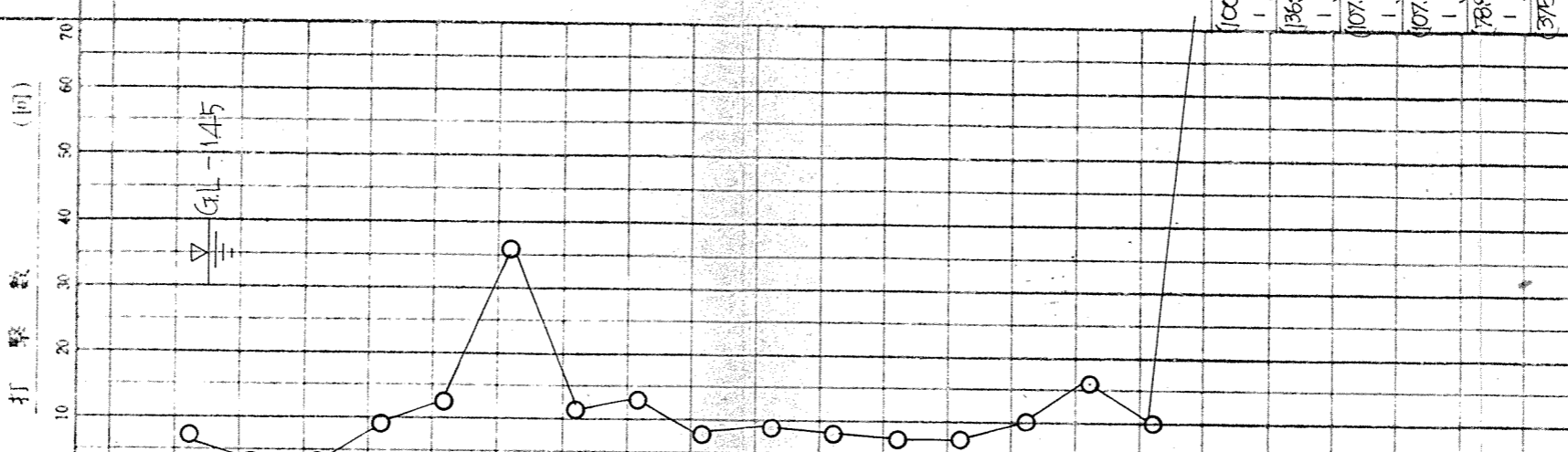


土質柱状図

No. 10

調査名	(株) 南都清浄工場建設敷地地質調査		
調査場所	横浜市神奈川 287 他		
調査期	昭和 55 年 9 月 9 日 ~ 昭和 55 年 9 月 10 日		
地盤高	標高 15.084 (M) 地下水位 G.L. - 1.45 (M) (自然[内])		
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm		
現場担当者			

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験	
										30打 10cm 毎の G.L. 換算数	打撃数 (回)
0	15.084	0.00									
1	14.184	0.90	0.90	表	土層	黄褐色	粘性土主体 砂等混入			7	2
2	13.484	1.60	0.70	砂	砂	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			3	1
3	11.884	3.20	1.60	粘土	粘土	黄褐色	全体的に粘性土主体 シルト混入			3	1
4				砂	砂	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			9	3
5				砂	砂	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			12	4
6	9.384	5.70	2.50	岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			12	4
7				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			36	8
8				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			11	3
9	6.384	8.75	3.05	岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			13	3
10				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			8	2
11				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			9	3
12	2.484	12.60	3.85	岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			7	2
13				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			7	2
14	1.284	13.80	1.20	岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			10	3
15				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			14	4
16				岩	岩	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			15	5
17	-1.616	16.70	2.90	泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			10	3
18				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			16	5
19				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			16	5
20				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			17	3
21				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			17	3
22	-7.006	22.09		泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
23				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
24				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
25				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
26				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
27				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
28				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15
29				泥	泥	黄褐色	全体的に砂の多い 粘性土主体			50	15



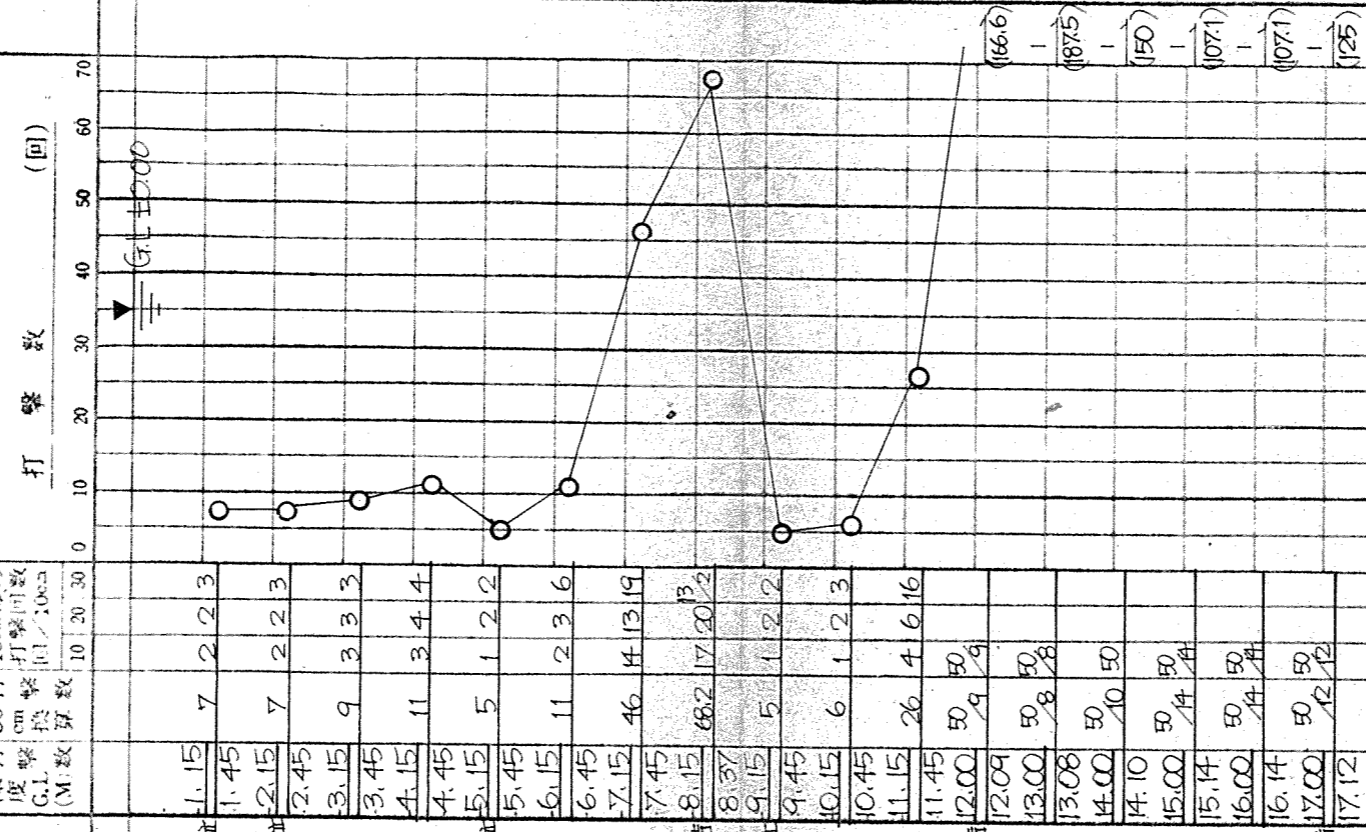
土質柱状図

No. 11

調査件名 (仮称) 南部清掃工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横濱市神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 8 日 ~ 昭和 55 年 9 月 9 日
 地盤高 12.658 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然孔内)
 使用機械 ロータリ-式 KR 100 孔径 66 %
 現場担当者

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對稠度	標準貫入試験	
										深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)
0	12.658	0.00			表	土	表層				
1	12.338	0.30	0.30	⊗	水	上	全般的にシルト主体の泥 (若干粘性土含む)	中位	1.15	7	2 2 3
2	11.758	0.90	0.60	⊗			全般的に硬質の泥 (粘性土主体の泥)	中位	2.15	7	2 2 3
3	9.858	2.80	1.90	⊗	腐植質粘土	黒	腐植質粘土 (腐植物片多量混入)	中位	3.15	9	3 3 3
4				⊗			全般的にシルト主体の泥 (加岩砕混入)	中位	4.15	11	3 4 4
5				⊗			6M 以内、腐植土混入	中位	5.15	5	1 2 2
6	6.458	6.20	3.40	⊗	岩砕混りシルト	暗青	全般的に硬質の泥 (岩砕混入)	中位	6.15	11	2 3 6
7	5.358	7.30	1.10	⊗	岩砕混り細砂	暗緑	全般的に硬質の泥 (岩砕混入)	中位	7.15	46	4 13 19
8	4.058	8.60	1.30	⊗	凝固シルト	暗緑	全般的に硬質の泥 (凝固シルト主体の泥)	中位	8.15	68.2	17 30 2
9	2.958	9.70	1.10	⊗	凝固シルト (硬化)	暗緑	全般的に硬質の泥 (凝固シルト主体の泥)	中位	9.15	5	1 2 2
10				⊗			全般的に硬質の泥 (シルト主体の泥)	中位	9.45	6	1 2 3
11	1.358	11.30	1.60	⊗	シルト混り岩砕	暗緑	全般的に硬質の泥 (シルト混り岩砕)	中位	10.15	26	4 6 16
12				⊗			全般的に硬質の泥 (平均した土層より、非常に硬い)	中位	11.15	50	50
13				⊗			全般的に硬質の泥 (平均した土層より、非常に硬い)	中位	12.00	50	50
14				⊗			全般的に硬質の泥 (平均した土層より、非常に硬い)	中位	12.09	50	50
15				⊗			全般的に硬質の泥 (平均した土層より、非常に硬い)	中位	13.00	50	50
16				⊗			全般的に硬質の泥 (平均した土層より、非常に硬い)	中位	13.08	50	50
17	4.462	17.12		⊗	泥	岩	全般的に硬質の泥 (平均した土層より、非常に硬い)	中位	14.00	50	50
18								中位	14.10	50	50
19								中位	15.00	50	50
								中位	15.14	50	50
								中位	16.00	50	50
								中位	16.14	50	50
								中位	17.00	50	50
								中位	17.12	50	50



土質柱状図

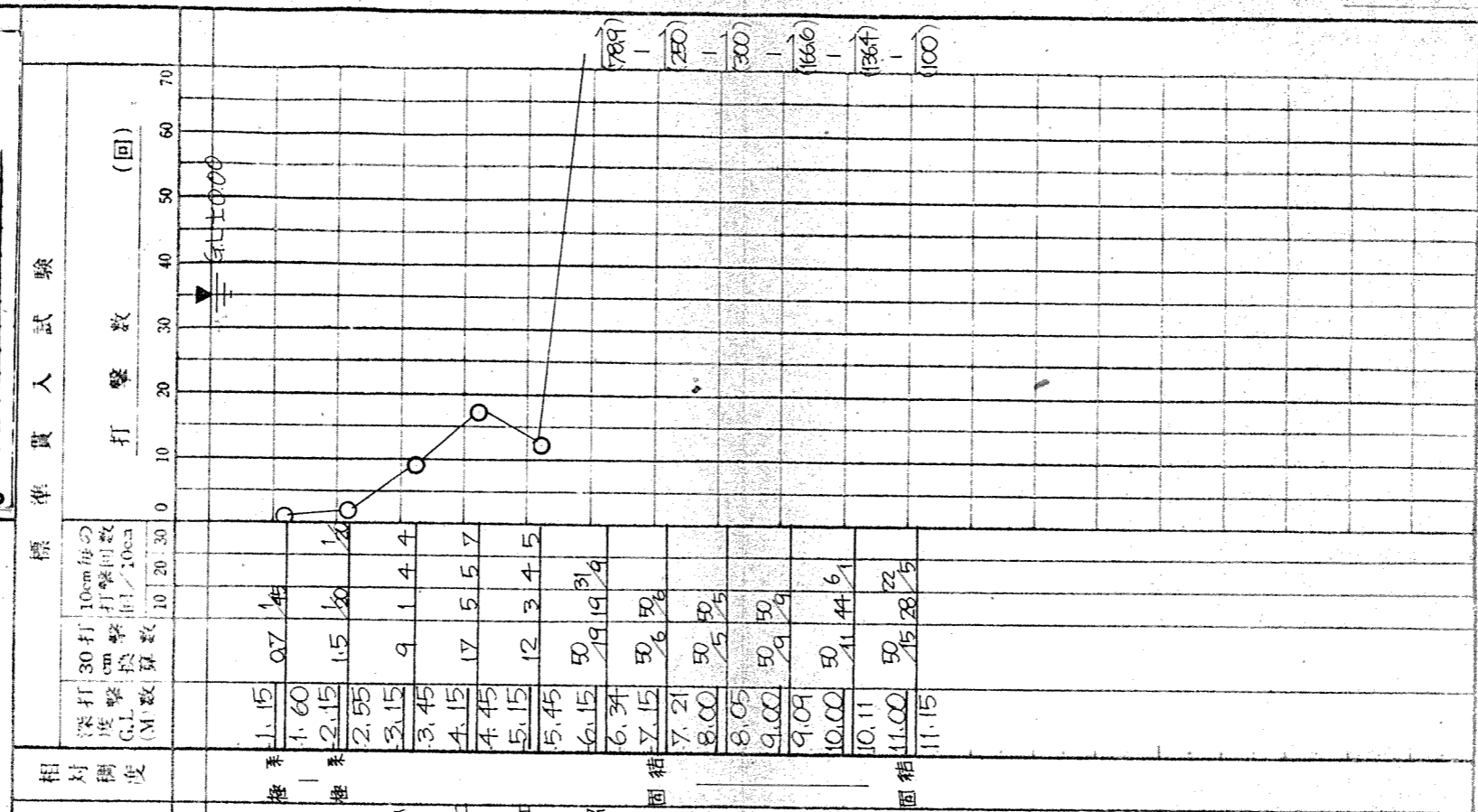
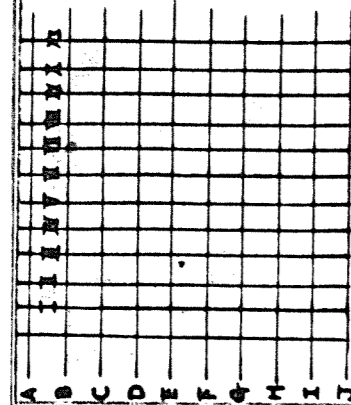
No. 12

調査件名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械

(仮称) 稲部有様工場建設敷地 地盤調査
機須賀市神明町 2187 地
昭和 55 年 9 月 8 日 ~ 昭和 55 年 9 月 8 日
標高 11.616 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然孔内)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 ㎜

現場担当者

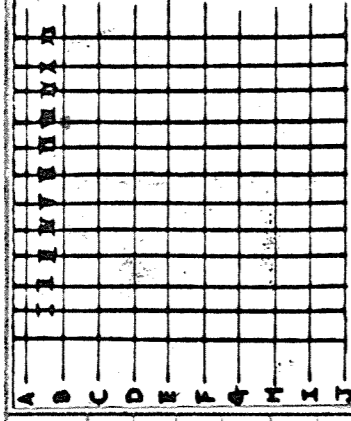
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験		
										深度撃撃回数の G.L. 数計算数 (M)	30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	10 20 30
0	11.616	0.00										
1	11.016	0.60	0.60	表	土 礫 混 入	灰 濁 灰	粘性土主体、草根等混入	推	推	0.7	1.4	
2	9.916	1.70	1.10	之	土 礫 混 入	土 黒	全般中にシルト主体と成し、腐植物極少量混入	推	推	2.15	1.5	1.4
3	8.866	2.75	1.05	岩 碎 混 入	岩 碎 混 入	暗 緑 灰	全般中にシルト主体と成し、岩碎少量混入			3.15	9	1.4
4	8.416	3.20	0.45	土 礫 混 入	土 礫 混 入	土 黒	腐植土主体と成し、腐植物、草根等混入			3.45	9	1.4
5							腐植土混入			4.15	17	5.5
6	5.316	6.30	3.10	岩 碎 混 入	岩 碎 混 入	細 砂 礫 混 入	全般に粗粒均一な細砂主体と成し、全般に岩碎混入、4M 付近に見積り混入			4.45	17	5.5
7							腐植土混入			5.15	12	3.4
8							全般に上部は若干酸化の進んだ土層の砂岩を採り、下部に於てスライム化がすすみキレがある			5.45	50	19
9										6.15	50	19
10										6.31	50	19
11	0.466	11.15		泥	泥	岩 礫 混 入				7.15	50	19
12										7.21	50	19
13										8.00	50	19
14										8.05	50	19
15										9.00	50	19
16										9.09	50	19
17										10.00	11	4.4
18										10.11	50	19
19										11.00	15	2.8
										11.15	50	19



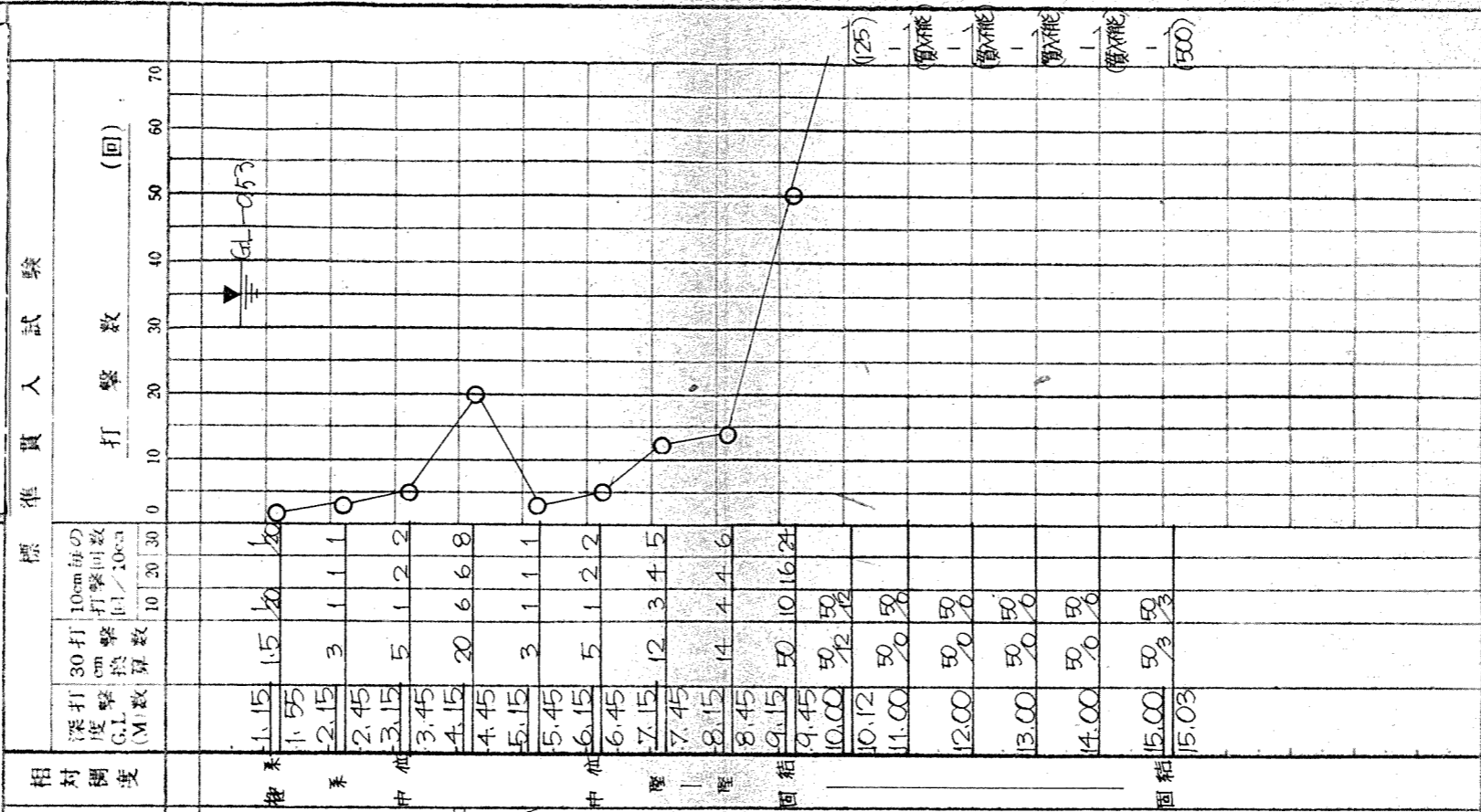
土質柱状図

№ 13

調査件名 (名称) 有部清掃工場建設敷地地質調査
 調査場所 櫻原新神町 2187 地
 調査期間 昭和 55年 9月 7日 ~ 昭和 55年 9月 7日
 地盤高 10.83 (M) 地下水位 G.L. - 0.53 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



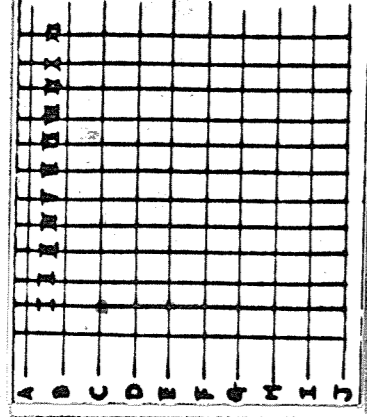
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30打 cm 換算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	10.83	0.00										
1	10.33	0.50	0.50	表	土 腐 褐	灰	粘性土主体 草根混入					
2	10.03	0.80	0.30	粘	土 腐	粘	粘着粘土 草根混入					
3	9.13	1.70	0.90	V X V	植	腐	腐植土主体 成土 固結不十分 含有有機物混入					
4	7.08	3.75	2.05	○	岩 碎 混リ	青	生肌状にシルト主体 成土 含有有機物混入 含有中					
5	5.13	5.70	1.95	○	岩 碎 混リ	青	シルト主体 成土 含有中 岩碎 55~15% 比重 4.0 付地 草根 少量混入 下部に微い砂質土 付混入					
6	3.93	6.90	1.20	○	岩 碎 混リ	青	シルト主体 成土 含有中 岩碎 55~10% 比重 4.0 付地 含有中					
7	2.18	8.65	1.75	○	固 結	緑	固結のシルト主体 成土 非常に硬い 固結土の面 である 砂質土 含有中					
8							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
9							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
10							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
11							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
12							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
13							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
14							上部がシルト主体 成土 含有中 固結土 含有中					
15	4.20	15.03			泥	岩 腐 緑	13M付地から 50cm位の 硬状の土質 固結 非常に硬い 固結土 含有中 固結土 含有中					
16												
17												
18												
19												



土質柱状図

No. 16

調査名 (仮称) 南部清掃工場建設敷地 地質調査
 調査場所 模範原花神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55年 8月 29日 ~ 昭和 55年 8月 29日
 地盤高 18.446 (M) 地下水位 G.L. ±0.00 (M) (自然(孔内))
 使用機械 ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



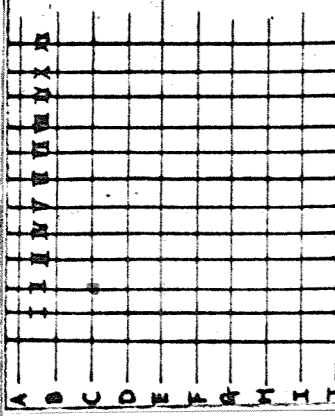
標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	土質 30打 10cm 長さの G.L. からの M 数 10 20 30	標準貫入試験		
										打撃数 (回)	回	
18.446	0.00	0.30	表土 (シルト)	黒	腐植物少量混り、含木で流重状				1.15	3	1	1
17.046	1.40	1.10	砂	黄	腐植物混入、粘性大、加岩砕少量混る	ゆるい			1.45	44	2	2
15.546	2.90	1.50	砕岩	黄	岩砕 (土中) 主体で細礫あり若干地水あり				2.49	3	1	1
13.776	4.65	1.75	粘土質シルト (粘)	黄	若干粘土混る				3.15	3	1	1
13.146	5.30	0.65	泥	黄	腐植物混入、加腐敗、青斑入り、固結状で硬い				3.45	3	1	1
									4.15	3	1	1
									4.45	3	1	1
									5.15	10	3	3
									5.45	44	1	2
									6.15	4	1	1
									6.49	4	1	1
									7.15	4	1	1
									7.45	6	2	2
									8.15	6	2	2
9.546	8.90	3.60	粘砂混り粘土質シルト (粘)	黄	腐植物混入、加腐敗、青斑入り、固結状で硬い				8.45	11	4	3
8.946	9.50	0.60	粘砂混り細砂 (粘)	黄	生植物の岩砕多量混る、細砂の細かい砂あり、粘りやすい				9.15	8	2	3
									10.15	8	2	3
									10.45	12	3	4
									11.15	12	3	4
									11.45	8	2	3
									12.15	9	2	3
									12.45	9	2	3
									13.15	10	2	3
									13.45	10	2	3
									14.15	12	3	4
									14.45	12	3	4
									15.15	10	3	3
									15.45	10	3	3
									16.15	18	5	6
									16.45	18	5	6
									17.15	20	6	7
									17.45	20	6	7
0.054	18.50	9.00	粘砂混りシルト (粘)	黄	非常に硬く貫入時、バカが落ち、シルトあり、工費材料細かく砕けて落ちてしまつた、粘り強い、5~10cm 柱状採取、固結状である				18.15	50	3	3
									18.45	50	3	3
									19.00	50	3	3
									19.03	50	3	3
									20.00	50	3	3
									20.03	50	3	3
									21.00	50	3	3
									21.03	50	3	3
									21.05	50	3	3
									22.00	50	3	3
									22.04	50	3	3
									23.00	50	3	3
									23.03	50	3	3
									23.05	50	3	3
									24.00	50	3	3
5.604	24.05		泥	黄					24.05	50	3	3

土質柱状図

17

調査名
調査場所
調査期間
調査地
使用機械
現場担当者

(仮称) 南都清浄工場建設敷地地質調査
 兵庫県神戸市神明町 2187 他
 昭和 55 年 8 月 28 日 ~ 昭和 55 年 8 月 29 日
 標高 18.425 (M) 地下水位(G.L.) ± 0.00 (M) (自標(凡内))
 ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



標尺	標高 (M)	G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対含水量	30打 10cm 毎の cm 打撃回数 M 計算数	10 20 30 打撃回数 M 計算数	標準貫入試験 打撃数 (回)
0	18.425	0.00	0.30		土	黄	交流状で硬質あり、含木			1.15	3	1 1 1 1 1
1	18.125	0.30	1.00		土	黄	細い岩砕少量混る 若干粘土混る、腐植物混入			1.45	1.9	1 6 4
2	17.125	1.30	1.00	0.00 0.00 0.00 0.00	岩		岩砕主体で非常に細かい 全体的に細かく 5~20% 位 若干透水見られる			2.46	1.9	1 4 4
3	15.425	3.00	1.70	0.00 0.00	岩		加粘着力大なる 腐植物混入			4.15	3	1 1 1 1 1
4							加粘着力の岩砕(青灰)混る			4.45	3	1 1 1 1 1
5							黒色の腐植土混り 粘土混る			5.15	3	1 1 1 1 1
6										5.45	3	1 1 1 1 1
7	11.625	6.80	3.80		粘土復元土	黄				7.15	8	4 2 2 2
8							腐植物混入 下部に硬い岩砕多 量混入 (約 5~80%)			7.45	6	2 2 2 2
9				200, 200			加腐植と青灰のミル斑状 に入り包み込む			8.15	6	2 2 2 2
10										8.45	6	2 2 2 2
11	7.675	10.75	3.05		岩砕混り土	黄				9.15	6	2 2 2 2
12							層状粘土混入 加粘着混る			9.45	9	3 3 3 3
13							腐植物混入			10.15	7	3 2 2 2
14				0% 20%			加粘着混入			11.15	8	3 2 3
15							岩砕(土中)下部に硬い い多く混る。約 5~90% 位 腐植物、糞混る			12.15	9	3 3 3 3
16							硬、軟の差大きい(岩砕)			13.15	7	3 2 2
17	1.925	16.50	5.75		岩砕混り土	黄				14.15	8	2 3 3
18							腐植、腐植物混入 加粘着多(約 20~30% 位 ある)			15.15	9	3 3 3 3
19				0% 20%			含砂 崩壊しやすい			16.15	6	2 2 2 2
20							土中(岩砕)及、粘石の 岩砕多混る			17.15	6	2 2 2 2
21							若干粘性あり			18.15	8	3 3 2 2
22										19.15	6	2 2 2 2
23	4.525	22.95	6.45		岩砕混り土	黄				20.15	6	2 2 2 2
24							固結状態で硬い。 キレが多い			21.15	8	3 3 2 2
25							算入時バグダする コア試料細かく砕けて 溜りてしま)			22.15	6	2 2 2 2
26							加酸化されている			23.00	50/6	50/6
27										23.00	50/5	50/5
28	9.605	28.03			泥	黄				24.05	50/3	50/3
29										25.00	50/3	50/3
										26.00	50/5	50/5
										27.03	50/3	50/3
										28.00	50/3	50/3
										28.03	50/3	50/3

(250) (300) (300) (300) (300) (300)

土質柱状図

№ 18

調査名

(仮称)南都清掃工場建設敷地地質調査
機原原沖神田町 2187 地

調査場所

昭和 55 年 9 月 11 日 ~ 昭和 55 年 9 月 12 日

調査期間

標高 17.853 (M) 地下水(G.L) ±0.00 (M) (自然孔)

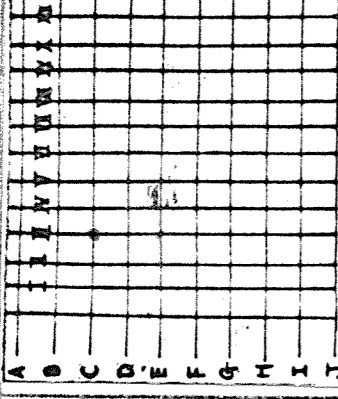
地盤高

ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm

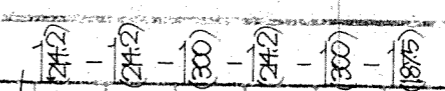
使用機械

ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm

現場担当者



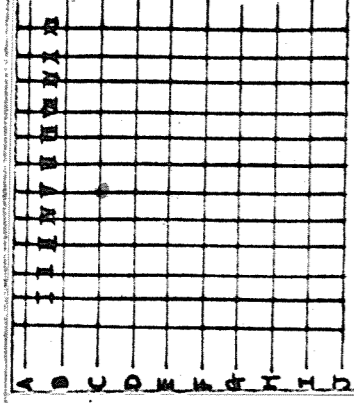
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験
0	17.853	0.00	0.30	表	土	黄	シルト主体、草根少量混入 要受領			深打 30打 10cm毎の 標準貫入試験 M 数取替数 10 20 30 6
1	17.553	0.30	0.30		シルト	黄	粘着大、腐植物混入 細砂、若碎多量混入	1.15	3	1 1 1
2	16.153	1.70	1.40		シルト 復 粘 土	黄	青灰の若碎多量混入	2.15	9	4 2 3
3	15.053	2.80	1.10		岩 碎 混リ ラル ト 粘 土	黄	若干粘土有り、腐植物混入	3.15	19	18 13
4	11.253	6.60	3.80		シルト 復 粘 土 混	黄	腐植土混りの粘土でか 粘性大、光沢あり 腐植物多量混入 含まれ 細砂混入	4.15	17	18 17
5	8.953	8.90	2.30		粘 土 復 ラ ル ト 混 濁 灰	黄	シルト混入、若碎多量混入 腐植物多量混入 8M付近、黒灰のシルトで 腐植物多量混入	5.15	09	
6							腐植土中量混入 若碎多量混入	6.15	17	14 15
7							11M 若碎多量混入 木片腐植土混入	7.15	18	17 16
8							11.70M 付近、黒灰 12~14M 付近、不熟土混入 (若碎をばね先端で押し下す) (泥水かき、腐植物、 若碎の粗く砕けたものが 含まれる)	8.15	19	18 13
9							含まれ 腐植物多量混入	9.15	6	2 2 2
10							16M 付近、若碎多量混入 腐植物多量混入	10.15	8	2 3 3
11							腐植土中量混入 若碎多量混入	11.15	16	5 6 5
12							腐植土中量混入 若碎多量混入	12.15	3	1 1 1
13							腐植土中量混入 若碎多量混入	13.15	26	12 12 11
14							腐植土中量混入 若碎多量混入	14.15	3	1 1 1
15							腐植土中量混入 若碎多量混入	15.15	28	12 1 1
16							腐植土中量混入 若碎多量混入	16.15	14	5 4 5
17	1.053	16.80	7.90		岩 碎 混リ ラル ト 粘 土	黄	上部土中非常に硬く 掘進困難 コア試料と5cm位の入り くる(コアが裂ける) 18.80M 付近、粘土主体となる コア試料形状を保つ 最長 7cm 位のものを 手で割で硬い 貫入時最初 0~3cm 付近 までは、バネが引	17.07	50	50 7
18								18.00	50	50 7
19								18.07	50	50 5
20								19.00	50	50 5
21								20.00	50	50 7
22	1.227	22.08			泥	黄		20.07	50	50 5
23								21.00	50	50 5
24								21.05	50	50 8
25								22.00	50	50 8
26								22.08		



土質柱状図

№ 19

調査件名 (仮称) 南郷清掃工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 榎原賀花神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 8 月 26 日 ~ 昭和 55 年 8 月 27 日
 地盤 標高 13.243 (M) 地下水位 G.L. - 0.58 (M) (自然[17])
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現地担当者



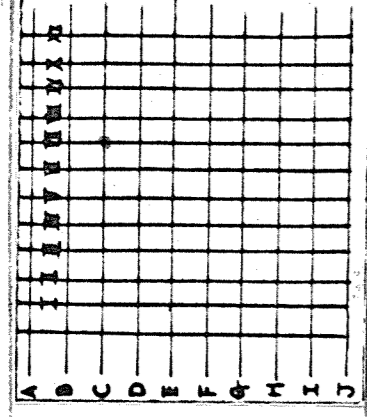
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験 30打 10cm 毎の 吹下り数 吹下り回数 10cm M 数算数 10 20 30	打撃数 (回)
0	13.243	0.00									
1	12.443	0.80	0.80	埋	土層	灰	粘土、石灰質の埋土 量多、粘り強い			1.15	28
2	10.793	2.45	1.65	シルト復粘	粘土	灰	埋土層の粘土で 粘着が大きい			1.47	12
3							腐植物混入			2.15	3
4							含砂多、粘り強い			2.45	3
5							腐植物混入			3.15	3
6							粘り強い			3.45	3
7	5.793	7.45	5.00	シルト復粘	粘土	灰	粘り強い 下部に砂の多い層がある 色調不均一			4.15	19
8							土中埋立物の岩片がある			4.46	16
9							長繊維状の粘土			5.15	3
10							長繊維状の粘土			5.45	3
11							長繊維状の粘土			6.15	21
12							長繊維状の粘土			6.45	4
13							長繊維状の粘土			7.15	6
14							長繊維状の粘土			7.45	2
15							長繊維状の粘土			8.15	9
16							長繊維状の粘土			8.45	2
17							長繊維状の粘土			9.15	12
18							長繊維状の粘土			9.45	3
19							長繊維状の粘土			10.15	10
20							長繊維状の粘土			10.45	3
21							長繊維状の粘土			11.15	12
22							長繊維状の粘土			11.45	3
23							長繊維状の粘土			12.15	10
24							長繊維状の粘土			12.45	3
25							長繊維状の粘土			13.15	13
26							長繊維状の粘土			13.45	4
27							長繊維状の粘土			14.15	7
28							長繊維状の粘土			14.45	3
29							長繊維状の粘土			15.15	10
30							長繊維状の粘土			15.45	3
31							長繊維状の粘土			16.15	4
32							長繊維状の粘土			16.45	4
33							長繊維状の粘土			17.15	14
34							長繊維状の粘土			17.45	5
35							長繊維状の粘土			18.15	3
36							長繊維状の粘土			18.45	10
37							長繊維状の粘土			19.15	7
38							長繊維状の粘土			19.45	3
39							長繊維状の粘土			20.15	13
40							長繊維状の粘土			20.45	3
41							長繊維状の粘土			21.00	50
42							長繊維状の粘土			21.10	10
43							長繊維状の粘土			22.00	50
44							長繊維状の粘土			22.06	50
45							長繊維状の粘土			23.00	50
46							長繊維状の粘土			23.07	50
47							長繊維状の粘土			24.00	50
48							長繊維状の粘土			24.06	50
49							長繊維状の粘土			25.00	50
50							長繊維状の粘土			25.04	50
51							長繊維状の粘土			26.00	50
52							長繊維状の粘土			26.03	50

(150) (250) (24.2) (250) (275) (500)

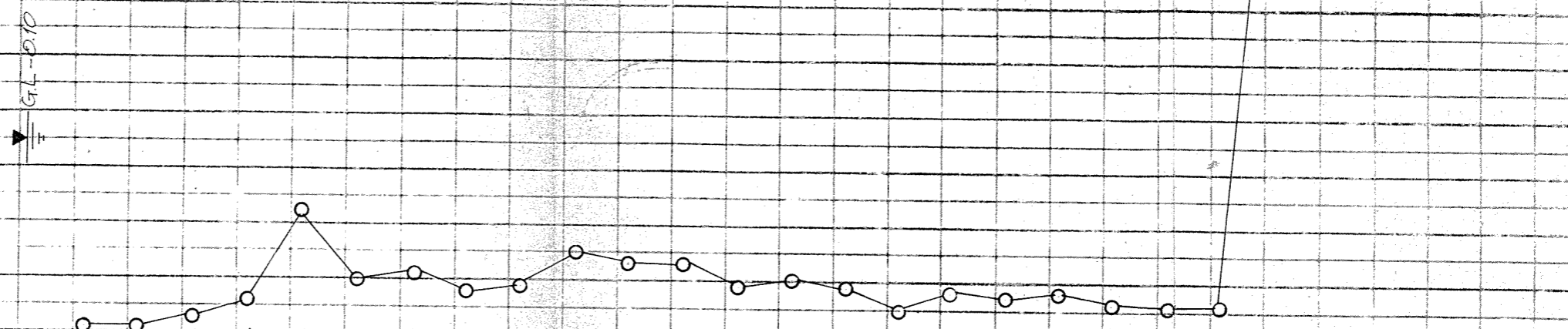
土質柱状図

No. 20

調査員名 (株) 南都清理工場建設敷地 地質調査
 調査場所 機復原市神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 8 月 25 日 ~ 昭和 55 年 8 月 25 日
 地盤高 11.015 (M) 地下水位 G.L. - 0.10 (M) (自然[土内])
 使用機械 ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



標尺 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標	標準貫入試験
									深打 30 打 10cm 毎の 地盤 打撃回数 G.L. 換算数 10 20 30	打撃数 (回)
0	11.015	0.00								
1	9.865	1.15	埋	土層	灰	6L~0.30M 砂が主体 0.30~粘土、シルト混り	極	系	1.15	0.9
2				稍	灰	1M 付近、青灰のシルトで 腐植物混入	極	系	1.48	1
3	7.565	3.45		粘土復元	黒	1.50M 付近腐植土が混る 細かい土層若干混る	系	系	2.46	3
4	6.415	4.60		岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	3.45	1
5	5.215	5.80		岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	4.15	6
6				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	4.45	2
7				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	5.15	22
8				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	5.45	7
9				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	6.15	10
10	1.265	9.75		岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	6.45	3
11				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	7.15	11
12				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	7.45	3
13				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	8.15	2
14				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	8.45	3
15				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	9.15	9
16				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	9.45	3
17				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	10.15	15
18				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	10.45	5
19				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	11.15	13
20				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	11.45	4
21				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	12.15	13
22				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	12.45	3
23				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	13.15	9
24				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	13.45	3
25				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	14.15	10
26				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	14.45	3
27				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	15.15	9
28				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	15.45	3
29				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	16.15	47
30				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	16.47	2
31				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	17.15	8
32				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	17.45	2
33				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	18.15	7
34				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	18.45	2
35				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	19.15	8
36				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	19.45	2
37				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	20.15	6
38				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	20.45	2
39				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	21.15	5.6
40				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	21.47	15
41				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	22.15	6
42				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	22.45	2
43				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	23.15	50
44				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	23.25	10
45				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	24.00	50
46				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	24.07	7
47				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	25.00	50
48				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	25.06	6
49				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	26.00	50
50				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	26.07	4
51				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	27.00	50
52				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	27.07	7
53				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	28.00	50
54				岩砕	黒	粘土層の混り、土層の混り 5~10% 程度の 含まれ、腐植物混る	中	中	28.01	1

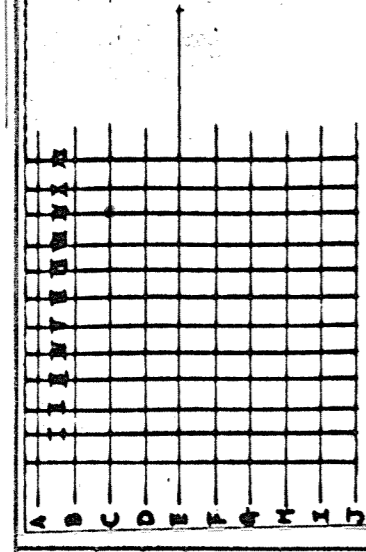


(150) (242) (250) (375) (242) (150)

土質柱状図

No. 21

調査件名 (仮称) 京都清掃工場 建設敷地 地質調査
 調査場所 櫻葉市中神町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 8 月 24 日 ~ 昭和 55 年 8 月 24 日
 地盤高 標高 9.351 (M) 地下水位 G.L. - 0.78 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター一式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

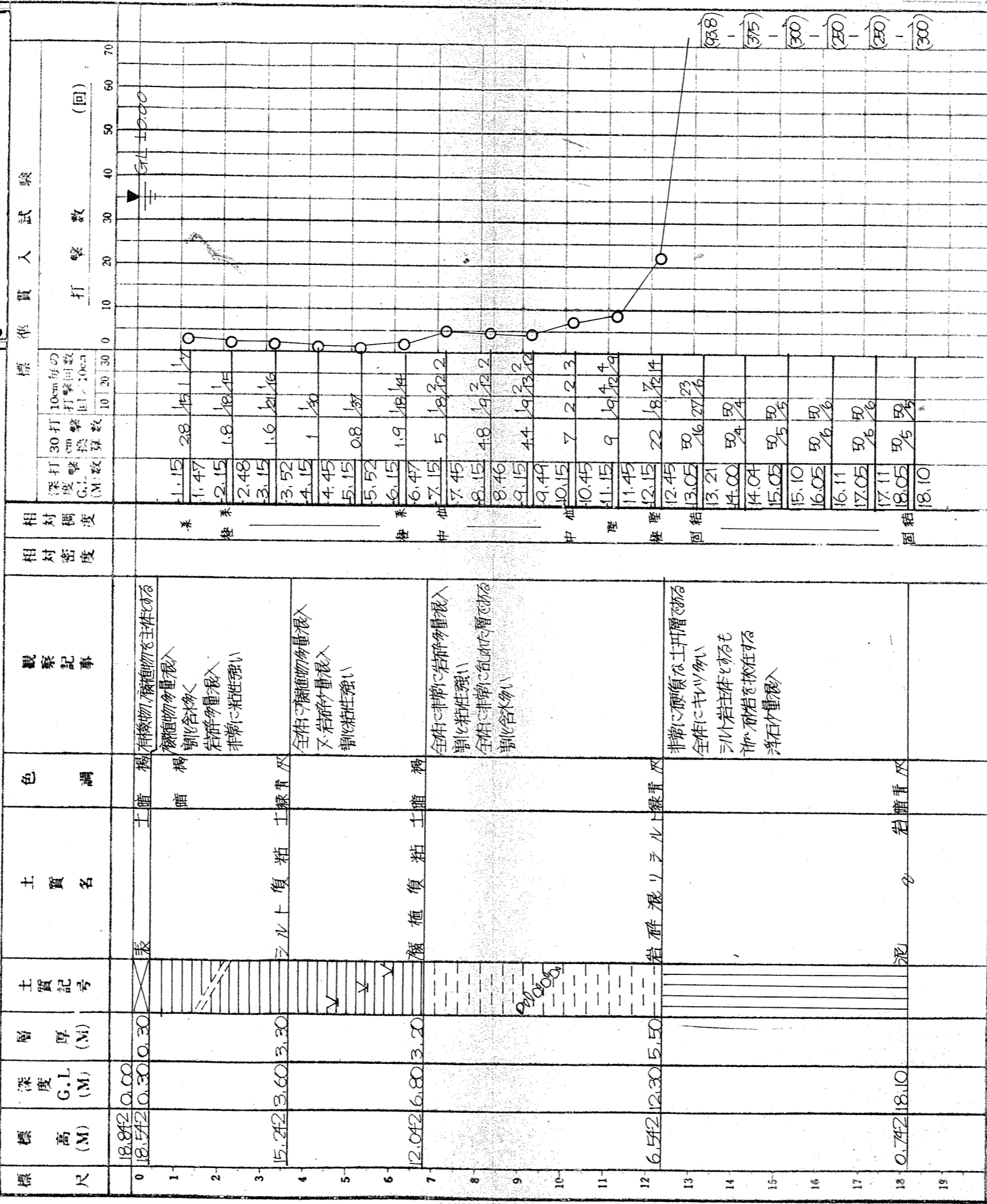
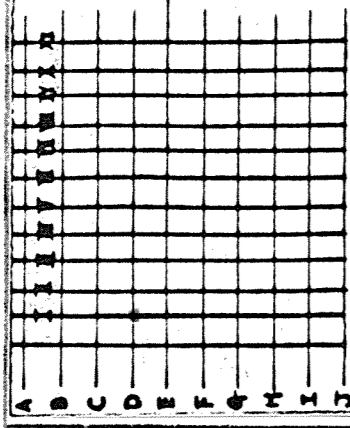


標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験									
										深打 G.L. (M)	30打 cm 撃換算数	10cm 毎の 打撃回数 / 10cm	打撃数 (回)						
0	9.351	0.00																	
1	8.651	0.70	0.70	粘	土質	灰	草根多量混る。油漬の大量植物混る	粘	粘	1.15	1.9	18	18						
2	7.751	1.60	0.90	粘土混り腐植土	土質	黒	腐植物多量混る。含水大。細粒の粘土	粘	粘	2.15	5	1	2						
3	6.751	2.60	1.00	砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	3.00	50	50	50						
4	5.551	3.80	1.20	砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	3.07	18	5	6						
5	4.551	4.80	1.00	砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	4.15	15	4	5						
6				砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	4.45	13	4	4						
7				砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	5.15	14	4	5						
8	1.801	7.55	2.75	細砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	6.45	50	50	50						
9	0.651	8.70	1.15	砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	7.15	45	8	12						
10	0.249	9.60	0.90	砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	8.00	50	50	50						
11				砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	9.30	50	50	50						
12				砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	10.00	50	50	50						
13				砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	10.06	50	50	50						
14				砂	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	11.00	50	50	50						
15	5.719	15.07		泥	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	11.10	50	50	50						
16				泥	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	12.00	50	50	50						
17				泥	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	12.15	50	50	50						
18				泥	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	13.00	50	50	50						
19				泥	土質	灰	腐植物多量混る。岩屑の点在。硬質。腐植物多量混る。団粒状で土質を保持。細粒の粘土。色調不均一。	粘	粘	13.13	50	50	50						

土質柱状図

No. 22

調査件名	(仮称) 霞浦清浄工場建設敷地 地盤調査		
調査場所	機頭原市神明町 2187 他		
調査期間	昭和 55年 9月 2日 ~ 昭和 55年 9月 2日		
地盤高	標高 18.842 (M)	地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然孔内)	
使用機械	ロータリー式 KR 100	孔径 66 mm	
現場担当者			

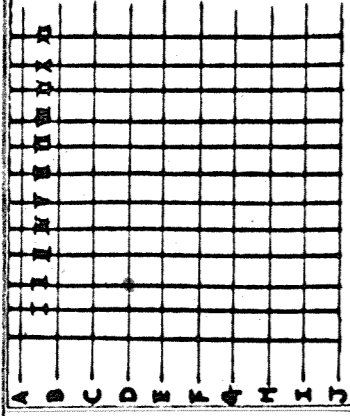


(328) - (375) - (300) - (250) - (250) - (300)

土質柱状図

No. 23

調査件名	(株) 直営清屋工場建設敷地 地復調査		
調査場所	機原宿市神田町 287 地		
調査期間	昭和 55 年 9 月 1 日 ~ 昭和 55 年 9 月 2 日		
地盤高	標高 18.481 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然孔内)		
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 %		
現場担当者			



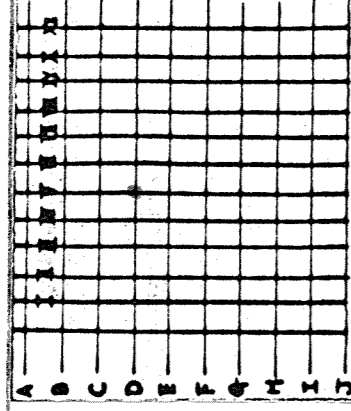
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験			
										深打 30 打 cm 撃算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)	
0	18.481	0.00											
1	18.081	0.40	0.40	⊗	表土(有機土)層	黄	腐植物、有機物を主成分とする 少量の腐植物と岩屑を混入				2	18	12
2	16.981	1.50	1.10	⊗	シルト復粘土層	灰	塑性が強い 全体に腐植物多量混入 又、岩屑多量混入 郭化含有物あり				26	15	18
3				⊗							27	15	18
4				⊗							16	22	16
5				⊗							14	15	19
6	12.581	5.00	4.40	⊗	腐植復シルト層	褐	腐植物多量混入 又、岩屑多量混入 非常に乱れた層である 郭化含有物あり				09	32	
7				⊗							2	18	12
8				⊗							28	16	16
9	9.281	9.20	3.30	⊗	岩屑復りシルト層	灰	硬質な土層である 全体に泥石多量混入 非常にキレが強い シルト岩の崩れによる互層である				40	5	15
10				⊗							50	33	23
11				⊗							50	11	42
12				⊗							50	8	50
13				⊗							50	8	50
14				⊗							50	5	50
15	3.411	15.07		⊗	泥	灰					50	7	50
16													
17													
18													
19													

(154) - (1364) - (1875) - (1875) - (300) - (2442)

土質柱状図

№ 20

調査件名 (仮称) 新設番付工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 287 他
 調査期間 昭和 55 年 8 月 28 日 ~ 昭和 55 年 8 月 28 日
 地盤高 12.872 (M) 地下水位 G.L. - 0.74 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



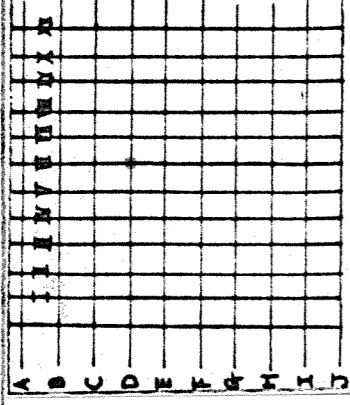
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験											
										深度 G.L. (M)	30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)									
0	12.872	0.00																			
1	12.272	0.60	0.60	表	土層	灰	多量の干草の根の混入			1.15	25	1	15	11							
2				Y Y Y			腐植物少量混入 粘性強			1.15	19	18	14								
3	10.072	2.80	2.20	Y Y Y	植	褐	腐植物少量混入 粘性強			2.47	1	1	1								
4	8.772	4.10	1.30	Y Y Y	植	褐	腐植物少量混入 粘性強			3.45	1	1	1								
5	7.372	5.50	1.40	Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			4.15	0.7	1	1								
6				Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			4.60	20	5	7	8							
7				Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			5.45	41	7	13	21							
8				Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			6.15	50	18	20	28							
9				Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			6.45	50	18	20	28							
10				Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			7.15	50	18	20	28							
11				Y Y Y	泥	灰	腐植物少量混入 粘性強			7.33	50	18	20	28							
12	0.722	12.15		泥	岩	緑青	非常に硬質の岩である シルト質の岩の互層である 全層に浮石が混入 非軟にキヤクが多い			8.15	50	18	20	28							
13										8.24	50	18	20	28							
14										9.05	50	18	20	28							
15										9.17	50	18	20	28							
16										10.05	50	18	20	28							
17										10.18	50	18	20	28							
18										11.05	50	18	20	28							
19										11.16	50	18	20	28							
										12.05	50	18	20	28							
										12.15	50	18	20	28							

63.9
166.6
125
115.4
136.4
150

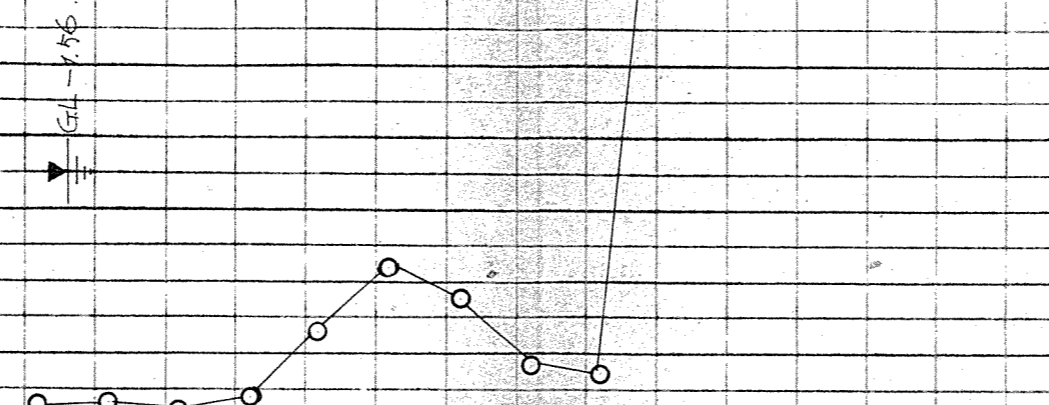
土質柱状図

No. 27

調査件名 (株) 前部清理工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 8 月 27 日 ~ 昭和 55 年 8 月 27 日
 地盤高 標高 12.256 (M) 地下水位 G.L. - 1.56 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



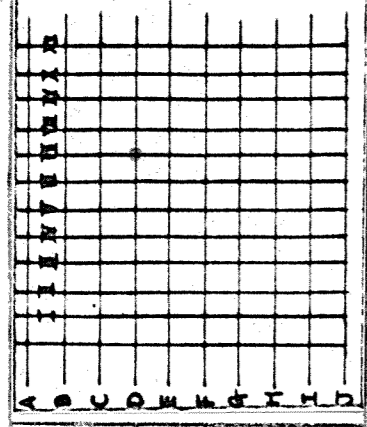
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										30打 10cm 毎の 打撃回数 (M) 数	10, 20, 30 打撃回数 (M) 数	打撃数 (回)
0	12.256	0.00										
1	10.556	1.70	1.70		土層		草根多量混入 上部で破れ混入 粘り多量混入	1.15 1.49	27 16	11 8		
2							割れ孔の層である 全体に腐植物多量混入 非粘に粘性強い	2.15 2.45	3 13	11 7		
3								3.15 3.50	17 18	18 17		
4	7.656	4.60	2.90		粘り混りシルト質粘土層		全層に非粘に多量の岩屑混入 上部で若干破れ混入 下部で長線状多量混入	4.15 4.45	4 13	11 5	29 3	
5								5.15 5.45	13 22	5 6	5 7	
6								6.15 6.45	18 18	5 6	6 7	
7								7.15 7.45	18 85	5 2	6 3	
8	4.256	8.00	3.40		粘り混りシルト層		全体に多量の長線状を集中 的に混入 割れを含む	8.15 8.47	7 7	18 2	2 4	
9	2.756	9.50	1.50		粘り混り砂質シルト層		9.50~10.20M 付近 互層化の進んだ粗砂である 全体に粘り多量混入	9.15 9.45	10 11	10 10	10 10	
10								10.15 10.26	11 10	10 10	10 10	
11								11.00 11.10	10 10	10 10	10 10	
12							シルト質と砂質の互層状である 非粘に硬質である 非粘にシルトが多い	12.15 12.29	14 10	10 10	10 10	
13								13.15 13.34	10 12	10 10	10 10	
14								14.00 14.12	12 10	10 10	10 10	
15	2.844	15.10			泥			15.05 15.10	15 5	10 5	10 5	



土質柱状図

46 28

調査員名 (仮称) 南都清掃工場 建設敷地 地質調査
 調査場所 機原復元神町 2187 地
 調査期 昭和 55 年 8 月 25 日 ~ 昭和 55 年 8 月 26 日
 地盤高 10.873 (M) 地下水位 G.L. - 0.94 (M) (自然凡内)
 使用機械 回転式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



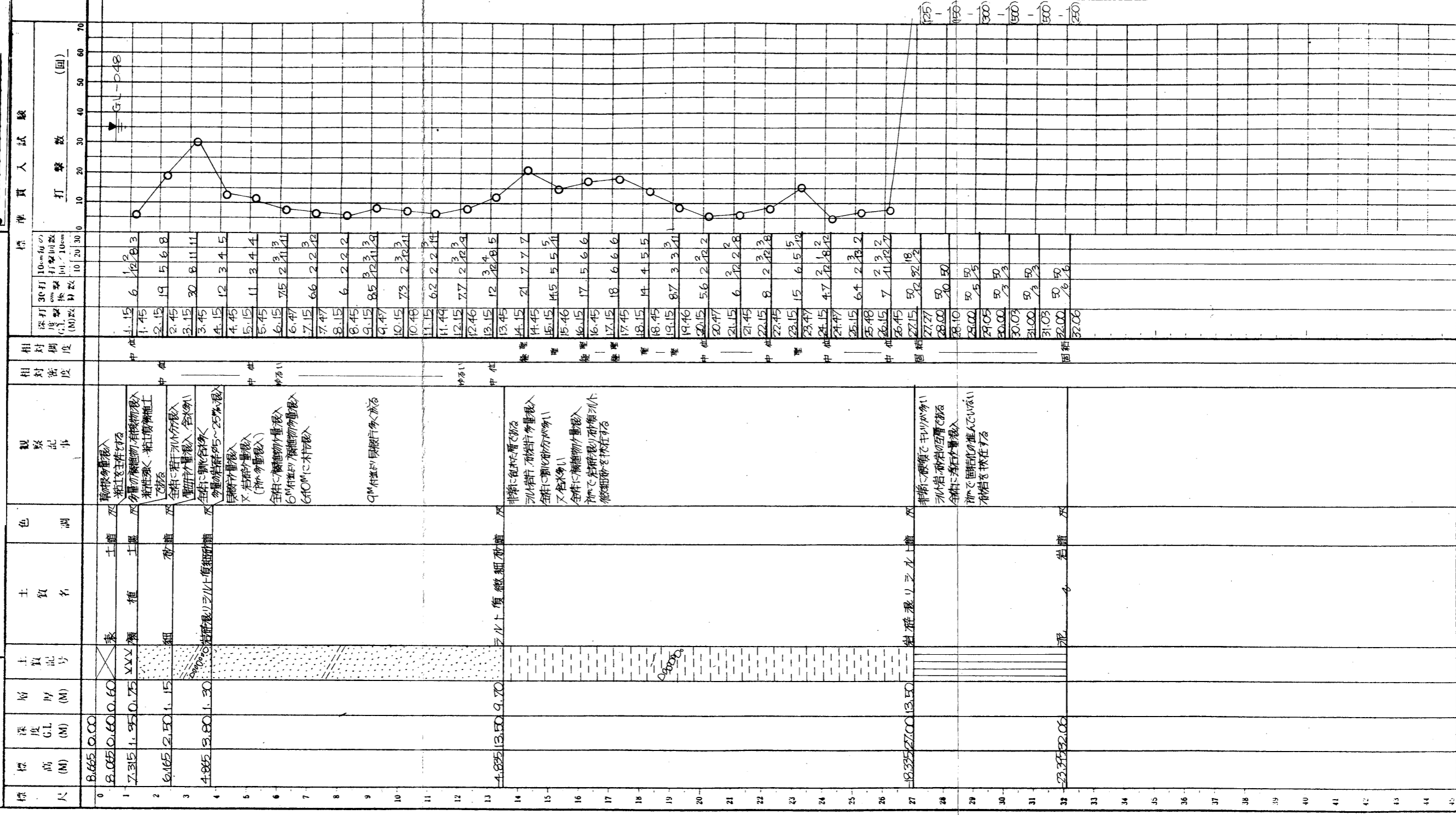
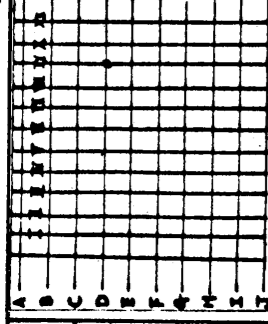
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験 深打 30 打 10cm 毎の G.L. 換算 回 10cm M 数算数	打撃数 (回)
0	10.873	0.00									
1	9.373	1.50	1.50	埋	土層		上部草の根、竹の根混入 又、礫、コケル、土層混入 以下、粘性土を主体とする 全体的に腐植物少量混入 岩砕少量混入 腐植物粘土の層がある 細砂を主成分とした中に粘土がある	1.15 1.51 2.15 2.48 3.15 3.45 4.15 4.45 5.15 5.45 6.15 6.45 7.15 7.46 8.15 8.45 9.15 9.45 10.15 10.47 11.15 11.45 12.15 12.45 13.15 13.45 14.15 14.45 15.15 15.50 16.15 16.46 17.15 17.47 18.15 18.45 19.15 19.23 20.00 20.11 21.00 21.09 22.00 22.08 23.00 23.09 24.00 24.10	17/26 14/19 2/6 2/4 27/10 25/8 13/4 10/6 24/20 2/3 2/2 2/2 2/3 4/4 3/3 3/4 2/2 2/2 2/3 4/4 3/3 2/3 3/4 1/2 2/15 2/16 2/16 2/16 5/8 5/9 5/8 5/9 5/8 5/9 5/10 5/10		
2	5.973	4.90	3.40	粘	土層	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
3	5.473	5.40	0.50	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
4	2.373	0.50	3.10	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
5	1.473	9.40	0.90	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
6	0.627	1.50	2.10	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
7	3.827	4.70	3.20	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
8	6.227	7.10	2.40	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
9	8.127	9.00	1.90	粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			
10	13.227	24.10		粘	粘土	褐色	粘土、粘質土の層である 塑性粘土の層である アム付並の長線行の混入 全体的に岩砕少量混入 塑性粘土が多い	中位			

(1875) - (1944) - (166.6) - (1875) - (166.6) - (150)

土質柱状図

図 30

調査件名	(仮称) 南能登町工場敷地地盤調査		
調査場所	機張浦池畔町 2187 地		
調査期間	昭和 55 年 8 月 24 日 ~ 昭和 55 年 8 月 25 日		
地盤高	0.665 (M)	地下水位 G.L. - 0.48 (M) (自然[内])	
使用機械	ロータリー式	KR 100 孔径 66 mm	



土質柱状図

No. 32

調査件名

調査場所

調査期間

地盤高

使用機械

現場担当者

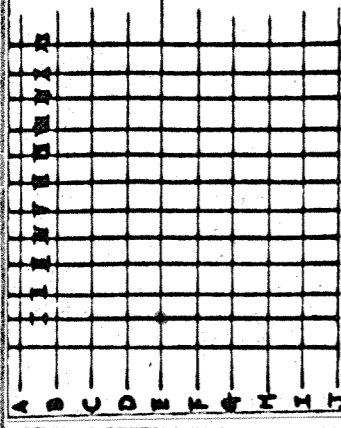
(仮称) 龍野青森工場建設敷地 地盤調査

龍野市油井町 287 他

昭和 55 年 9 月 3 日 ~ 昭和 55 年 9 月 4 日

標高 22.727 (M) 地下水位 G.L. - 1.48 (M) (自然孔内)

ロータリー式 KR 100 孔径 66 %



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験			
										深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 G.L. (M) 数	換算数	打撃数 (回)	
0	22.727	0.00	0.50	表	土	褐色	木の根、草の根、竹の根混入	中	1.15	55	18	2	3
1	22.227	0.50	0.50				全体に腐植物多量混入 加で腐植物粘土である	中	1.48	37	28	4	
2							全体に粘り強土である	中	2.15	37	28	4	
3							下部で腐植物粘土となる	中	2.47	27	15	1	8
4	18.227	4.50	4.00		シルト質粘土	褐色		中	3.15	27	15	1	8
5								中	3.49	3	13	9	1
6								中	4.15	3	13	9	1
7								中	4.45	3	13	9	1
8								中	5.15	28	14	1	8
9								中	5.47	28	14	1	8
10								中	6.15	39	1	13	2
11	11.227	11.50	7.00		岩砕混りシルト質粘土	暗褐色	全体に岩砕多量混入 非常に粗い層である 6M 付近より緑泥状土 岩砕多量混入	中	6.46	7	2	2	3
12								中	7.15	7	2	2	3
13								中	7.45	5	18	2	2
14								中	8.15	6	22	2	8
15								中	8.45	5	18	2	2
16								中	9.15	5	18	2	2
17	5.617	17.05			泥	灰	非常に硬質 シルト質泥岩を主体とするも 加で破砕(硬岩)の多い所 が認められる 非常にシルトが多い	固	9.45	9.4	3	4	12
18								固	10.15	4.7	18	4	2
19								固	10.47	4.7	18	4	2
								固	11.15	50	6	6	
								固	11.47	50	6	6	
								固	12.05	50	6	6	
								固	12.11	50	6	6	
								固	13.05	50	4	4	
								固	13.09	50	5	5	
								固	14.05	50	5	5	
								固	14.10	50	3	3	
								固	15.05	50	3	3	
								固	15.08	50	4	4	
								固	16.05	50	4	4	
								固	16.09	50	5	5	
								固	17.00	50	5	5	
								固	17.05	50	5	5	

G.L. - 1.48

(250) (375) (300) (500) (375) (250)

土質柱状図

№ 33

調査件名 (株) 建設現場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 3 日 ~ 昭和 55 年 9 月 3 日
 地盤高 19.93 (M) 地下水位 G.L. - 4.25 (M) (自然孔内)
 使用機械 ロータリ一式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	深打度 G.L. (M) 数	30打換算数	10cm 毎の打撃回数 / 10cm	標準貫入試験 (回)
0	19.93	0.00			土	黄	粘粉物混入		固結	1.15	43	14	14
1	18.93	1.00	1.00	表	土	黄	上部で固化的な堆積物が多い 全体に非常にキレが多い 硬質			2.45	50	29	21
2							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			2.28	50	29	21
3							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			3.05	50	29	21
4							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			3.14	50	29	21
5							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			4.05	50	29	21
6							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			4.12	50	29	21
7	12.82	7.06		泥	粘粉物	黄			固結	6.11	50	29	21
8										7.00	50	29	21
9										7.06	50	29	21
10													

土質柱状図

№ 34

調査件名 (株) 建設現場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 7 日 ~ 昭和 55 年 9 月 7 日
 地盤高 26.445 (M) 地下水位 G.L. (M) (自然孔内)
 使用機械 ロータリ一式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	深打度 G.L. (M) 数	30打換算数	10cm 毎の打撃回数 / 10cm	標準貫入試験 (回)
0	26.445	0.00			土	黄	粘粉物混入		固結	1.15	19	5	6
1	25.845	0.60	0.60	表	土	黄	上部で固化的な堆積物が多い 全体に非常にキレが多い 粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			2.45	49	14	16
2							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			2.45	50	29	21
3							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			3.05	50	29	21
4							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			3.13	50	29	21
5							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			4.05	50	29	21
6							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			4.17	50	29	21
7							粘粉物が多い (砕岩) 所 水質			5.05	50	29	21
8	18.305	8.14		泥	粘粉物	黄			固結	6.18	50	29	21
9										7.05	50	29	21
10										8.05	50	29	21

土質柱状図

調査件名: 35
 調査場所: (仮称) 前部清掃工場建設敷地 地質調査
 調査期間: 昭和 55 年 9 月 6 日 ~ 昭和 55 年 9 月 7 日
 地盤高: 13.813 (M) 地下水位 G.L. - 1.70 (M) (自然孔内)
 使用機械: ロータリ式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者:

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對稠度	標準貫入試験		
										深打 30打 10cm 毎の 打撃回数 / 10cm (M) 数	換算数	打撃数 (回)
0	13.813	0.00										
1	13.263	0.55	0.55	表	土層		草木根等混入			1.15	48	12.16.20
2	11.73	2.10	1.55		風化 泥 岩		1.50M 付近にて若干地味あり 上部風化強く、若干の粗粒化を呈す			2.15	50	23.27
3							3.00~3.50M 間、シルト等 若干あるが、含水多し			3.15	50	50
4							粘土粘結性有る 土質シルト等、礫状にて 採取する			3.20	50	50
5										4.15	50	50
6										4.23	50	50
7							粘土粘結性有る 下部に 100 粒位のエア- ヒューズ 含まれ			5.15	50	50
8	5.613	8.20			泥					5.21	50	50
9										6.15	50	50
10										6.20	50	50
										7.15	50	50
										7.20	50	50
										8.15	50	50
										8.20	50	50

土質柱状図

調査件名: 36
 調査場所: (仮称) 前部清掃工場建設敷地 地質調査
 調査期間: 昭和 55 年 9 月 4 日 ~ 昭和 55 年 9 月 4 日
 地盤高: 12.12 (M) 地下水位 G.L. - 1.18 (M) (自然孔内)
 使用機械: ロータリ式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者:

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對稠度	標準貫入試験		
										深打 30打 10cm 毎の 打撃回数 / 10cm (M) 数	換算数	打撃数 (回)
0	12.12	0.00										
1	11.42	0.70	0.70	表	土層		粘性土主体、草根等混入			1.15	5	1.2.2
2	10.32	1.80	1.10		シルト混り 泥 岩		岩質主体の成り、シルト等 混入の甚だしく、岩碎			1.45	50	50
3							全層に粘粒非粘に細粒 非粘に硬質である			2.15	50	50
4							土質は 10~20mm 位の 礫料 50~60% 回収される			2.19	50	50
5							粘土粘結性有る 貫入試験時、バワドし 礫料少量			3.00	50	50
6										3.09	50	50
7	5.06	7.00			泥					4.00	50	50
8										4.08	50	50
9										5.00	50	50
10										5.09	50	50
										6.00	50	50
										6.08	50	50
										7.00	50	50
										7.06	50	50

土質柱状図

No. 37

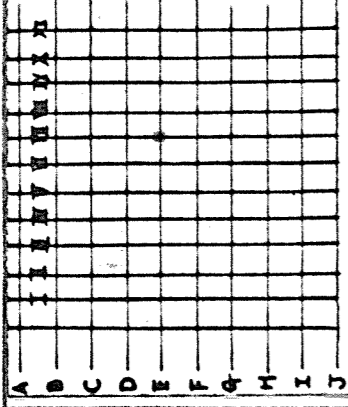
調査件名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械
現場担当者

(仮称) 南越清浄工場建設敷地 地盤調査
横須賀市神明町 2187 地

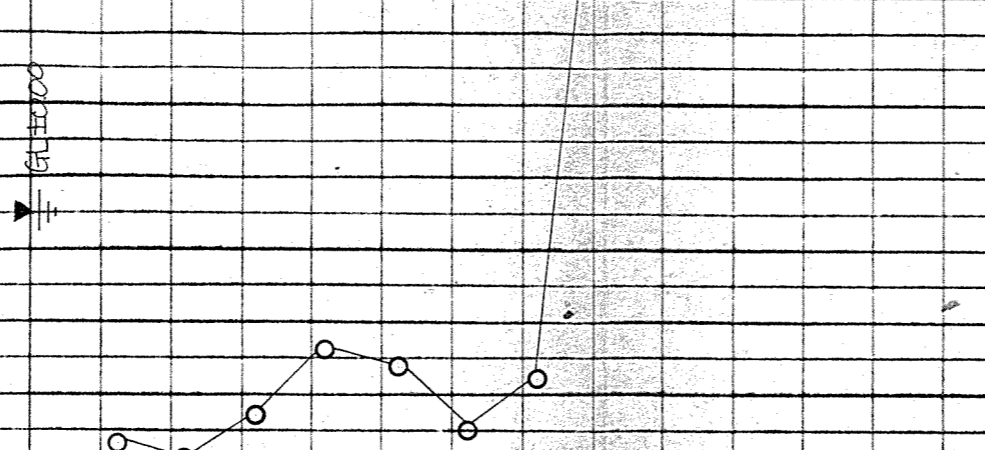
昭和 55 年 8 月 27 日 ~ 昭和 55 年 8 月 27 日

標高 9.948 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然孔内)

ロータリー式 KR 100 孔径 66 %



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30 打 cm 撃換算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	9.948	0.00										
1	9.248	0.70	0.70	表	土 赤 灰		湖性土存在。草根、木屑混入			3	1	1
	8.898	1.02	0.35	粘	土 乳 灰		凝縮層粘土。草根混入			1	9	12
2	7.798	2.15	1.10	Y.Y.V. 凝	植 土 暗褐色		全軟弱に凝縮土成し 若干湖性土混入。腐植物混入			7	1	3
3	7.148	2.80	0.65	シルト 負 細 砂 暗緑灰			砂質土主体成し。シルト含有。含砂			16	5	6
4							岩屑の5~10%程度 砂含有 長繊維状草根混入			14	4	5
5							軟い。中位の面である			5	1	2
6	4.198	5.75	2.95	砂 混り 岩 砂 暗緑灰			砂質土主体成し シルト含有 細砂混入			12	3	4
7	3.048	6.90	1.15	腐植土混りシルト復細砂 暗緑灰			約5%程度の岩屑で砂質土含有 上部腐植土混り。シルトが多く 土質材料は不明化している 1060Mの棒状の土質材料 10cm位の試料回収 下部に於て非常に硬質 貫入試験時ハズナする			50	50	10
8	2.498	7.45	0.55	砂 混り 岩 砂 暗緑灰						50	18	18
9										50	15	15
10										50	8	8
11										50	7	7
12										50	7	7
13	3.112	13.06		泥	岩 暗緑灰					50	6	6
14												
15												
16												
17												
18												
19												



土質柱状図

No. 37

調査件名 (仮称) 首都圏工場の建設敷地 地盤調査

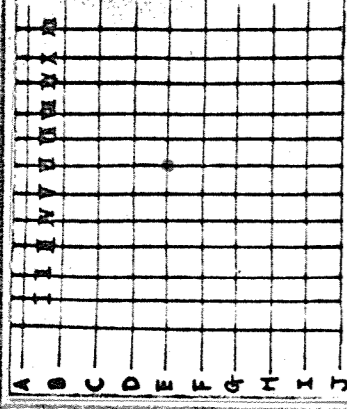
調査場所 機電管仲神明町 2187 地

調査期間 昭和 55 年 8 月 28 日 ~ 昭和 55 年 8 月 28 日

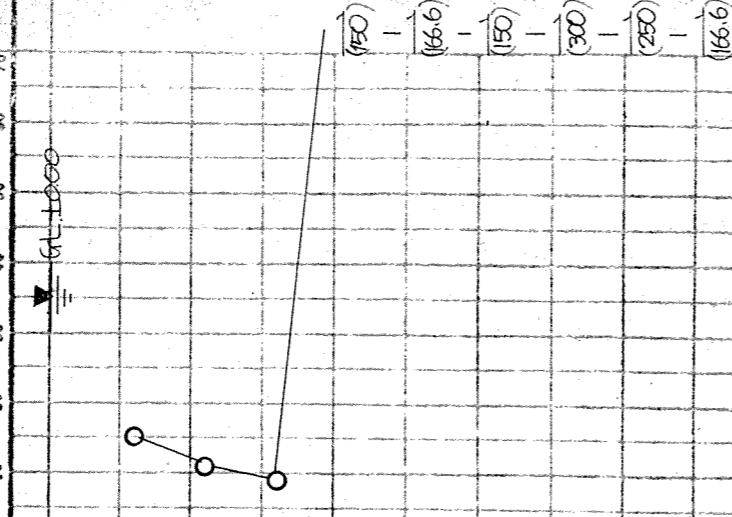
地盤高 10.187 (M) 地下水位 G.L. ± 0.00 (M) (自然 [L内])

使用機械 ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm

現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験										
										深打 30打 10cm 毎の 打撃回数 / 10cm 換算数	10	20	30							
0	10.187	0.00																		
1	9.587	0.60	0.60	表	土 挟	灰	補植土主体の吹す 砂根少量混入													
2	9.027	1.15	0.55	軟	石 質 礫 質	灰	砂岩の塊石が散在 砂層が厚くなった砂質土で 砂岩が混入													
3	8.487	1.70	0.55	中	砂 混 り 細 砂 質 土	灰	砂質土													
4	7.387	2.80	1.10	中	砂 混 り 岩 質 土	黄 緑 色	岩質が5%程度の主体とし 砂が混入。各層中 砂質土													
5	6.487	3.70	0.90	硬	砂 質 土	黄 緑 色	砂質土5~10%程度の主体、 上部風化が若干あり													
6							5cm位の礫状 土質材料混入													
7							5M付並、砂岩及砂を林状 6.80M付並より非常に砂質で 5~10cm位の土質材料 混入													
8																				
9	1.097	9.09			泥															
10																				



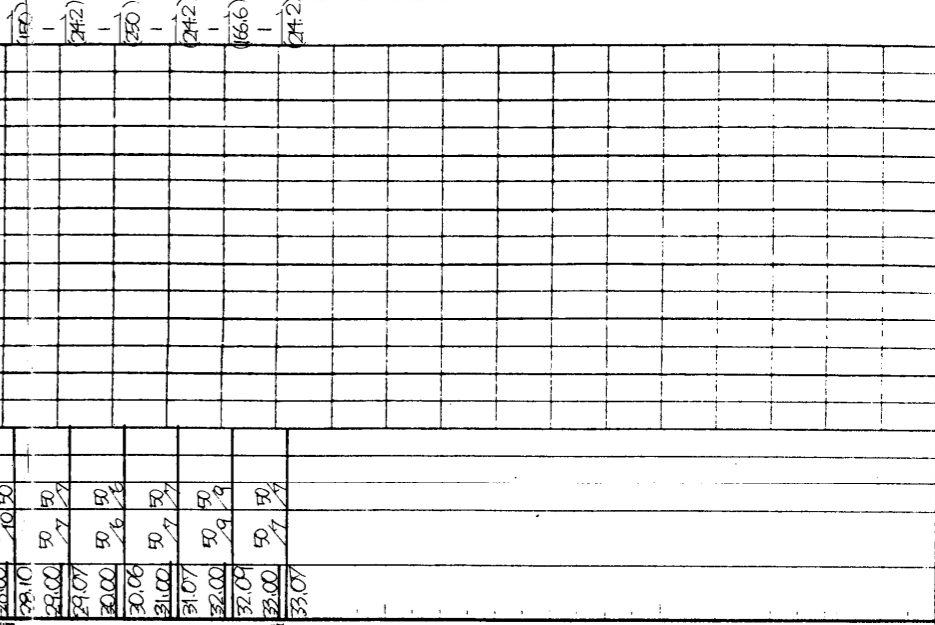
土質柱状図

№ 38

調査件名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械
現場担当者

(仮称)首都圏環状線建設地区 北豊橋
千葉県神田町 287 地
昭和 55 年 9 月 15 日 ~ 昭和 55 年 9 月 16 日
標高 8.678 (M) 地下水位 G.L. - 0.60 (M) (自然孔内)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm

標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験	
									30打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	10 20 30 40 50 60 70
8.678	0.00		×			粘性土主体の成り 静脈等混入				
7.528	1.15	1.15	表	土雜砂	黄褐色	粘性土・細砂の成り 主成分は、細砂混入			12	3 3 6
6.928	1.75	0.60	細	砂	黄褐色	粘性土・細砂の成り 主成分は、細砂混入			25	8 12 15
5.778	2.90	1.15	02000	岩碎混り 細砂	黄褐色	粘性土・細砂の成り 主成分は、細砂混入			15	5 4 6
5.378	3.35	0.45	02000	岩碎混り 細砂	黄褐色	粘性土・細砂の成り 主成分は、細砂混入			14	4 5 5
4.078	4.60	1.25	02000	岩碎混り 細砂	黄褐色	粘性土・細砂の成り 主成分は、細砂混入			12	3 4 5
1.878	6.80	2.20	02000	シルト質 細砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			5	1 2 2
3.472	12.15	5.35	02000	砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			5	1 2 2
11.115	10.45	0.60	02000	砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			6	3 1 2
12.415	11.45	0.60	02000	砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			6	2 2 2
12.415	12.15	0.35	02000	砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			12	3 4 5
13.115	13.15	0.35	02000	砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			11	3 3 5
13.415	14.15	0.35	02000	砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			14	4 5 5
14.072	14.75	2.60	02000	岩碎混り 細砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			28	7 11 10
15.472	16.70	1.95	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			15	5 5 5
17.072	19.50	2.80	02000	岩碎混り 細砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			15	3 3 9
19.472	22.75	3.25	02000	岩碎混り 細砂	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			11	3 4 4
21.072	23.90	1.15	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			9	3 3 3
22.472	25.15	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			7	3 2 2
23.072	26.15	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			8	3 2 3
24.072	27.15	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			7	2 2 3
24.272	27.45	0.30	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			24	6 8 10
25.272	28.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			15	6 5 4
26.272	29.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			12	4 4 4
27.272	30.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			11	3 4 4
28.272	31.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			13	4 4 5
29.272	32.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
30.272	33.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
31.272	34.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
32.272	35.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
33.272	36.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
34.272	37.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
35.272	38.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
36.272	39.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
37.272	40.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
38.272	41.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
39.272	42.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
40.272	43.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
41.272	44.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
42.272	45.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
43.272	46.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
44.272	47.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50
45.272	48.45	0.60	02000	岩	黄褐色	全体的にシルト質 主成分は、シルト			50	50



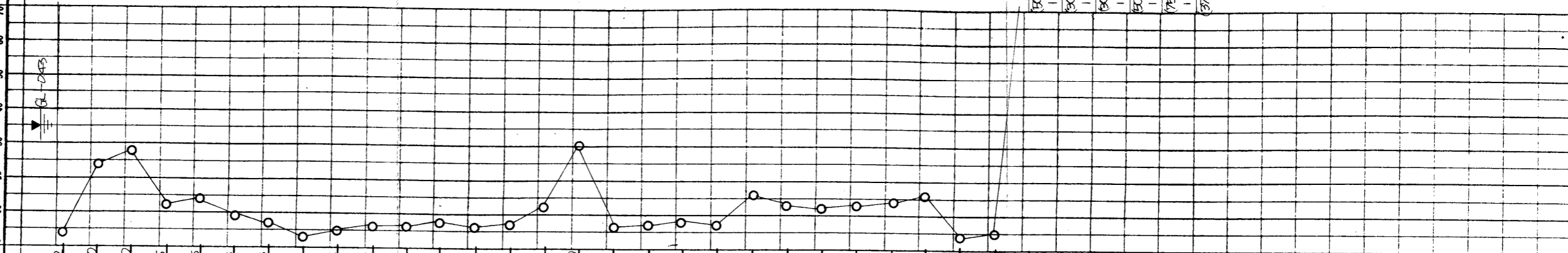
土質柱状図

66 39

調査場所
昭和55年8月21日
昭和55年8月26日
標高 8.173 (M)
地下水位G.L. - 0.43 (M) (自然孔内)
使用機 回転式
現場担当者

(佐株) 稲刈準備工場建設地地盤調査
機原便所神野町 2187 他
標高 8.173 (M)
地下水位G.L. - 0.43 (M) (自然孔内)
回転式
現場担当者

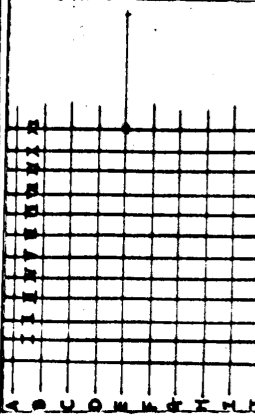
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記号	相対密度	相対湿度	標準貫入試験		
										30打 贯入 回数 (回)	10cm 貫入 回数 (回)	打撃 回数 (回)
0	8.173	0.00		X	表	土籠褐色	粘性土状、草根等混入	中	中	4	1	12
1	7.473	0.70	0.70				全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	21	6	9.10
2												
3	5.373	2.80	2.10		細砂	砂黄	粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	28	8	10.10
4	5.123	3.05	0.25		細砂	砂黄	粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	12	3	4.5
5	4.423	3.75	0.70		細砂	砂黄	粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	14	4	5.15
6	1.623	6.55	2.80		微細砂	砂黄	粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	9	3	3
7							全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	7	2	2.3
8							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	3	1	1.1
9							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	5	1	2.2
10							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	6	2	2.2
11							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	6	2	2.2
12							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	7	2	2.3
13	4.723	12.90	6.35		砂黄	土籠緑	全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	6	2	2.2
14							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	7	2	2.3
15							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	12	3	4.5
16	7.573	15.75	2.85		粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	土籠緑	全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	30	5	5.20
17							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	6	2	2.2
18							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	7	2	2.3
19							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	8	2	3.3
20							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	7	2	2.3
21	12.423	20.60	4.85		粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	土籠緑	全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	16	3	4.9
22							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	13	4	3.6
23							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	12	3	4.5
24							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	13	4	4.5
25							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	14	4	5.5
26							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	16	4	5.7
27	18.673	26.95	6.25		粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	土籠緑	全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	4	1	1.2
28							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	5	1	2.2
29	20.723	28.90	2.05		粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	土籠	全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	50	3	3
30							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	50	5	5
31							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	50	5	5
32							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	50	5	5
33							粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	50	5	5
34	25.857	34.04			砂	土籠	全体的に粘状均一な新成土状、粘土、砂、砂礫等混入、中粒~細粒の間に	中	中	50	4	4
35												
36												
37												
38												
39												
40												
41												
42												
43												
44												



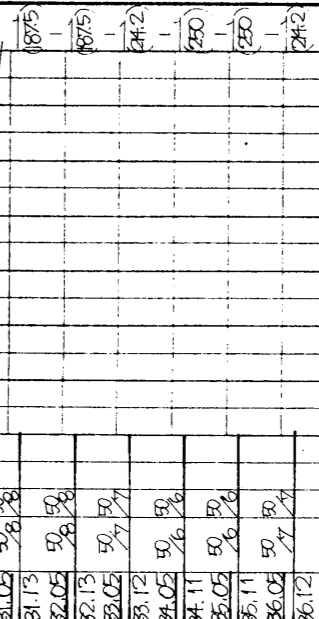
土質柱状図

№ 40

調査件名 (名称) 船越港埠工場建設用地 地盤調査
 調査場所 船越港埠 287 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 9 日 ~ 昭和 55 年 9 月 10 日
 地盤 標高 7.372 (M) 地下水位 G.L. - 0.82 (M) (自然水位)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (M) 数	深打 10cm 毎の 打撃回数 (回)
0	7.372	0.00								10	2.3
1	6.072	1.30	1.30	埋	土層		上部岩層下部細砂主在 上部岩層下部細砂主在			17	5.6
2							暗黄色 250mm 程度に散在 黄緑色、岩層、腐植物混入 礫を含む			20	6.7
3										16	5.5
4	2.572	4.80	3.50	粗	砂					11	3.4
5							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			9	3.3
6							暗色を含む			17	2.3
7	0.372	7.00	2.20	シルト混り細砂	シルト混り細砂		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
8	-0.528	7.90	0.90	シルト混り細砂	シルト混り細砂		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
9	-2.228	9.60	1.70	砂	砂		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
10							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
11							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
12							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
13	-6.128	13.50	3.90	砂	砂		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
14							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
15							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
16	-8.428	15.80	2.30	岩	岩		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
17	-10.128	17.50	1.70	砂	砂		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
18							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
19							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
20	-13.228	20.60	3.10	岩	岩		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
21							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
22							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
23							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
24							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
25							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
26	-18.328	25.70	5.10	岩	岩		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
27							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
28	-21.028	28.40	2.70	岩	岩		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
29							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
30	-23.128	30.50	2.10	岩	岩		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
31							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
32							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
33							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
34							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
35							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
36	-28.228	36.12			砂		全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
37							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
38							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
39							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
40							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
41							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
42							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
43							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
44							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2
45							全体に長繊維少量、腐植物 少量混入			18	2.2



土質柱状図

No. 42

調査件名 (仮称) 首都圏建設工事場建設敷地地質調査
 調査場所 機原町神井町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 5 日 ~ 昭和 55 年 9 月 5 日
 地盤高 標高 23.903 (M) 地下水位 G.L. -1.57 (M) (自然水位)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	深打 30cm 毎の打撃回数 G.L. (M) 数	深打 10cm 毎の打撃回数 G.L. (M) 数	標準貫入試験 打撃数 (向)
0	23.903	0.00										
1	23.403	0.50	0.50	表	土 礫	褐色	粘土主体で多量の木の根、腐植物混入		中	5	17	2
2	22.553	1.35	0.85	シルト 復 粘 土	粘 土	褐色	粘土主体で多量の木の根、腐植物混入 非常に粗粒の層で 岩屑多量混入		硬	3.6	18	15
3	20.703	3.20	1.85	岩 碎 混 り 粘 土	粘 土	黄 灰	非常に硬質である 全粒にキルが多く		硬	2.4	12	8
4									面	5.0	11	4
5									結	5.16	11	4
6							6M 付近より腐葉土混入			6.05	9	9
7							全粒に多量の汚石、腐葉土混入			6.24	9	5
8										7.10	9	6
9	14.803	9.10		泥	岩 礫	灰 色			面	8.11	9	5
10									結	9.05	9	5

土質柱状図

No. 43

調査件名 (仮称) 首都圏建設工事場建設敷地地質調査
 調査場所 機原町神井町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 6 日 ~ 昭和 55 年 9 月 7 日
 地盤高 標高 26.907 (M) 地下水位 G.L. (M) (自然水位)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

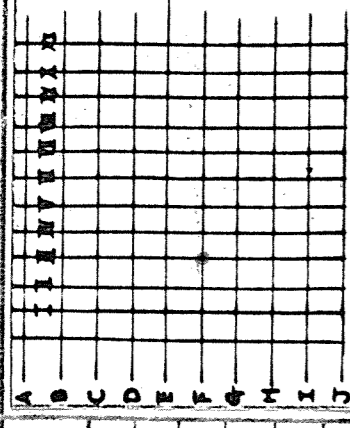
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	深打 30cm 毎の打撃回数 G.L. (M) 数	深打 10cm 毎の打撃回数 G.L. (M) 数	標準貫入試験 打撃数 (向)
0	26.907	0.00										
1	26.707	0.20	0.20	表	土 礫	褐色	多量の木の根、木の根岩混入 上部軟化傾向の堆積物だが 見られる		面	1.15	5	18
2							非常にキルが多く 硬質の岩である			2.05	9	15
3							粘土で砂岩を挟む			2.17	9	15
4										3.05	9	6
5										3.11	9	8
6	20.747	6.16		泥	岩 礫	灰 色			面	4.05	9	8
7										4.13	9	10
8										5.05	9	10
9										5.15	9	13
10									面	6.05	11	17

土質柱状図

№ 44

調査件名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械
現場担当者

(原簿) 首都圏整備工事場建設事務所 地盤調査
横須賀市神明町 2187 他
昭和 55 年 9 月 1 日 ~ 昭和 55 年 9 月 1 日
標高 14.271 (M) 地下水位 G.L. - 0.92 (M) (自然水位)
孔径
ロータリ一式

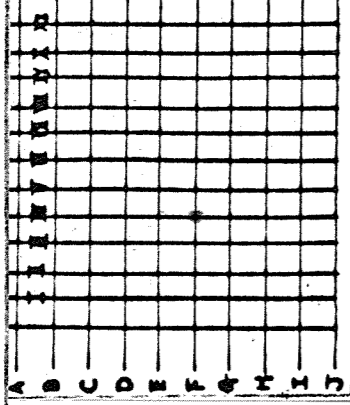


標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記号	相對密度	相對稠度	標準貫入試験							
										深打 G.L. (M) 数	30打 cm 換算数	10cm 毎の 打撃回数 / 10cm	打撃数 (回)				
0	14.271	10.00															
1	13.321	0.95	0.95	表	土	灰	若性土主体に成し			1.15	3	1	1				
2	13.021	1.25	0.30	植	土	黒	草根混入 表層の腐植土混在			1.45	4	1	1				
3	11.521	2.75	1.50		岩	緑	5% 他種の岩片混在 砕石、シルト分混在			2.15	4	1	2				
4	10.071	4.20	1.45		泥	緑	5~10% 位の岩片混在 シルト分混在 細砂分少量混在			2.45	4	1	2				
5					泥	緑	上部酸化土、シルト質 凝状土質混在			3.45	50	19	36				(789)
6					泥	緑	580M 材並の粗粒状砂 構状土質混在			4.34	50	11	41				(364)
7					泥	緑	6M 7.8M 試験材料 非粉に復元する			5.11	50	8	58				(1875)
8					泥	緑	6M 7.8M 試験材料 非粉に復元する			6.00	50	5	5				(300)
9	5.15	9.12			泥	緑	6M 7.8M 試験材料 非粉に復元する			7.00	50	10	10				(150)
10					泥	緑	6M 7.8M 試験材料 非粉に復元する			8.00	50	12	12				(25)

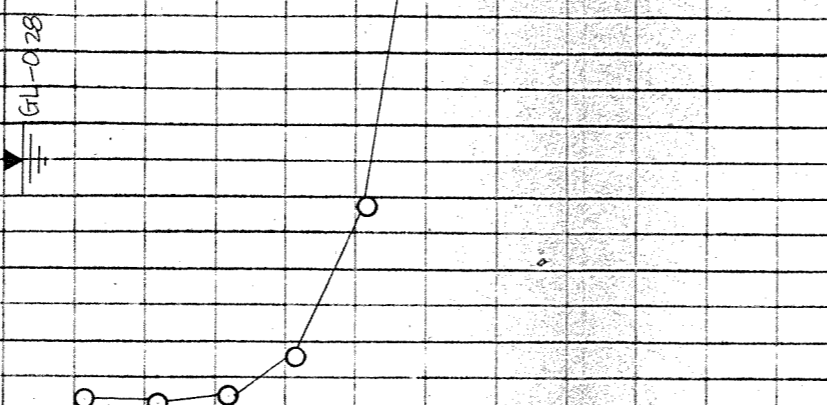
土質柱状図

№ 45

調査件名 (株) 富嶺建設工事場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 287 地
 調査期間 昭和 55年 8月 31日 ~ 昭和 55年 8月 31日
 地盤高 11.90 (M) 地下水位G.L. - 0.28 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 ㎜
 現場担当者



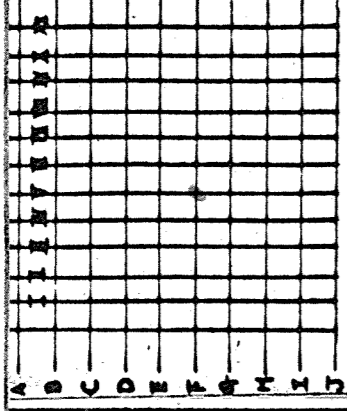
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30打 cm 撃 換算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	11.90	0.00		表	土	灰	シルト質粘土 (主) 砂 (少)					
1	11.20	0.70	0.70	XY	果	灰	全体的に若干粘土含量多 粘粘土 (主) 砂 (少) 粘粘土のシルト状になる 粘粘土の混入	1.15	1.5	1/20		
2				XY				1.55				
3	8.45	3.45	2.75	XY	植	土	粘質土 (主) 砂 (少)	2.65	2	1/15		
4	7.75	4.15	0.70	XY	粗砂	緑	砂 5~10% 位の岩屑混入 粘質土 (主) 砂 (少)	3.45	2	2/4		
5	7.15	4.75	0.60	XY	砂	緑	粘質土 (主) 砂 (少)	4.15	8	2/4		
6	6.20	5.70	0.95	XY	土	緑	粘質土 (主) 砂 (少)	4.45	29	9/10/10		
7	5.00	6.90	1.20	XY	粘	緑	粘質土 (主) 砂 (少)	5.15	50	21/20/22/8		
8							粘質土 (主) 砂 (少)	5.45	50	38/12		
9	3.30	8.60	1.70	XY	泥	灰	粘質土 (主) 砂 (少)	6.15	50	21/20/22/8		
10							粘質土 (主) 砂 (少)	6.36	50	38/12		
11	0.76	11.14		XY	泥	灰	粘質土 (主) 砂 (少)	7.00	50	38/12		
12							粘質土 (主) 砂 (少)	7.12	50	38/12		
13							粘質土 (主) 砂 (少)	8.00	50	38/12		
14							粘質土 (主) 砂 (少)	8.11	50	38/12		
15							粘質土 (主) 砂 (少)	9.00	50	38/12		
16							粘質土 (主) 砂 (少)	9.08	50	38/12		
17							粘質土 (主) 砂 (少)	10.00	50	38/12		
18							粘質土 (主) 砂 (少)	10.10	50	38/12		
19							粘質土 (主) 砂 (少)	11.00	50	38/12		
							粘質土 (主) 砂 (少)	11.14	50	38/12		



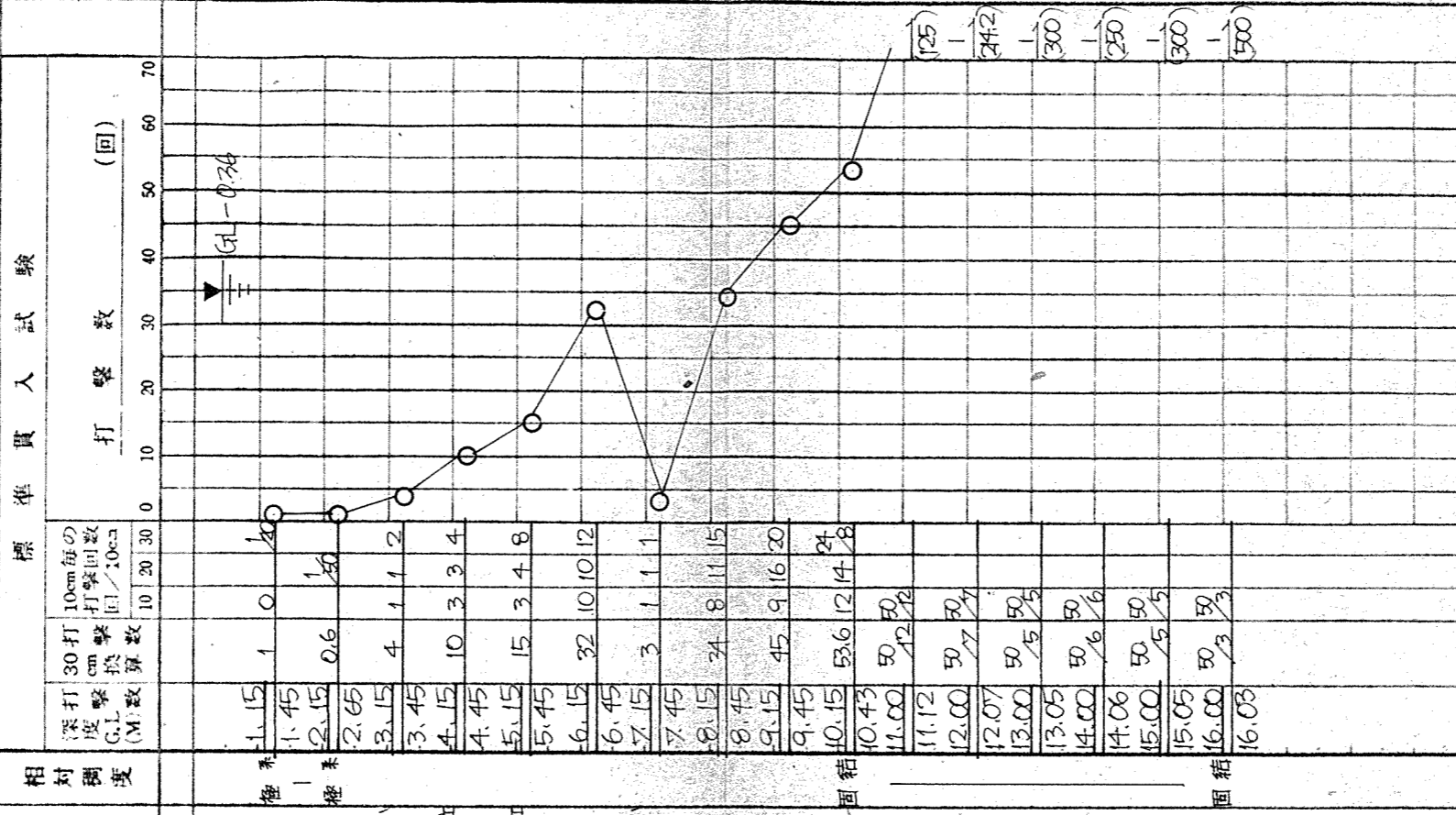
土質柱状図

46

調査件名 (名称) 南新井工場建築敷地地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55年 8月 30日 ~ 昭和 55年 8月 30日
 地盤高 10.739 (M) 地下水位G.L. - 0.36 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 %
 現場担当者



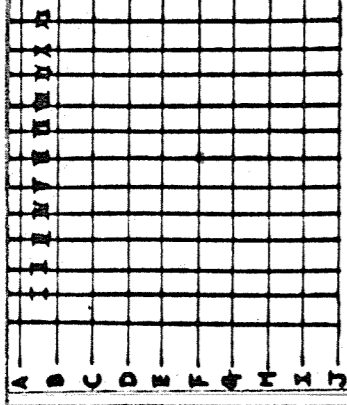
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対強度	標準貫入試験		
										深打 30打 cm 撃換算数 (M) 数	10cm 毎の 打撃回数 / 10cm	打撃数 (回)
0	10.739	0.00		表	土 雑 砂		粘性土主体、草根混入					
1	10.239	0.50	0.50	XYV			全般均一な粘性土主体で成し 若干粘粒土含 非粘に準い、含木 腐植物中量混入			1	0	4
2	8.189	2.55	2.05	XYV	植		均一な粘質土主体で成し 粘粒の5%位を名 腐植物、小礫混入			0.6	1	2
3	6.989	3.75	1.20	XYV	粘 砂	緑	粘粒の5~10%位 粘り混入			4	1	2
4	5.139	5.60	1.85	XYV	粘 砂	緑	粘り混入			10	3	4
5	4.239	6.50	0.90	XYV	粘 砂	緑	5.60Mの層化された面粘砂 粘り混入			15	3	4
6	3.589	7.15	0.65	XYV	粘 砂	緑	7.15Mの層化された面粘砂 粘り混入			32	10	12
7	3.589	7.15	0.65	XYV	粘 砂	緑	7.15Mの層化された面粘砂 粘り混入			3	1	1
8	0.939	9.80	2.65	XYV	粘 砂	緑	8.45Mの層化された面粘砂 粘り混入			7	4	11
9	0.939	9.80	2.65	XYV	粘 砂	緑	8.45Mの層化された面粘砂 粘り混入			24	8	11
10	0.611	11.35	1.55	XYV	粘 砂	緑	11.35Mの層化された面粘砂 粘り混入			45	9	16
11	0.611	11.35	1.55	XYV	粘 砂	緑	11.35Mの層化された面粘砂 粘り混入			53.6	12	14
12				XYV	粘 砂	緑	上部層化された粘砂 下部に於て粘粒均一な 粘り混入			50	12	12
13				XYV	粘 砂	緑	11.35Mの層化された面粘砂 粘り混入			50	12	12
14				XYV	粘 砂	緑	粘り混入			50	12	12
15				XYV	粘 砂	緑	粘り混入			50	12	12
16	5.291	16.03		XYV	粘 砂	緑	粘り混入			50	12	12



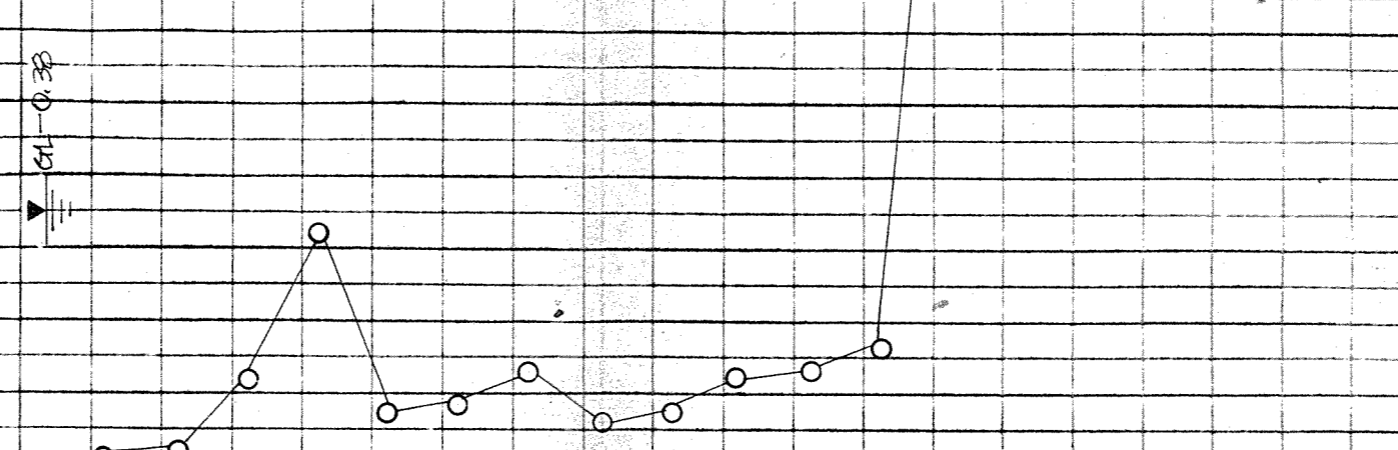
土質柱状図

No. 47

調査件名	(仮称) 首都圏清掃工場建設敷地地盤調査	
調査場所	横須賀市神明町 2187 地	
調査期間	昭和 55 年 8 月 29 日 ~ 昭和 55 年 8 月 29 日	
地盤高	標高 10.166 (M) 地下水位 G.L. - 0.38 (M) (自然孔因)	
使用機械	ロータリー式 孔径 66 mm	
現場担当者		



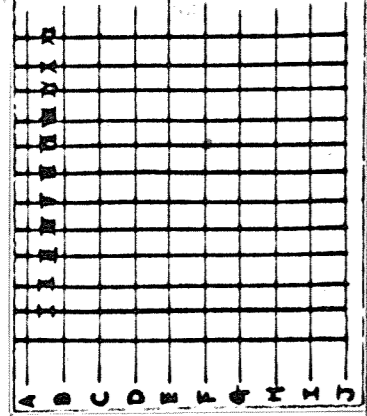
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験								
										深度 G.L (M)	30cm 打撃回数 (回)	10cm 打撃回数 (回)	10cm 打撃回数 (回)					
0	10.166	0.00																
1	9.466	0.70	0.70	表	土 赤褐色		粘性土主体で成り、シルト分含量多し。管線混入	1.15	0.9	0	15	15						
2	7.716	2.45	1.75	腐	土 黒		全般的に粘性土主体で成り、腐植物混入	2.45	2	15	15							
3	6.366	3.80	1.35	砂	砂 黄緑		管線混入	3.15	12	3	4	5						
4	5.266	4.90	1.10	砂	砂 黄緑		管線混入	3.45	32	9	11	12						
5	4.416	5.75	0.85	砂	砂 黄緑		管線混入	4.45	7	3	2	2						
6				砂	砂 黄緑		管線混入	5.45	9	3	3	3						
7				砂	砂 黄緑		管線混入	6.45	13	3	5	5						
8				砂	砂 黄緑		管線混入	7.45	6	2	2	2						
9				砂	砂 黄緑		管線混入	8.45	7	2	3	2						
10				砂	砂 黄緑		管線混入	9.45	12	4	3	5						
11				砂	砂 黄緑		管線混入	10.45	13	4	4	5						
12				砂	砂 黄緑		管線混入	11.45	16	6	5	5						
13				砂	砂 黄緑		管線混入	12.45	50	9	9							
14				砂	砂 黄緑		管線混入	13.09	50	10	50							
15				砂	砂 黄緑		管線混入	14.00	50	8	8							
16				砂	砂 黄緑		管線混入	15.00	50	6	6							
17				砂	砂 黄緑		管線混入	16.00	50	8	8							
18				砂	砂 黄緑		管線混入	17.00	50	8	8							
19				砂	砂 黄緑		管線混入	18.00	50	8	8							



土質柱状図

No. 48

調査場所 高松市 昭和55年8月27日 ~ 昭和55年8月28日
 調査期間 高松市 昭和55年8月27日 ~ 昭和55年8月28日
 調査地 高松市 昭和55年8月27日 ~ 昭和55年8月28日
 使用機械 回転式 口径 66mm
 現場担当者



標尺 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色	観察記事	相対密度	相対湿度	吹打 30cm 換算数	吹打 10cm 換算数	標準貫入試験 (回)
9.19	0.00								1.15	1.9	16/16
8.39	0.80	0.80	表	土層	黄褐色	草根あり			1.47	24	8/7/9
7.79	1.40	0.60	シルト混り粘土	シルト混り粘土	黄褐色	シルト混り粘土	中		2.45	32	9/12/17
						3M付近に6M付近と長繊維状の混入	中		3.15	23	7/9/7
						細砂の混入	中		3.45	21	6/7/8
						細砂の混入	中		4.15	20	4/6/10
						細砂の混入	中		4.45	17	5/6/6
						細砂の混入	中		5.15	19	6/6/7
						細砂の混入	中		5.45	20	7/6/7
						細砂の混入	中		6.15	12	4/4/4
						細砂の混入	中		6.45	39	10/14/15
						細砂の混入	中		7.15	41	10/15/16
						細砂の混入	中		7.45	20	6/6/8
						細砂の混入	中		8.15	22	7/6/9
						細砂の混入	中		8.45	20	6/7/7
						細砂の混入	中		9.15	23	6/8/9
						細砂の混入	中		9.45	19	5/7/7
						細砂の混入	中		10.15	18	5/6/7
						細砂の混入	中		10.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		11.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		11.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		12.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		12.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		13.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		13.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		14.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		14.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		15.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		15.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		16.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		16.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		17.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		17.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		18.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		18.45	50	50/2/2
						細砂の混入	中		19.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		19.17	50	50/2/2
						細砂の混入	中		20.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		20.22	50	50/2/2
						細砂の混入	中		21.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		21.19	50	50/2/2
						細砂の混入	中		22.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		22.18	50	50/2/2
						細砂の混入	中		23.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		23.18	50	50/2/2
						細砂の混入	中		24.15	50	50/2/2
						細砂の混入	中		24.20	50	50/2/2

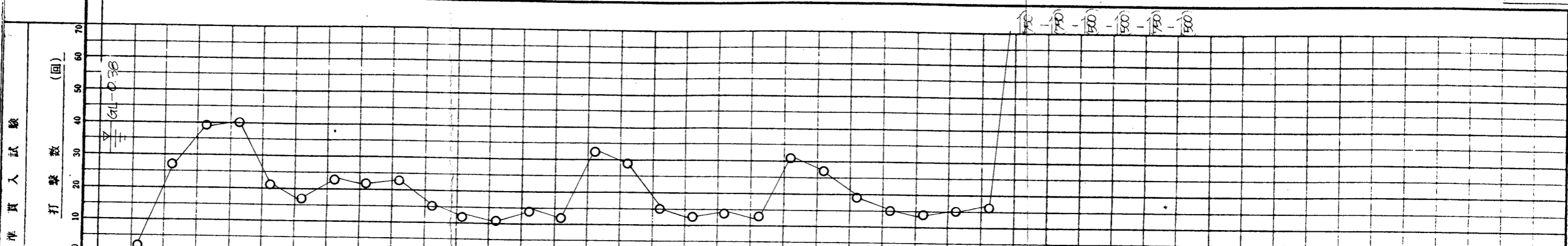
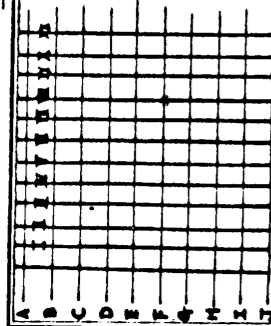
(730) (242) (375) (500) (500) (300)

土質柱状図

№ 49

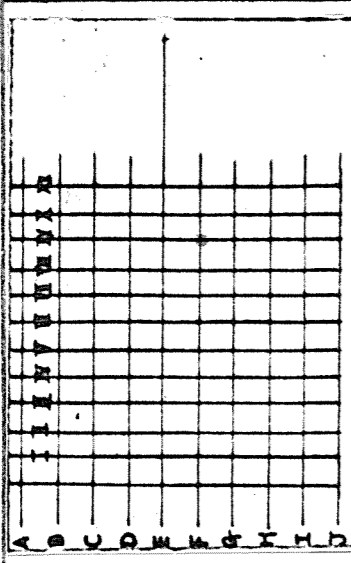
調査場所 (仮称) 南浦子清掃工場建設敷地 地質調査
 調査期間 昭和 55 年 8 月 25 日 ~ 昭和 55 年 8 月 27 日
 調査時刻 0.043 (M) 地下水位 G.L. -0.38 (M) (内訳孔内)
 地盤 標高 0.043 (M) KR 100 孔径 66 %
 使用機械 ローター式
 現場担当者

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験	
										30打 10cm毎の 打撃回数 (回)	換算 値
0	9.083	0.00								1.15	1.44
1	8.573	0.50	0.50	表	土層		概観工混入			2.45	7.81
2	7.673	1.35	0.85	シルト質粘土	粗		上部粘土のシルト成分 粗粒均一 細粒均一 シルト質粘土混入 下部粘土のシルト成分			3.15	11.13
3										3.45	11.14
4										4.45	11.14
5	2.573	5.50	4.15		砂質					5.45	7.68
6										6.45	7.46
7										7.45	7.79
8	1.273	7.80	2.30	粘粉混りシルト質細砂	中		長粒細砂混入 (多量) 上部粘土の概観物 (付) 下部粘土の概観物 (付) 粘粉 10~20% 混入			8.45	7.79
9							全粒に長粒細砂混入 8M 程度の長粒細砂混入 増			8.45	7.79
10							粘粉 10~30% 混入			9.45	10.67
11							全粒に粘粉の概観物混入 粘粉			10.45	11.45
12							粘粉 10~30% 混入			11.45	11.44
13							岩質砂岩 又は 砂岩を 呈し 13~14.50M 粘粉混入 粘粉 10~30% 混入			12.45	11.34
14							粘粉 10~30% 混入			13.45	11.45
15							全粒的に長粒細砂混入			14.45	12.34
16										15.45	12.81
17										16.45	12.79
18										17.45	12.45
19										18.45	13.44
20										19.45	14.45
21										20.45	13.44
22										21.45	17.10
23							23M 以上の長粒細砂混入			22.45	18.91
24										23.45	19.67
25										24.45	15.45
26										25.45	14.45
27							若干の長粒細砂混入 粘粉の概観物混入			26.45	15.46
28	18.657	22.50	20.10		粘粉混りシルト質		粘粉 10~30% 混入 粘粉			27.45	16.55
29							粘粉 10~30% 混入 粘粉			28.45	17.50
30							全粒に粘粉混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入			29.45	17.50
31							粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入			30.45	17.50
32							粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入			31.45	17.50
33	24.137	33.18			粘		粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入 粘粉 10~15% 混入			32.45	17.50
34										33.45	17.50

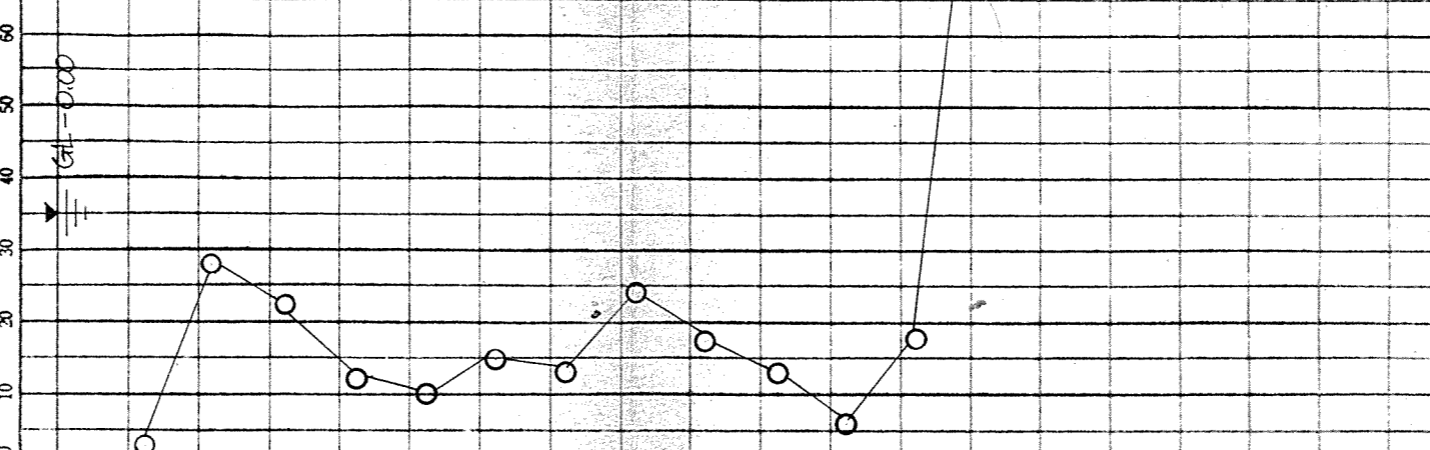


土質柱状図

調査件名 (原株) 南池浦掃工場建設地、地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 8 月 25 日 ~ 昭和 55 年 8 月 26 日
 地盤高 8.265 (M) 地下水位 G.L. -0.00 (M) (自然水位)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



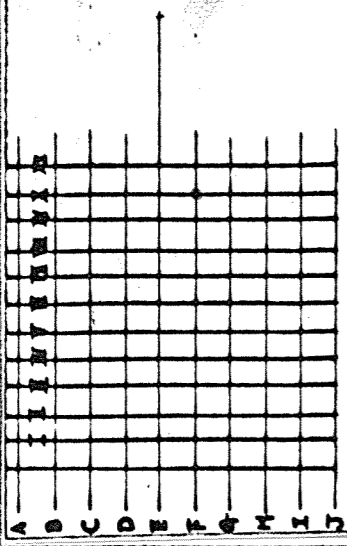
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験		
										深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 G.L. (M) 算数	10 20 30	打撃数 (回)
0	8.265	0.00										
1	7.565	0.70	0.70	表	土 土層		草木混入、粘土状			12	1	
2	6.515	1.75	1.05		シルト 復 粘 土 層	灰	全体に腐植物混入 含水大、下部部が量混入			28	10	11
3	4.765	3.50	1.75		細 砂	灰	全層に細砂均一 良砂粗砂混入 細砂状の固結土状			22	6	7
4							細砂状の固結土状			12	5	4
5							細砂状の固結土状			10	4	2
6	2.265	6.00	2.50		シルト混り 微 細 砂 層	青 灰	細砂状の固結土状 下部小岩混入			15	5	5
7							全体に長砂混入			13	5	4
8							6.00~7.50M 粗砂混入 を増す			24	5	12
9							岩層 10~50% 混入 9.00~10.50M 7 身砂片 多量混入			17	6	5
10							全層に不純物の混入が甚多 を呈す			13	5	4
11							粗砂状の混入			6	2	2
12	4.485	12.75	6.75		岩 碎 混 り シ ル ト 層	灰	岩層の混入が甚多 を呈す			18	3	5
13							非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			50	24	5
14							非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			25	26	5
15	7.235	15.50	2.75		岩 碎 混 り シ ル ト 層	灰	非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			50	20	50
16							非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			50	20	50
17							非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			50	20	50
18	9.995	18.26			砂 岩	灰	非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			50	20	50
19							非常に硬質の岩層 上部にてキリッ部分に入る 下部のニアとして採取される 下部が岩層状			41	45	5



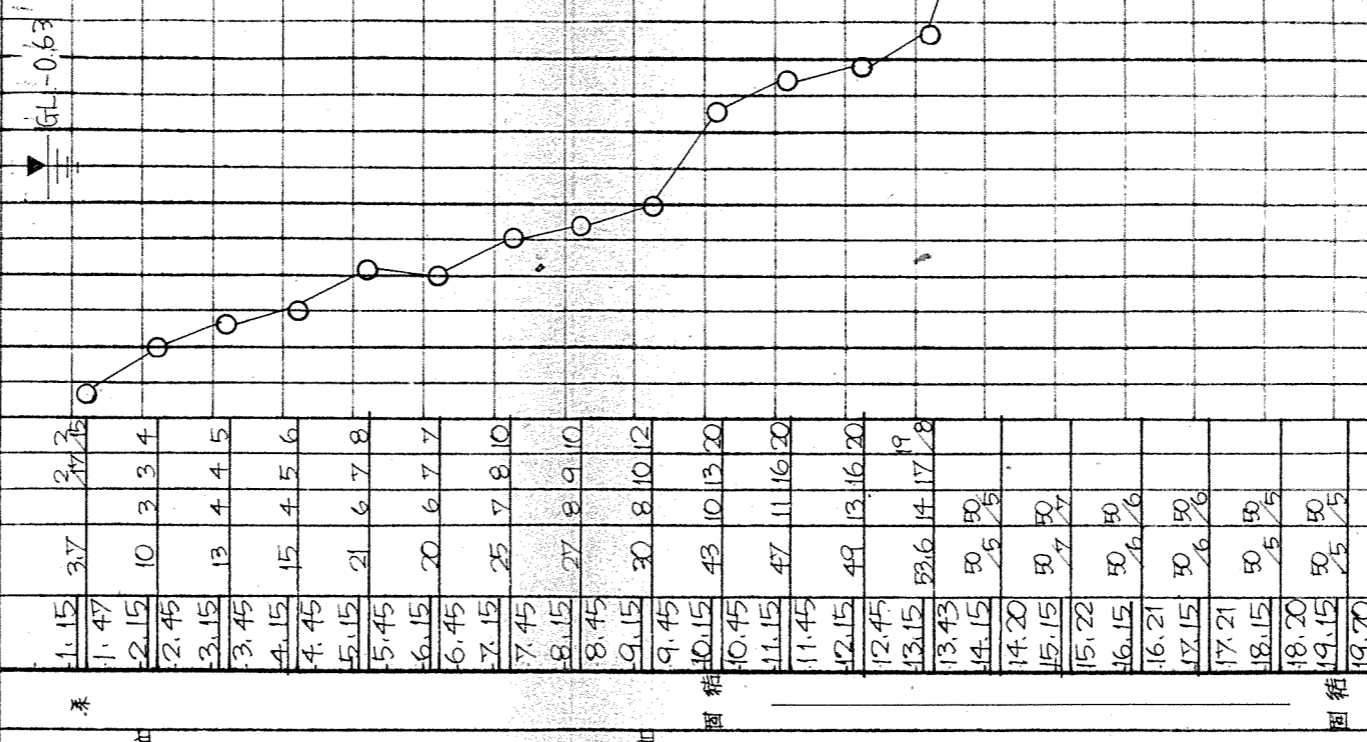
土質柱状図

46 51

調査件名 (名称) 富津港工場地盤改良工事、北後遺構
 調査場所 横須賀市神時町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 11 日 ~ 昭和 55 年 9 月 11 日
 地盤高 標高 8.084 (M) 地下水位 G.L. -0.63 (M) (自然因)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 ㎜
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30 打 cm 撃回数 G.L (M) 数	10cm 毎の 打撃回数 10 20 30	打撃数 (回)
0	8.084	0.00			土層	褐色	草根混入 粘土主作					
1	7.484	0.60	0.60	表	土層	褐色	粘土大、含砂大 腐植物混入	3.7	2.7	2.5		
2	6.284	1.20	1.20		シルト質粘土	褐色	下部少量の腐植物混入 中粒~意な木葉ひかる 全体に長繊維状混入 腐植物混入	10	3	4		
3							腐植物混入	13	4	5		
4							微細砂~細砂主作 全体に含砂ひかる	15	4	6		
5							全角に均質な木葉 2.50~3.00M 若干孔壁崩 壊で呈す	21	6	7		
6							加重量の腐植物混入 シルト分体 20~30% 混	20	6	7		
7								7.15	7	8		
8	0.284	7.80	6.00		シルト質粘土	黄褐色	シルト質粘土	25	7	10		
9					シルト質粘土	黄褐色	腐植物の粗粒混入 粘り強い	27	8	10		
10					シルト質粘土	黄褐色	粘り強い	30	8	12		
11					シルト質粘土	黄褐色	粘り強い	43	10	20		
12					シルト質粘土	黄褐色	粘り強い	47	11	20		
13					シルト質粘土	黄褐色	粘り強い	49	13	20		
14	5.616	13.70	4.20		風化泥岩	褐色	非常に硬質で粘り強い 加重量の腐植物混入	53.6	14	17		
15					風化泥岩	褐色	非常に硬質で粘り強い 加重量の腐植物混入	50	5	5		
16					風化泥岩	褐色	非常に硬質で粘り強い 加重量の腐植物混入	50	4	4		
17					風化泥岩	褐色	非常に硬質で粘り強い 加重量の腐植物混入	50	6	6		
18					風化泥岩	褐色	非常に硬質で粘り強い 加重量の腐植物混入	50	6	6		
19	1.116	19.20			泥	褐色	非常に硬質で粘り強い 加重量の腐植物混入	50	5	5		



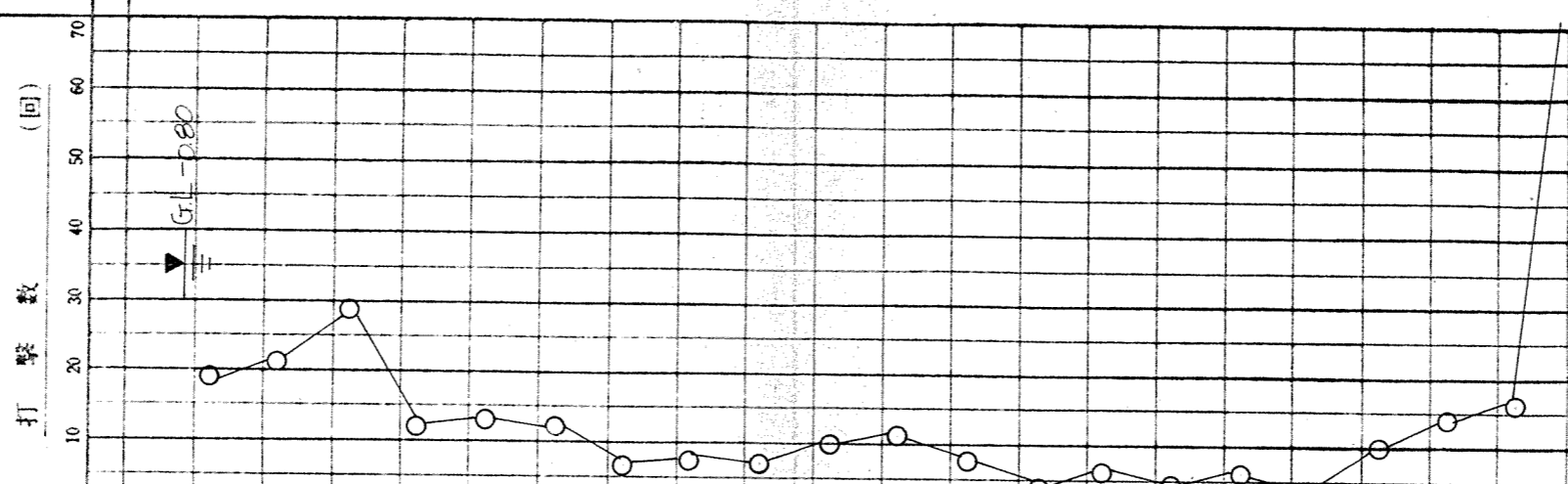
土質柱状図

No. 52

調査件名 (依頼) 首都清理工場建設敷地地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 地
 調査期間 昭和 5 年 9 月 11 日 ~ 昭和 5 年 9 月 12 日
 地盤高 7.578 (M) 地下水位 G.L. - 0.80 (M) (自 [15])
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

A B C D E F G H I J

標尺 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験	
									打撃数 (回)	30cm 打撃回数 G.L. M 計算数
0	7.578	0.00								
1	6.378	1.20	X	土質不明	暗赤	上部層の岩屑を混入し、粘土質の土質を主体とする	中		19	6.67
2			○	粘土質	暗赤	全体に岩屑を混入した層である			21	6.78
3			○	粘土質	暗赤	下部で多量の長繊維状の岩屑を混入			29	6.12
4	3.778	2.60	○	岩屑混り細砂	灰	全体に粘土物の量と長繊維状の岩屑を混入			11.6	3.81
5			○	粘土質	灰	粘土物が多い			13	4.14
6	1.978	1.80	○	シルト混り細砂	灰	全体に粘土物の量と岩屑、繊維を混入	中		12	4.44
7			○	粘土質	灰	粘土物が多い	ゆるい		6.7	2.21
8			○	粘土質	灰	全体に多量の長繊維を集中層に混入			7.5	2.34
9	1.372	0.60	○	長繊維混りシルト質細砂	灰	全体に多量の長繊維を集中層に混入	ゆるい		7	2.21
10			○	粘土質	灰	全体に多量の長繊維を集中層に混入	ゆるい		10	3.34
11			○	粘土質	灰	若干の岩屑	中		11	3.44
12			○	粘土質	灰		ゆるい		8	2.33
13	5.622	13.20	○	長繊維混り岩屑級土	灰	全体に長繊維の量と粘土物の量混入	中		4	2.64
14			○	粘土質	灰	全体に長繊維の量と粘土物の量混入	中		6	2.22
15			○	粘土質	灰	150M 付近に長繊維混入せず	中		4.5	2.38
16			○	粘土質	灰	全体に粘土物と長繊維を混入	中		6	1.23
17			○	粘土質	灰	全体に粘土物と長繊維を混入	中		3.4	1.15
18			○	粘土質	灰	19M 付近に岩屑が混入	中		10	3.34
19			○	粘土質	灰		中		14	5.45
20			○	粘土質	灰		中		16	3.19
21	12.922	20.50	○	岩屑混りシルト級土	灰	非常に硬質の岩層である	硬		50	21.5
22			○	粘土質	灰	粘土質を主体とする	硬		50	18.75
23			○	粘土質	灰	全体に非常に粘土物が多い	硬		50	18.75
24			○	粘土質	灰		硬		50	18.75
25			○	粘土質	灰		硬		50	18.75
26	18.502	26.08	○	泥	灰		硬		50	18.75
27			○	粘土質	灰		硬		50	18.75
28			○	粘土質	灰		硬		50	18.75
29			○	粘土質	灰		硬		50	18.75

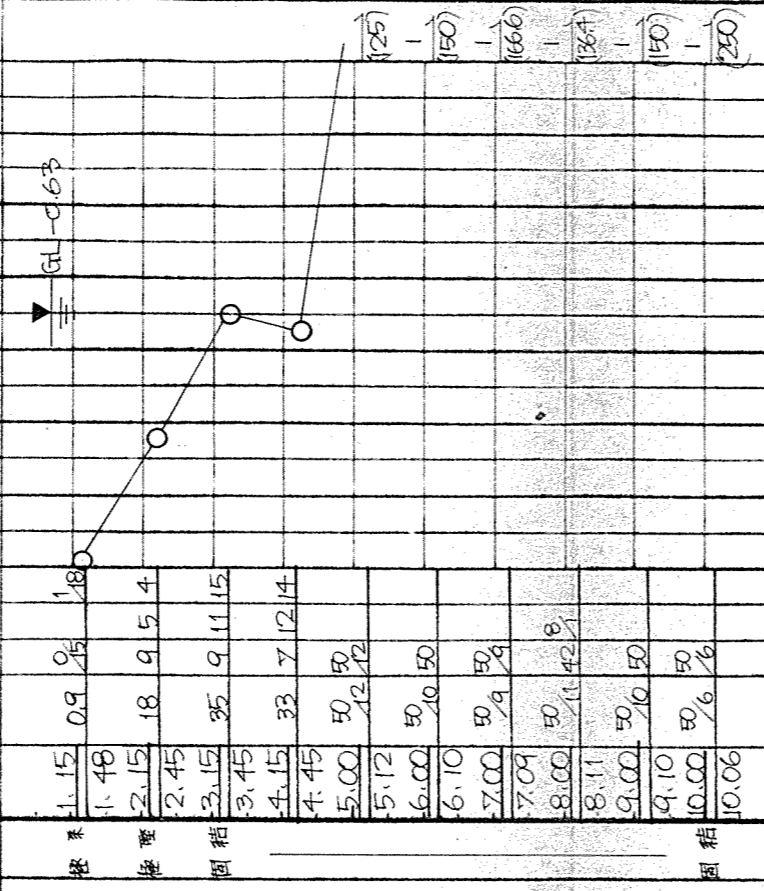
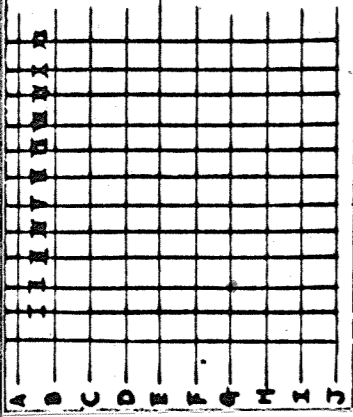


土質柱状図

No. 54

調査件名	(株)南越清掃工場建設敷地地質調査		
調査場所	機原町 神田町 2187 地		
調査期間	昭和 55 年 9 月 2 日 ~ 昭和 55 年 9 月 2 日		
地盤高	17.152 (M)	地下水位 G.L. - 0.63 (M) (自然孔内)	
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm		
現場担当者			

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験				
										深度 G.L. (M)	30打 cm 撃回数	10cm 毎の 10cm 打撃回数	打撃数 (回)	
0	17.152	0.00												
1	16.652	0.50	0.50	表	土質未定		腐植土主体、腐植物混入				0.9	9	18	
2	15.352	1.80	1.30	粘	土質未定		全体的に凝固質粘土を主体とし、粘着力大				1.8	18	36	
3	14.552	2.60	0.80	粘	粘土		粘り強さが少ない				3.5	35	70	
4				粘	粘土		上部風化が進んでおり、粘り強さが少ない				4.5	45	90	
5				粘	粘土		5M 粘り強さあり				5.0	50	100	
6				粘	粘土		下部に於てコア試料の回収率は、10~20cm 位の棒状コア試料回収				5.12	51	102	
7				粘	粘土		下部非粘り硬質で、貫入試料時、バウンドし、コア試料量が減る				6.0	60	120	
8				粘	粘土						7.0	70	140	
9				粘	粘土						8.0	80	160	
10	7.092	10.06		粘	粘土						8.11	81	162	
11				粘	粘土						9.0	90	180	
12				粘	粘土						9.10	91	182	
13				粘	粘土						10.0	100	200	
14				粘	粘土						10.06	100	201	
15				粘	粘土									
16				粘	粘土									
17				粘	粘土									
18				粘	粘土									
19				粘	粘土									

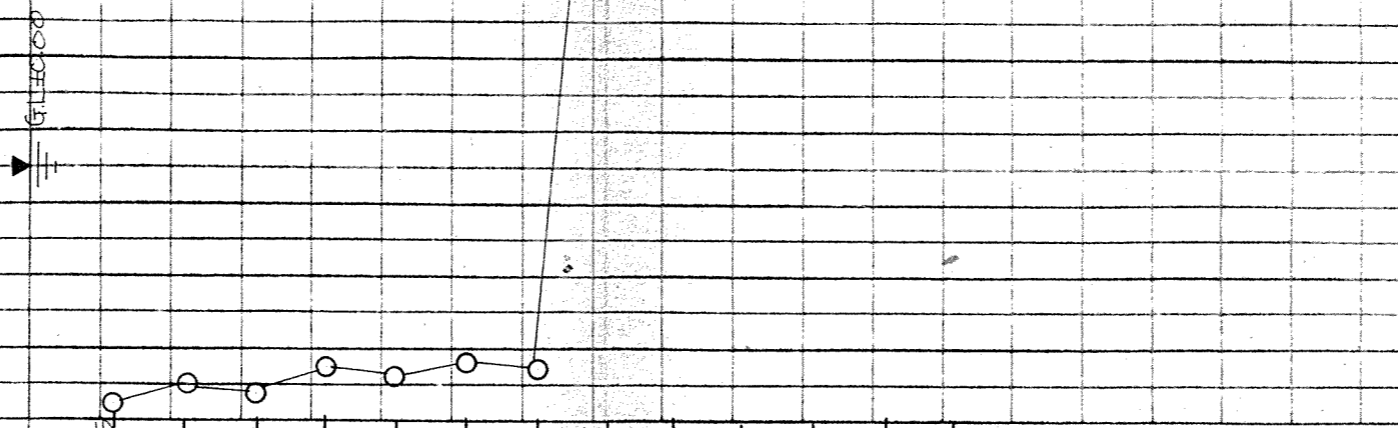


土質柱状図

調査件名 A6 砂
 調査場所 (仮称) 前所青柳工場建設敷地 地盤調査
 調査期間 昭和 55年 9月 2日 ~ 昭和 55年 9月 2日
 地盤高 標高 13.637 (M) 地下水位G.L ± 0.00 (M) (自然凡因)
 使用機械 ローター式 KTR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打30打/cm 撃回数	10cm 毎の 打撃回数	(回)
0	13.637	0.00		X	表		粘性土主体、草根等混入					
1	12.937	0.70	0.70	V.V	土 砂	灰	腐植土主体成り			2	15	15
2	12.037	1.60	0.90	V.V.V	植 土	灰	若干粘性土含む、腐植物混入			5	12	2
3				O ₂₀			シルト主体成り			4	11	2
4	9.787	3.85	2.25	O ₁₀	岩 砕 混リ	上 緑	岩砕混入、シルト含む			7	22	3
5	8.737	4.90	1.05	O ₁₀	上 混リ 岩 砕	上 緑	岩砕主体成り、砂分含む			6	22	2
6				O ₁₀			岩砕は10~20%位			8	23	3
7				O ₁₀			砂分は均一したもの			7	22	3
8	5.437	8.20	3.30	O ₁₀	混 混リ 岩 砕	上 緑	全柱に上部は顕微の堆んだ			50	36	5
9				O ₁₀			土丹はす			50	38	
10				O ₁₀			上部はシルトが多く			50	38	
11				O ₁₀			下部に於て非常に硬質成る			50	39	
12				O ₁₀			上部はスラム化し			50	38	
13	0.537	13.08		O ₁₀	混 混リ 岩 砕	上 緑	下部に於て固軟率が高い			50	38	
14												
15												
16												
17												
18												
19												

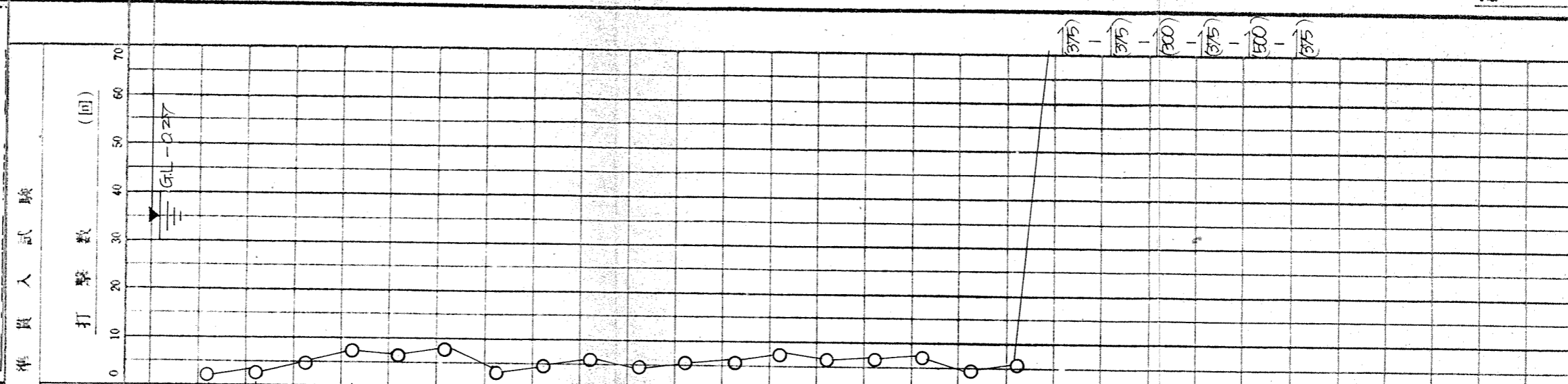


土質柱状図

AS 56

調査件名	(仮称) 首都圏環状工事場建設敷地、地盤調査		
調査場所	横須賀市神田町 2187 他		
調査期間	昭和 55 年 8 月 28 日 ~ 昭和 55 年 8 月 28 日		
地盤高	標高 11.057 (M) 地下水位 G.L. - 0.27 (M) (自然孔内)		
使用機械	ロータリー式 KCR 100 孔径 66 mm		
現場担当者			

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験	
										深打 30 打 10cm 毎の G.L. 撃回数 M 数	計算数
0	11.057	0.00									
1	10.657	0.40	0.40	表	土層	黒	黄褐色 上部腐植物混入 細砂土混入 含砂			1.15	1.9
2										1.46	2.6
3	8.157	2.90	2.50		シルト質粘土	黄	粘性大~中粒 上部腐植物混入 腐植物混入 4M 付近の岩屑混入を増す シルトは 25~35% 位			2.15	12.1
4										2.50	4.7
5	6.057	5.00	2.10		シルト質細砂	黄	全粒に見られる細砂混入 腐植物混入			3.15	7
6	4.557	6.50	1.50		シルト質細砂	黄	全粒に軟い~中粒の硬さの土質がある 含砂大である 全粒に岩屑の粗砂が 5~15% 位の土質である 9M 付近に腐植物混入 上部見られる土質混入 上部見られる土質混入			4.15	2.2
7										4.45	3.6
8										7.15	4.1
9										8.15	4.7
10										8.47	2.2
11										9.15	6
12										9.45	2.2
13										10.15	4.5
14										10.48	2.2
15										11.15	5.3
16										11.49	2.2
17										12.15	5.6
18										12.47	7
19										13.15	2.2
20										13.45	6
21										14.15	2.2
22										14.45	6.4
23										15.15	2.2
24										15.48	7
25										16.15	2.2
26										16.45	2.2
27										17.15	4.5
28										17.48	6
29										18.15	2.2
30										18.45	5.4
31										19.15	5.4
32										19.19	5.4
33										20.15	5.4
34										20.19	5.4
35										21.20	5.4
36										22.15	5.4
37										22.19	5.4
38										23.15	5.4
39										23.18	5.4
40										24.15	5.4
41										24.19	5.4

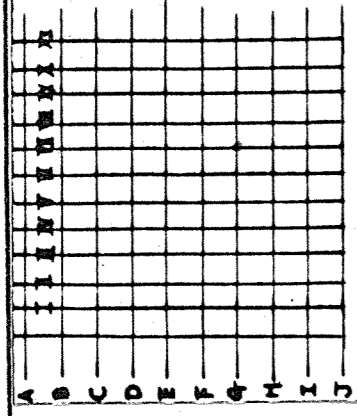


(375) - (375) - (300) - (375) - (300) - (375)

土質柱状図

№ 57

調査件名 (仮称) 首都圏再開発工事 建設敷地地質調査
 調査場所 横須賀市神明町 287 地
 調査期間 昭和 57年 8月 27日 ~ 昭和 57年 8月 27日
 地盤高 9.41 (M) 地下水位G.L. ±0 (M) (自然孔因)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験													
										深度 G.L. (M) 数	30打 cm 撃算数	10cm 毎の 打撃回数 / 10cm	打撃数 (回)										
0	9.41	0.00																					
1	8.91	0.50	0.50	表	土 雑砂土	黄褐色	身取混入、粘土主体、腐植物混入				1.0	10	1.0	10									
2	7.86	1.55	1.05		シルト質粘土	灰	上部腐植物混入				10	3	3.3	3									
3	6.81	2.60	1.05		細砂	灰	粗砂質				24	6	6.0	6									
4	5.06	4.35	1.75		粘り土	黄	粘り土、腐植物混入、粘土				21	8	7.6	8									
5						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				17	7	6.4	7									
6						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				13	5	4.4	5									
7						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				14	4	4.5	4									
8						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				9	3	3.3	3									
9						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				7	2	2.2	2									
10						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				8	2	2.4	2									
11						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				6	2	2.2	2									
12	-3.19	12.60	8.25		粘り土	黄褐色	750M以下にて、やや軟い、粘り土、腐植物混入、粘土				35	12	10.13	12									
13						黄	粘り土、腐植物混入、粘土				43	12	18.13	13									
14	-4.64	14.05	1.45		粘り土	灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	4	4.4	4									
15						灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	3	5.0	3									
16	-6.39	15.80	1.75		粘り土	灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	3	5.0	3									
17						灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	3	5.0	3									
18	-8.19	17.60	1.80		粘り土	灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	6	6.6	6									
19	-9.77	19.18			粘り土	灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	5	5.5	5									
20						灰	粘り土、腐植物混入、粘土				50	3	5.0	3									

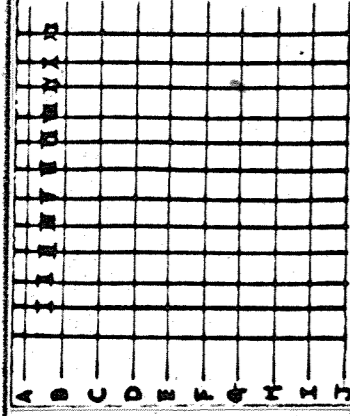


土質柱状図

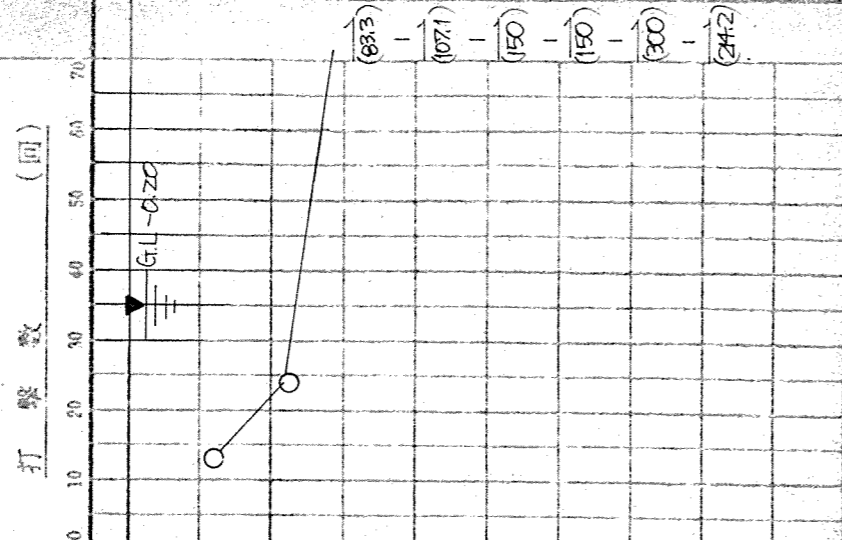
№ 58

調査件名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械
現場担当者

(仮称) 沼部清掃工場建設敷地地盤調査
千葉県市川市 2187 地
昭和 55 年 9 月 14 日 ~ 昭和 55 年 9 月 14 日
標高 8.484 (M) 地下水位 G.L. -0.20 (M) (自然孔内)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



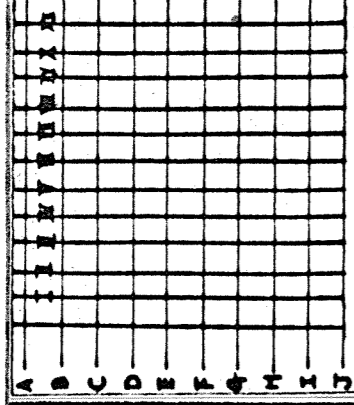
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記号	相対密度	相対稠度	深打 G.L (M) 数	30打 10cm 毎の 打撃回数 / 10cm 換算数	標準貫入試験
0	8.484	0.00										
1	7.784	0.70	0.70	表	土 暗黒褐		粘土主体 上部粘土分混入			1.15	13	
2	6.884	1.60	0.90	細	砂	暗 灰	粘土主体 上部粘土分混入 粘粒細片多量混入			1.45	24	
3	5.524	2.95	1.35		粘 砕	暗 青 灰	腐植物混在、粗砂粗くなる 岩砕は泥粒、土中主体、 (φ10~20%)			2.45	50	
4						暗 緑 灰	上部にて甚く固結細砂を 含む			3.33	50	
5						暗 緑 灰	上部風化を受けてキワ面に 弱酸化帯を 帯びる			4.29	50	
6	2.784	5.70	2.75		泥	暗 青 灰	上部風化を受けてキワ面に 弱酸化帯を 帯びる			5.25	50	
7	2.084	6.40	0.70		砂	暗 青 灰	上部風化を受けてキワ面に 弱酸化帯を 帯びる			6.15	50	
8	0.264	8.22			泥	暗 青 灰	上部風化を受けてキワ面に 弱酸化帯を 帯びる			7.20	50	
9							上部風化を受けてキワ面に 弱酸化帯を 帯びる			7.15	50	
10							上部風化を受けてキワ面に 弱酸化帯を 帯びる			8.15	50	



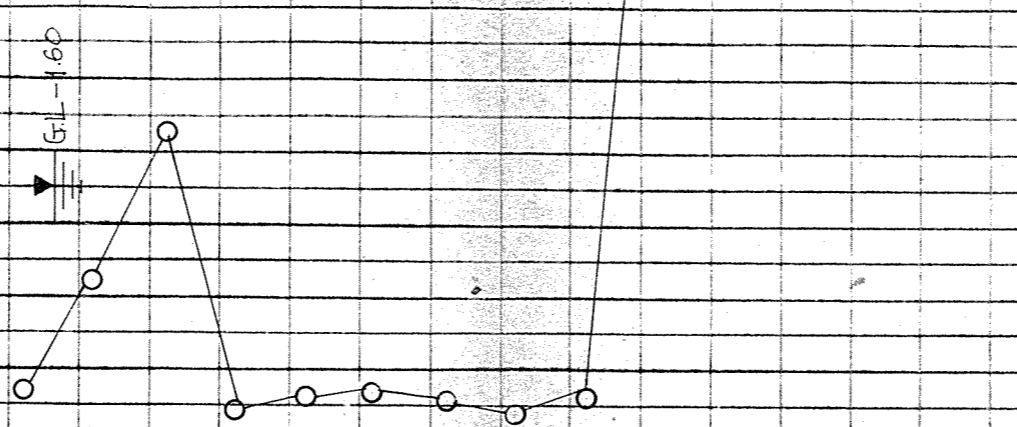
(883) -
(1071) -
(150) -
(150) -
(300) -
(242)

土質柱状図

調査件名	No. 59
調査場所	(仮称) 首都圏整備工場の建設敷地北地復旧工事 機原宿字神明町 287 他
調査期間	昭和 55 年 9 月 12 日 ~ 昭和 55 年 9 月 13 日
地盤高	標高 8.667 (M) 地下水位 G.L. - 1.60 (M) (自然孔内)
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm
現場担当者	



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験					
										30打 cm 撃算数	10cm 毎の 10cm 打撃回数	打撃数 (回)			
0	8.667	0.00													
1	7.966	0.70	0.70	表	土	灰	多量の草、竹、木の根混入 粘性土主体で岩屑混入	中位	中位	6.6	2	2	3		
2	6.967	1.70	1.00	粗	砂	灰	全体的に多量の岩屑、腐植物混入	中位	中位	22	5	7	10		
3	6.167	2.50	0.80	粗	砂	茶	全体的に粗砂が不均質で 礫混入	中位	中位	43	12	14	17		
4	4.967	3.70	1.20	粗	砂	灰	多量の長線片を集中的に混入 X、少量の岩屑、小礫混入	中位	中位	4.3	2	3	3		
5							全体的に細粒化層で 多量の長線片と腐植物混入	中位	中位	6	2	2	2		
6							6M 付近で多量の長線片を 集中的に混入	中位	中位	6.6	1	3	3		
7							下部で岩屑多くなる	中位	中位	5.6	2	2	2		
8								中位	中位	7.47	2	2	2		
9	0.833	9.50	5.80	粗	砂	緑青	岩屑混り、粗砂	中位	中位	8.15	3	3	3		
10							非常に硬質でキリが多い 粗砂岩を夾層する	中位	中位	8.46	1	3	2		
11							全体的にキリが多く コア残りの少ない土井である (小さくだけれる)	中位	中位	9.15	6	8	8		
12								中位	中位	9.45	50	50	50		
13								中位	中位	10.05	50	50	50		
14								中位	中位	10.13	50	50	50		
15	6.383	15.05			泥	灰		中位	中位	11.05	50	50	50		
16								中位	中位	11.13	50	50	50		
17								中位	中位	12.05	50	50	50		
18								中位	中位	12.11	50	50	50		
19								中位	中位	13.05	50	50	50		
								中位	中位	13.12	50	50	50		
								中位	中位	14.05	50	50	50		
								中位	中位	14.11	50	50	50		
								中位	中位	15.00	50	50	50		
								中位	中位	15.05	50	50	50		

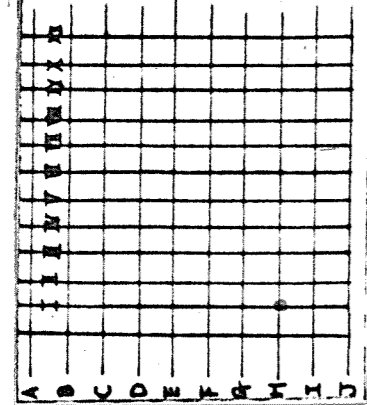


土質柱状図

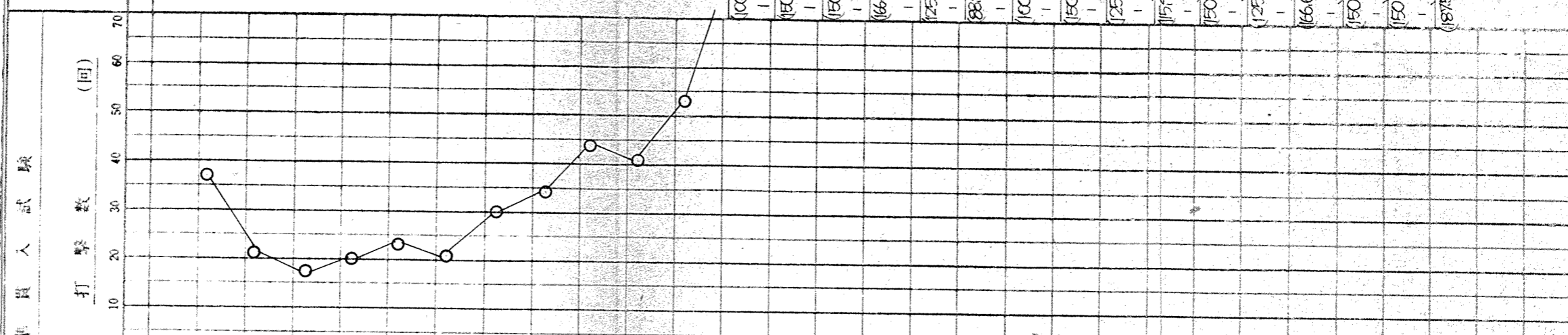
No. 60

調査件名
場所
期間
高さ
使用機械
現場担当者

(名称) 有部清瀬工場建設敷地 地質調査
機原宿市神田町 2187 地
昭和 55年 9月 7日 ~ 昭和 55年 9月 9日
標高 46.828 (M) 地下水位 G.L. (M) (自然孔内)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



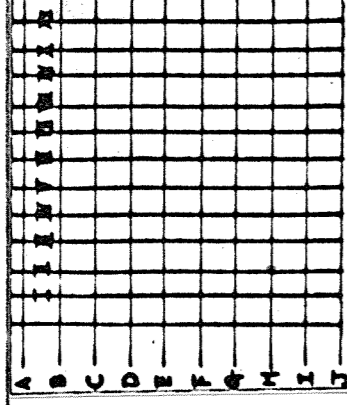
標尺 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	30打 10cm毎の 度撃回数 G.L. 10cm M 数算数	標準貫入試験 打撃数 (回)	備考
0	46.828	0.00									
1						全体に硬く締る 上部キリツク走る 下は若干砂質分混る		固結	1.15 37 1.45 10, 12, 15		
2					暗赤褐色	250~5.00M 風化作用強くなり、もろく 若干粘土化を呈す		硬	2.15 21 2.45 5, 7, 9		
3									3.15 17 3.45 6, 5, 6		
4									4.15 20 4.45 7, 5, 8		
5					暗黄褐色	全体にキリツク入る もろい状態を呈す キリツク面を酸化(茶褐色) を帯る			5.15 23 5.45 8, 8, 7		
6						5~6.50M 車輻砕岩を挟在 粒子細かく、 8M付近にこそろく砕け 果粒状となす 9M付近、管状となる 5M付近の下部にて風化作用 弱くなるが、下はキリツク面を酸化 を帯るが、非常に硬い状態となる 11M付近にて、微少量の粗粒土 を混る		固結	6.15 21 6.45 6, 7, 8 7.15 30 7.45 7, 14, 9 8.15 34 8.45 10, 11, 13 9.15 44 9.45 12, 15, 17 10.15 41 10.45 12, 14, 15 11.15 53, 6, 13, 17, 8		
7									11.45 50 12.15 45, 38, 25		
8									13.15 50 13.25 40, 50		
9					暗赤褐色	13.50M付近に硬く締り キリツクもろい状態となり 若干の粘土化を帯る 全体に非常に硬く安定する 13.50~18.50M 間、風化作用 非常に強くなり、もろい状態を呈し て粘土化を呈す			14.15 50 14.25 40, 50 15.15 50 15.24 49		
10									16.15 50 16.27 12, 40, 2		
11									17.15 50 17.32 17, 28, 7		
12									18.15 50 18.30 15, 31, 5		
13					暗赤褐色	全体的に均質な状態を呈すが、キリツク入る 全体に風化の為にコア(硬)にくい			19.15 50 19.25 10, 50		
14									20.15 50 20.27 12, 38, 2		
15									21.15 50 21.28 13, 32, 3		
16									22.15 50 22.25 10, 50		
17									23.15 50 23.27 12, 41, 9, 2		
18									24.15 50 24.24 9, 9		
19									25.15 50 25.25 10, 50		
20									26.15 50 26.25 10, 50		
21	26.328	20.50	風化 泥	泥					27.15 50 27.23 8		
22											
23											
24											
25											
26											
27	19.598	27.23	泥	岩							
28											
29											



土質柱状図

№ 61

調査件名 (仮称) 香取湾埋立建設敷地地質調査
 調査場所 機原貫沖田 287 他
 調査期間 昭和 55年 9月 5日 ~ 昭和 55年 9月 6日
 地盤高 標高 29.071 (M) 地下水位G.L (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 %
 現場担当者



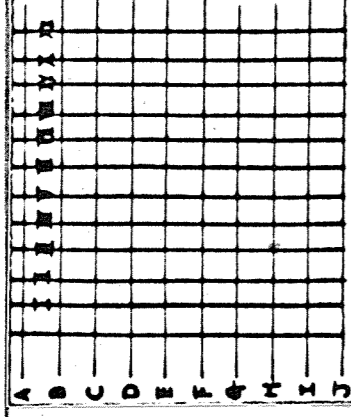
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験									
										深打 30打 cm 撃 G.L (M) 数	深打 10cm 毎の 打撃回数 10 20 30	打撃数 (回)							
0	29.071	0.00																	
1							0~0.50M 強い風化(以下) 非常に多い			1.15	32	7	10	15					
2							キル全体に入り、もろくなる			1.45									
3							キル面は茶褐色の風化を帯び			2.15	62.5	12	25	13					
4							4.60~5.50M 風化弱く			2.39	57.7	10	21	19					
5							モロい状態となす			3.15	60	15	23	12					
6							非常に少量の礫状コアとなる			3.41	31	9	10	12					
7							6.50M付近より下部にて弱い			4.15	42	12	16	14					
8							風化を受け、非常に硬質			4.40	50	20	23	27					
9	20.071	9.00	9.00		風化泥 岩乳黄水		8~9M 泥水/4位 涌水する			5.15	50	11	43	71					
10							9~12M 付近にて若干の風化を			5.45	50	10	50						
11							受ける。非常に硬質は少量の			6.15	42	12	16	14					
12							風化を帯びる			6.45	50	10	50						
13	15.851	13.22			泥 岩黄水		10~5~10cm 位の礫状コア			7.15	50	11	43	71					
14							となるが、大半がコアとなるに			7.35	50	10	50						
15							く、			8.15	50	11	43	71					
16							非常に硬質にて決定する			8.26	50	10	50						
17										9.15	50	10	50						
18										9.22	50	10	50						
19										10.15	50	10	50						
										10.25	50	8	28						
										11.15	50	8	28						
										11.23	50	10	50						
										12.15	50	10	50						
										12.25	50	10	50						
										13.15	50	10	50						
										13.22	50	10	50						

(75) - (1364) - (2442) - (150) - (1875) - (150) - (2442)

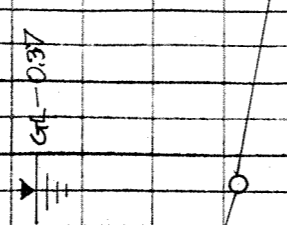
土質柱状図

No. 62

調査件名 (株) 南部青柳工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 機原町神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 1 日 ~ 昭和 55 年 9 月 2 日
 地盤高 標高 15.499 (M) 地下水位 G.L. -0.37 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 %
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験											
										深打 30 打 cm 撃数	10cm 打撃回数 / 10cm 換算数	10 20 30	打撃数 (回)								
0	15.499	0.00																			
1	15.099	0.40	0.40	表	土 礫 礫	褐	上部礫化を受けて粘土状となり 全体に若干の凝りも帯る 粘性も有するが、粘りも弱い 水質は硬い、含砂中位〜大														
2	12.799	2.70	2.30		粘土 質 粘 土	黄 赤	全体に硬く、粘りも強い														
3	11.599	3.90	1.20		固 結 粘 土	黄 赤	下部 凝固を著す														
4							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
5							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
6							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
7							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
8							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
9							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
10							全体に硬く、粘りも強い 下部 凝固を著す														
11	4.299	11.20			泥	黄 赤	約 10cm 位の硬状コアと なるが、大半は硬状コアと なる 非粘り性である														
12																					
13																					
14																					
15																					
16																					
17																					
18																					
19																					

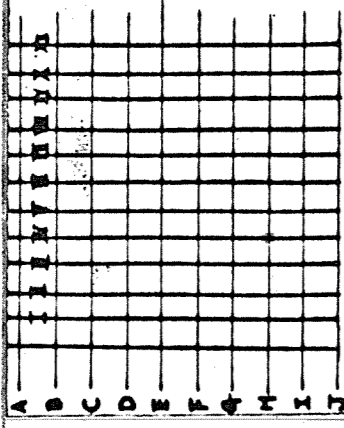


(714)
 (100)
 (375)
 (300)
 (300)
 (150)
 (242)
 (300)

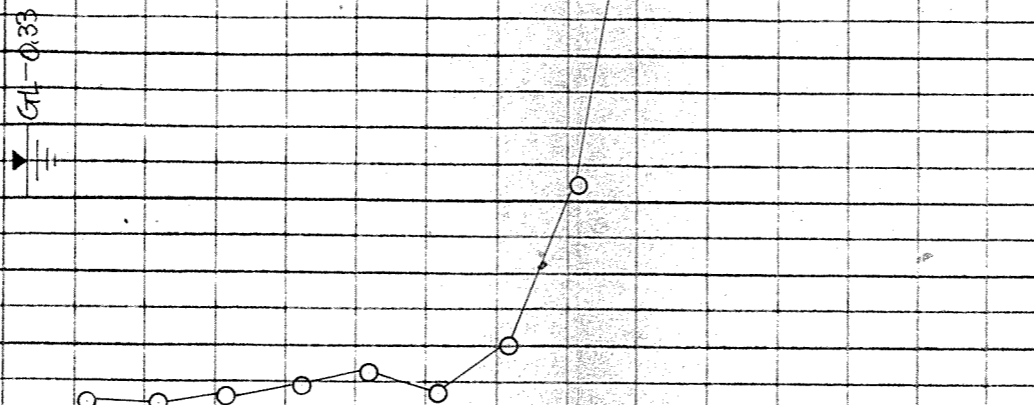
土質柱状図

No. 63

調査件名 (名称) 菅野清野工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 柳瀬賢市神明町 287 地
 調査期間 昭和 55 年 8 月 30 日 ~ 昭和 55 年 9 月 1 日
 地盤高 13.865 (M) 地下水位 G.L. -0.33 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



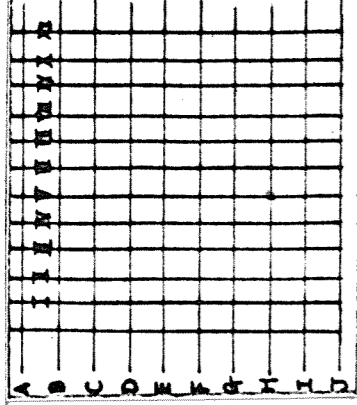
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30 打 cm 撃換算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	13.865	0.00										
1	13.165	0.70	0.70	表	土 質 黒 褐		草根混入、粘土主体 植物物質量混入	1.15	2	16	14	
2					土 質 黒 灰		全所に砂質土が混入 260M 付近の小礫状の固 細混入を増す	1.45	17	19	17	
3	10.215	3.65	2.95		土 質 黄 粘		シルト質粘土 粘性大	2.51	28	12	11	
4	9.615	4.25	0.60		土 質 黄 粘		砂質土混り粘土 粘性大	3.47	48	26	25	
5					土 質 黄 粘		中硬~密な粘土 岩質粘土片を主体	4.46	6	2	2	
6					土 質 黄 粘		約 10~30% 主体 全所に含水大きな 粘土質植物物質量混入	5.15	6	2	2	
7					土 質 黄 粘		全所に不規則な塊状の 5M 付近、長粒細砂混入 760M 付近、岩質粘土	6.15	37	26	26	
8	5.315	8.55	4.30		土 質 黄 粘		岩質混りシルト質細砂 中硬	6.47	10	3	3	
9					土 質 黄 粘		全体的に歩痕状の塊を呈して 安定するが、シルトが多く走る 粘土質植物物質量混入 少量の礫状アーク状 採取される	7.15	10	3	3	
10					土 質 黄 粘		非粘に硬質粘土 粘土質植物物質量混入 採取される	7.45	32	7	12	
11					土 質 黄 粘			8.15	50	36	44	
12					土 質 黄 粘			8.45	50	44	50	
13					土 質 黄 粘			9.15	50	50	50	
14	-0.335	14.20			土 質 黄 粘			9.29	50	50	50	
15					土 質 黄 粘			10.15	50	50	50	
16					土 質 黄 粘			10.25	50	50	50	
17					土 質 黄 粘			11.15	50	50	50	
18					土 質 黄 粘			11.26	50	50	50	
19					土 質 黄 粘			12.15	50	50	50	
					土 質 黄 粘			12.21	50	50	50	
					土 質 黄 粘			13.15	50	50	50	
					土 質 黄 粘			13.20	50	50	50	
					土 質 黄 粘			14.15	50	50	50	
					土 質 黄 粘			14.20	50	50	50	



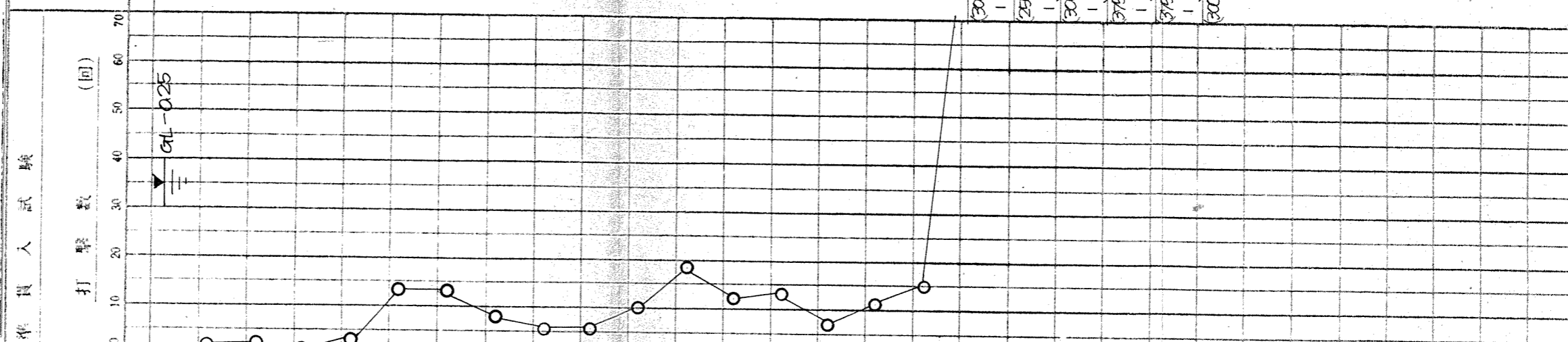
土質柱状図

No. 64

調査件名 (仮称) 有部清浄工場建設敷地地質調査
 調査場所 櫻原宿神町町丁 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 8 月 29 日 ~ 昭和 55 年 8 月 30 日
 地盤高 標高 12.534 (M) 地下水位 G.L. - 0.25 (M) (自然[因])
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對稠度	標準貫入試験	
										打撃数 (回)	10cm 毎の打撃回數 G.L. 擊回數 M 數算數 10.20.30
0	12.534	0.00	0.50	表	土	黒	草根混入、粘土状、全体的に腐植物混入	1.15	1.7	20.15	
1	12.094	0.50	0.50				2M 以下 下部小礫状の區階土混入	1.50	1.9	16.17	
2							粘性中粒~大粒の土混入	2.47			
3							軟弱な土	3.15	0.7	1.45	
4	8.734	3.80	3.30		シルト復粘土	黒	腐植物の分解した土	3.60	3	1.11	
5	7.634	4.90	1.10		腐植土混り粘土	赤	腐植土混入	4.15			
6							全体的に長繊維状の腐植物混入	4.45			
7							不規則な地盤状態にて角礫混入	5.15	13	3.46	
8							角礫混入	5.45	13	4.45	
9							7~9M 角礫植物混入	6.15	8	3.32	
10							7M 以下にて粘り土を混入を増し、粘り性は小さくなる	6.45			
11							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	7.15			
12							岩屑の混入が主体となる	7.45			
13							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	8.15	5.3	2.22	
14							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	8.49			
15							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	9.15	5.5	3.21	
16							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	9.48			
17	-4.166	16.70	11.80		岩屑混り之土	赤	10.80~11.40M 岩屑混入を増す	10.15	10	4.33	
18	-4.766	17.30	0.60		泥	赤	10.80~11.40M 岩屑混入を増す	10.45			
19							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	11.15	19	8.65	
20							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	11.45			
21							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	12.15	12	6.42	
22	-9.666	22.20			粘土	赤	10.80~11.40M 岩屑混入を増す	12.45			
23							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	13.15	13	5.44	
24							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	13.45			
25							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	14.15	6.6	2.22	
26							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	14.47			
27							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	15.15	11	3.44	
28							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	15.45			
29							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	16.15	15	6.54	
30							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	16.45			
31							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	17.15	5.5	5.5	
32							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	17.20			
33							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	18.15	5.0	5.6	
34							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	18.21			
35							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	19.15	5.0	5.5	
36							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	19.20			
37							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	20.15	5.0	5.4	
38							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	20.19			
39							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	21.15	5.0	5.4	
40							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	21.19			
41							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	22.15	5.0	5.5	
42							10.80~11.40M 岩屑混入を増す	22.20			



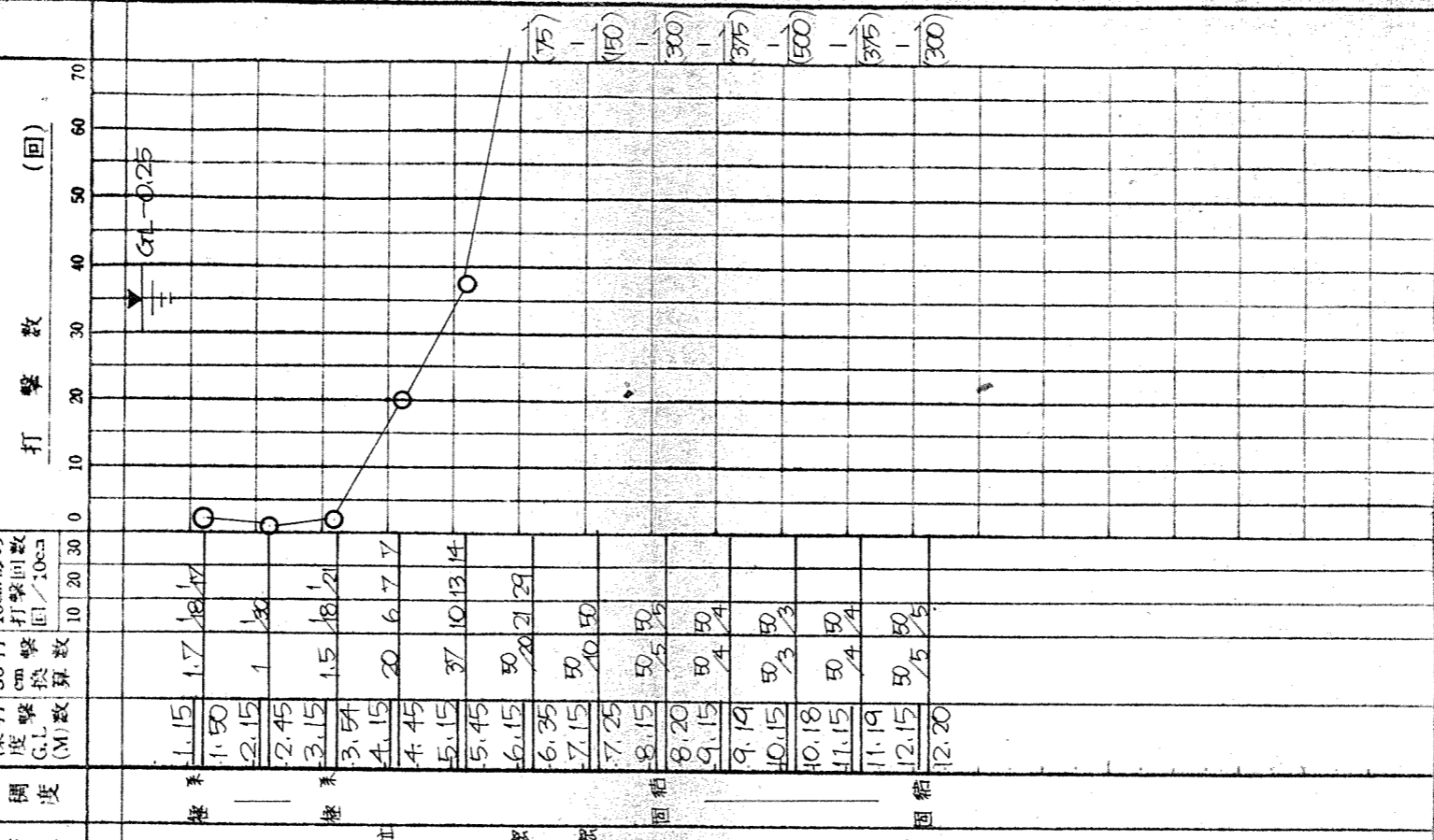
土質柱状図

No. 65

調査件名	(仮称) 首都圏環状工事建設敷地地盤調査		
調査場所	檜原市神楽町 287 地		
調査期間	昭和 55 年 8 月 29 日 ~ 昭和 55 年 8 月 29 日		
地盤高	11.864 (M)	地下水位 G.L.	-0.25 (M) (自然掘込)
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 %		
現場担当者			

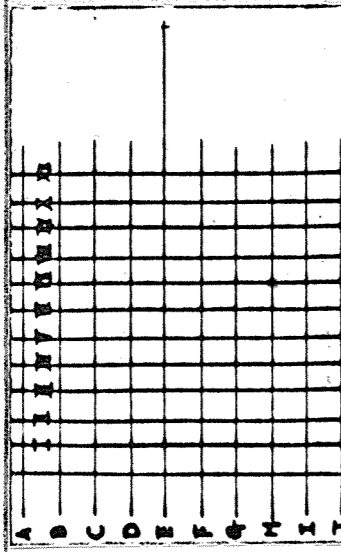
A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対間度	標準貫入試験		
										深打 30 打 cm 撃換算数 (M) 数	10cm 毎の 10 打撃回数	打撃数 (回)
0	11.864	0.00			土	褐	草根多量混入					
1	11.364	0.50	0.50	表			腐植土多量混入					
2							全体に腐植物分解産物混入					
3							含砂					
4	7.864	3.90	3.40		有機復粘土	灰	草根状葉					
5							粘柱大					
6	6.064	5.70	1.80		岩碎混り細砂	灰	上部腐植物少量混入					
7	4.814	7.05	1.35		シルト混り細砂	灰	腐植物 5-10% 混入					
8	3.864	8.00	0.95		細砂	灰	全所に粗砂均一に混入					
9							岩碎少量混入					
10							3-5mm の碎状コブ入る					
11	0.364	11.50	3.50		岩	灰	大半が碎状コブ入る					
12	-0.336	12.20			泥	灰	10mm 以下に容易に砕ける					
13							モルタル状に硬くなる					
14												
15												
16												
17												
18												
19												

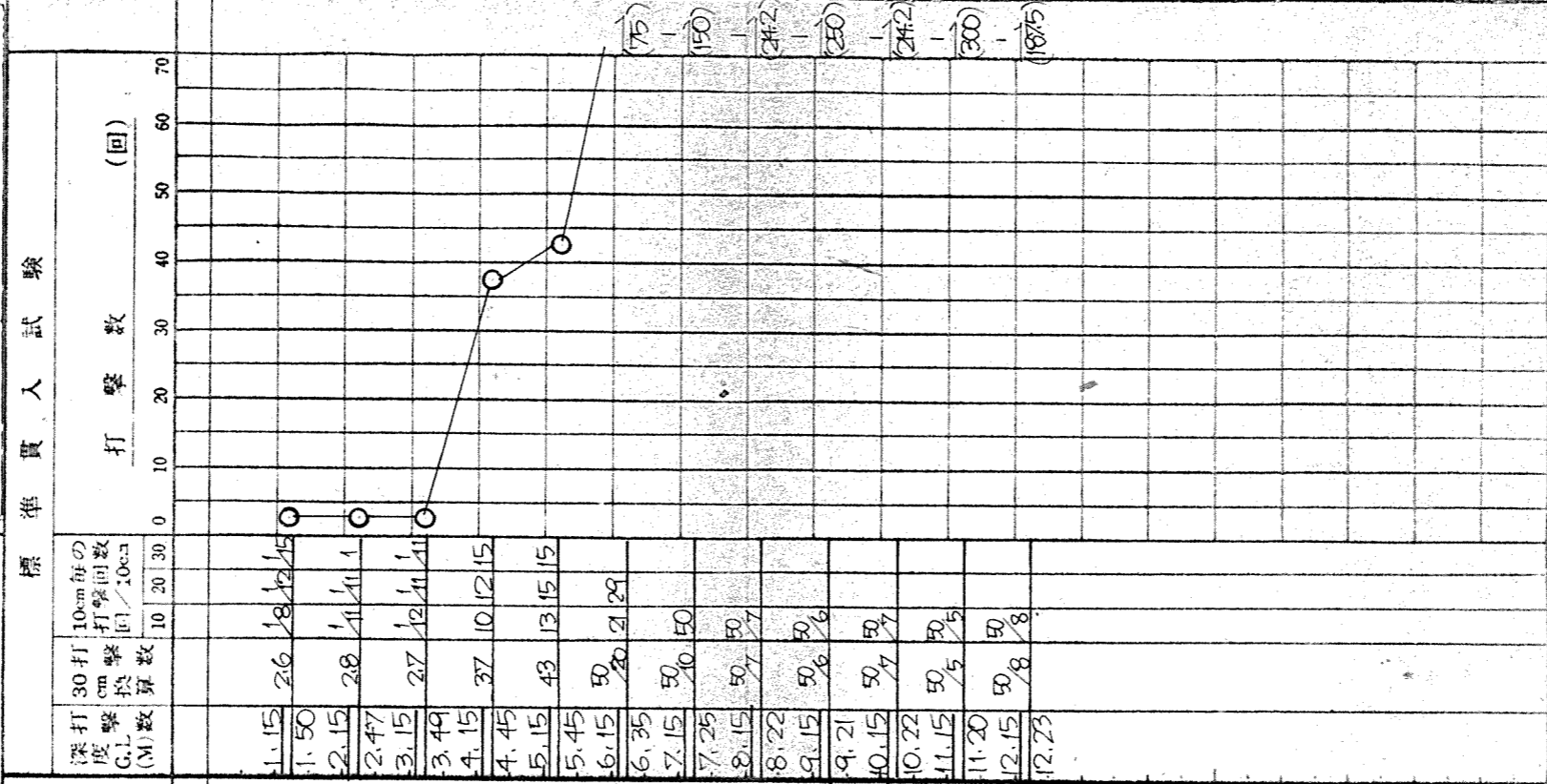


土質柱状図

調査件名	No. 66
調査場所	(仮称) 百瀬川河川工事建設敷地地盤調査
調査期間	昭和 57 年 9 月 8 日 ~ 昭和 57 年 9 月 9 日
地盤高	16.757 (M) 地下水位 G.L (M) (自然原因)
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm
現場担当者	



標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30打 cm 撃換算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	16.757	0.00										
1	15.857	0.90	0.90	益	土 礫 濁		草根・木根少量混入					
2				益			全層に非常な細かい林葉 2~3M 程度まで粗粒土が増す 粘り強細粒 10~20% 程度					
3				益			全体に粗砂が混入 2.50~2.80% 程度。細かい林葉で排水 100%					
4	12.957	3.80	2.90	益	シルト混り岩 砕 礫 濁 灰		粗砂非常に細かい均一 礫田戸が混入					
5				益			中細砂が混入 非常に不均一 水質にて固結状を呈す					
6	10.857	5.90	2.10	益	細 礫 濁 灰		風化作用強くギヤツ面の酸化を呈す 均一な状態である					
7				益			軟弱な粘り強を呈しハズレにて 容易に砕ける					
8	9.057	7.70	1.80	益	風 化 泥 岩 礫 濁 灰		粘り非常に細かい均一					
9	7.657	9.10	1.40	益	粘 泥		土質量の粘り強を呈す 全層に非常に不均一な状態を呈し、砕ける					
10				益			ギヤツ面多く、工作に非常にくい					
11				益								
12	4.527	12.23		益	泥							
13				益								
14				益								
15				益								
16				益								
17				益								
18				益								
19				益								



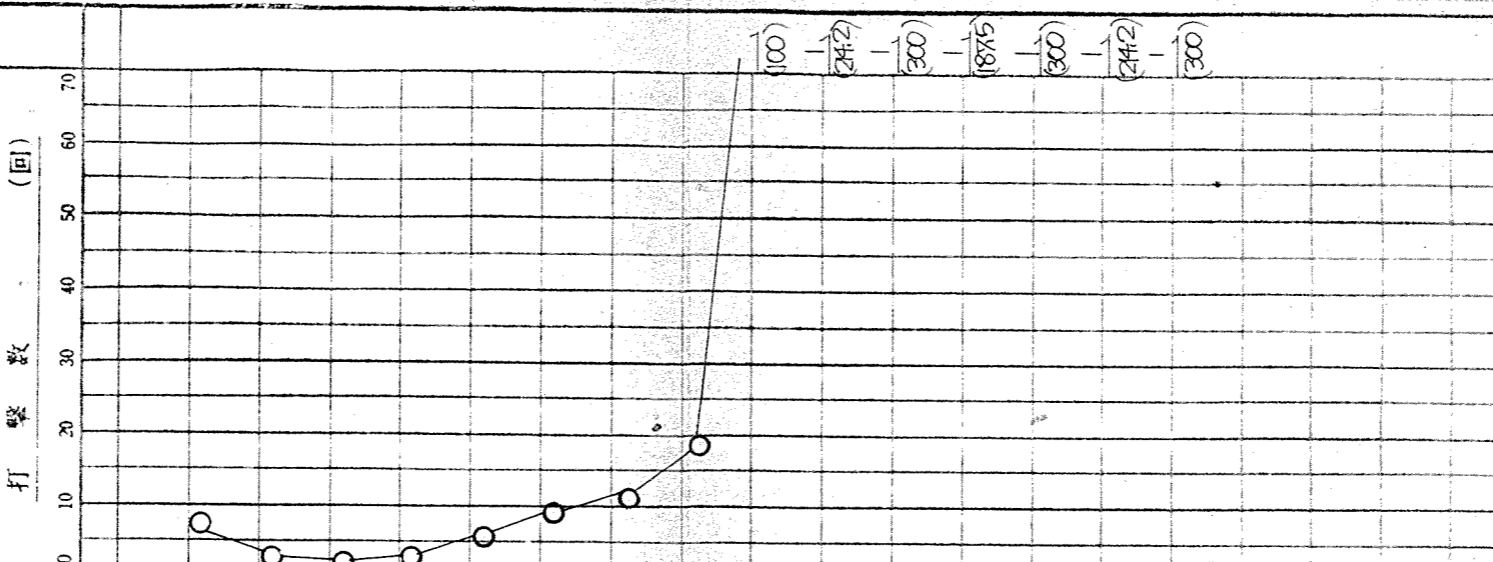
土質柱状図

No. 67

調査件名 (株)南瀬清操工場建設敷地地質調査
 調査場所 機原町神明町 2187 他
 調査期間 昭和 55年 9月 9日 ~ 昭和 55年 9月 10日
 地盤高 標高 17.596 (M) 地下水位G.L. (M) (自然孔内)
 使用機械 ロータリ式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者

A	
B	
C	
D	
E	
F	
G	
H	
I	
J	

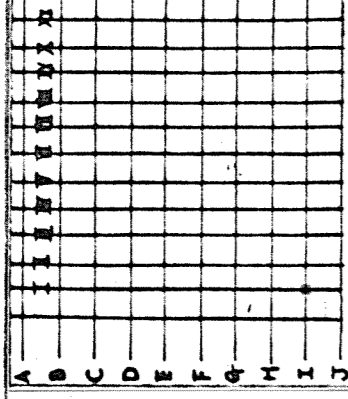
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験								
										深打 30打 10cm毎の 打撃回数 G.L. (M) 数	計算数	打撃数 (回)						
0	17.596	0.00																
1	16.996	0.60	0.60	×	土	褐	玉石混り 全体的に砂質土混入 200~250M程度にて 進水約80% 岩解り20~50%位 含中粒				7	2	2	3				
2											28	11	11	1				
3	14.096	3.50	2.90		粘土混り 岩解り		粘土分若干の凝り質を含む 全体的に細砂分量を呈す 岩解り砂岩及泥岩 岩解り20~30%位				17	18	17					
4											28	11	11	1				
5											58	21	21	2				
6											9	3	3	3				
7											11	3	4	4				
8											19	6	7	6				
9	8.646	8.95	5.45		粘土混り 岩解り	褐色	8M程度以下部粘性土分入 なる				50	15	32	18				
10	8.096	9.50	0.55		岩		粗砂分量混入				50	7	7					
11							上部若干の風化を呈す 細かい粘り質なる 含中粒 キリが多く、コアに粘りこい 水質である				50	5	5					
12											50	8	8					
13											50	5	5					
14											50	7	7					
15	2.396	15.20			泥	岩質					50	5	5					
16																		
17																		
18																		
19																		



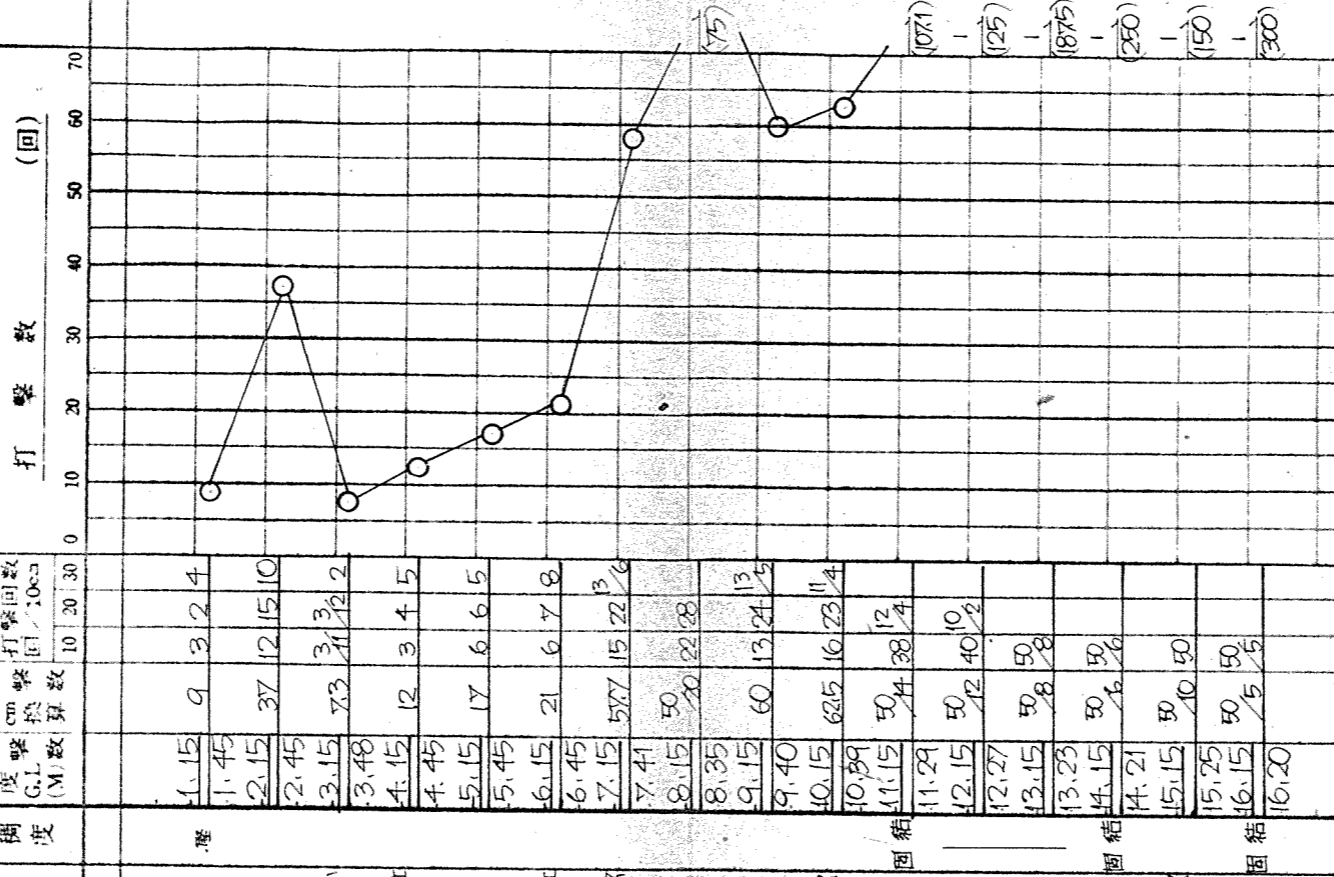
土質柱状図

AG 68

調査件名 (名称) 南武清場工場建設敷地 地盤調査
 調査場所 横浜市中区神田町 287 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 6 日 ~ 昭和 55 年 9 月 7 日
 地盤標高 39.822 (M) 地下水位 G.L. (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験			
										深打 30 打 cm 撃回数 G.L. (M) 数	10 20 30	10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	39.822	0.00			表土	褐色	表土の含水率を測定す						
1	39.422	0.40	0.40	◎	固結土 泥	褐色	下部に泥を混入す				9	3	4
2	38.222	1.60	1.20	◎	ローム 復土	褐色	下部に泥を混入す				37	12	15
3	37.122	2.70	1.10	◎	岩	褐色	泥状注体、含水率高い				23	3	2
4				◎	砂		上部粗粒土が混入				12	3	4
5				◎	砂		4M 注体、砂質を混入す				17	6	6
6				◎	砂		砂質を混入す、粗粒注体、4M 注体、含水率高い				21	6	7
7	33.022	6.80	4.10	◎	砂 混り 岩	褐色	岩質 10~30% 混入、6M 注体、岩質小く混入もみくある				577	15	22
8				◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				50	22	28
9	30.922	8.90	2.10	◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				60	13	21
10	30.122	9.70	0.80	◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				625	16	23
11	28.972	10.85	1.15	◎	砂 混り 粗粒 砂	褐色	粗粒注体、砂質を混入す				50	4	38
12	27.322	12.50	1.65	◎	砂 混り 粗粒 砂	褐色	粗粒注体、砂質を混入す				50	12	4
13				◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				50	10	2
14	25.172	14.65	2.15	◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				50	8	8
15	24.422	15.40	0.75	◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				50	10	50
16	23.622	16.20		◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す				50	5	5
17				◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す						
18				◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す						
19				◎	砂		粗粒注体、砂質を混入す						



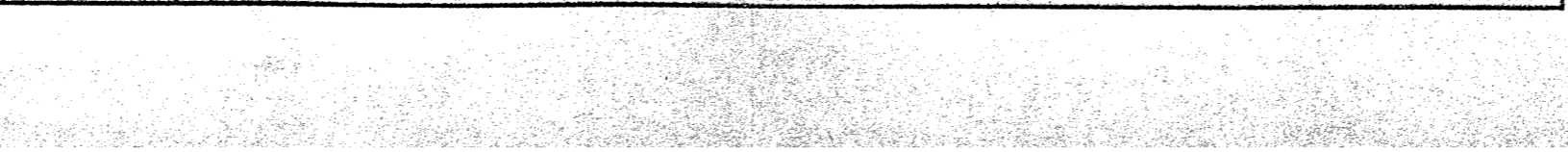
土質柱状図

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

調査件名	(仮称) 補修工事場建設敷地地盤調査		
調査場所	横須賀市神明町 2187 地		
調査期間	昭和 55 年 9 月 5 日 ~ 昭和 55 年 9 月 5 日		
地盤高	27.347 (M)	地下水位 G.L.	(M) (自然孔内)
使用機械	ロータリー式 KR 100	孔径	66 mm
現場担当者			

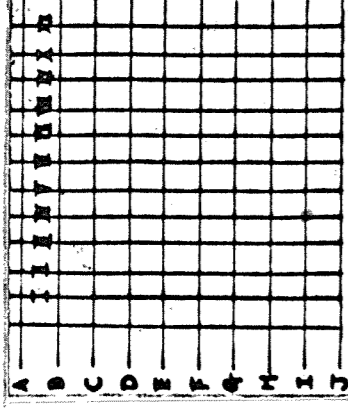
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深度 G.L. (M)	30 打 cm 撃数	10cm 毎の 打撃回数
0	27.347	0.00	0.30	表	土		黒色の土を呈す					
1	27.047	0.30	0.30	表	土		風化強く打て上部で粗土化を呈す					
2	25.847	1.50	1.20	表	凝り集結土混り風化泥岩		下部土層へ増す					
3							全相へ風化を受けともいえない					
4							中に面状で風化する					
5							3.00~4.50M 強い風化を受け非常に硬い					
6	20.747	6.55	5.05		風化泥岩	岩質	下部に強い風化層となる					
7							非常に硬い風化層にて					
8							安定する					
9							全相にキリクが入る					
10							約 10cm 位の塊状コアとなるが大半塊状コアとなる					
11							下部に強いコアとなりつつなる					
12	15.147	12.20			泥岩	岩質	非常に硬い層となる					

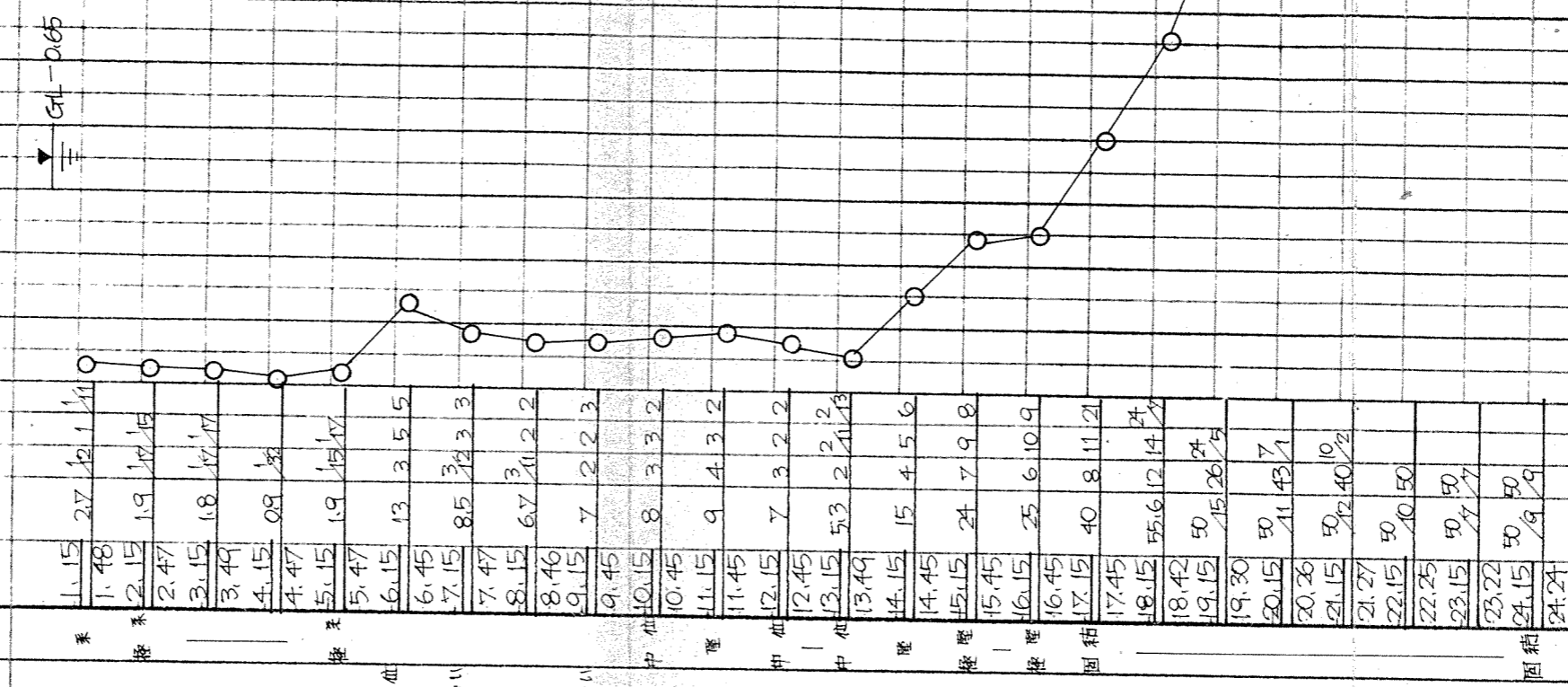


土質柱状図

調査件名 (名称) 新築着床工場の建設敷地地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 287 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 2 日 ~ 昭和 55 年 9 月 3 日
 地盤高 標高 15.813 (M) 地下水位 G.L. - 0.65 (M) (自然水位)
 使用機械 ローター式 KIR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験 30打 10cm毎の 貫入撃回数 (M) 計算数	打撃数 (回)
15.813	0.00									
15.313	0.50	0.50	表	土 質 名		土 質 記 号				
10.313	5.50	5.00	シルト質粘土	土 質 名	暗 灰	シルト質粘土	中			
6.113	9.70	4.20	岩盤	土 質 名	暗 灰	岩盤	中			
2.687	16.80	7.10	岩盤	土 質 名	暗 灰	岩盤	中			
2.687	18.50	1.70	硬質	土 質 名	暗 灰	硬質	中			
8.427	24.24		岩盤	土 質 名	暗 灰	岩盤	中			



土質柱状図

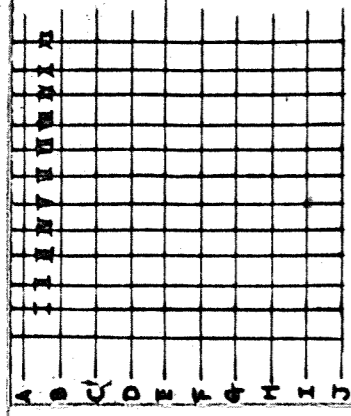
No. 72

調査名
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械
現場担当者

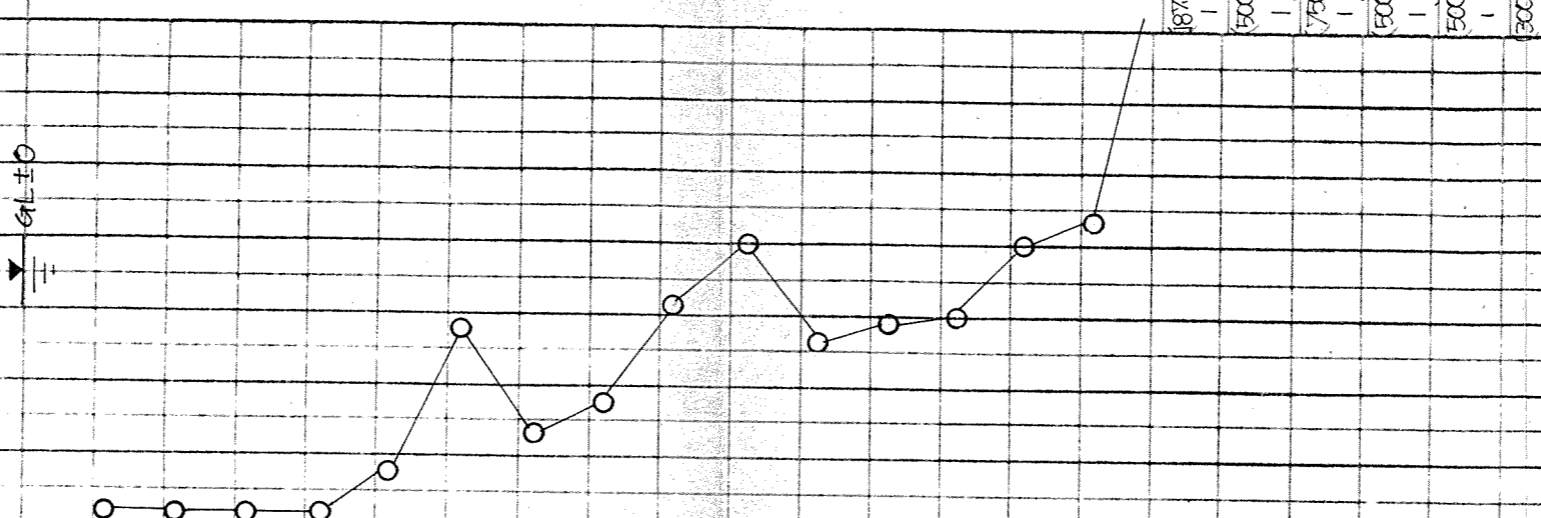
(仮称)南浦清掃工場建設敷地 地震調査
横須賀市神野町 2187 他

昭和 55 年 8 月 29 日 ~ 昭和 55 年 8 月 30 日

標高 14.612 (M) 地下水位 G.L. ±0 (自然水位)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



標尺 (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対含水量	標準貫入試験 吹打 30 打 10cm 毎の 贯入 回数 G.L. 換算数 10 20 30 M 数 換算数	打撃数 (回)
0	14.612	0.00							
1	13.712	0.90	表 土層	褐色	草根多量混入		1.15	1.7	18/17
2					上部が腐植物多量混入 加少量の砂を挟み 含む		1.50	1.6	18/19
3							2.52	1.5	21/20
4							3.56	1.8	18/15
5	9.512	5.10	粘土層 粘土	黒	下部にて若干の固結土混入		4.48	8	2/3
6	8.562	6.05	粘土層 粘土	青			5.45	28	10/9/9
7					岩砕の 30~40mm 位 シルト混入増す		6.45	13	4/4/5
8					若干の腐植物多量混入 加 砂質分含む		7.15	17	10/3/4
9					岩砕は土層を主体とする 上部より 9.50M 付近迄 含む		7.45	31	7/10/14
10					全体的に腐植物が多量混入 にある		8.15	40	10/14/16
11					加 砂質分多量混入		9.45	26	9/9/8
12							10.45	29	7/9/13
13							11.45	30	8/10/12
14							12.45	40	11/14/15
15							13.45	43	14/11/18
16	1.338	15.95	岩砕混リシルト層	灰	全体的にシルト多量混入 3~5cm 位の構状コア として入る 大半が構状コアとして入る 加 砂質分多量混入		14.45	50	50/8/8
17							15.45	50	50/3/3
18							16.15	50	50/3/3
19							16.23	50	50/3/3
20							17.15	50	50/3/3
21	6.568	21.20	粘土層 粘土	灰			17.18	50	50/2/2
22							18.15	50	50/3/3
23							18.17	50	50/3/3
24							19.15	50	50/3/3
25							19.18	50	50/3/3
26							20.15	50	50/3/3
27							20.18	50	50/3/3
28							21.15	50	50/5/5
29							21.20		



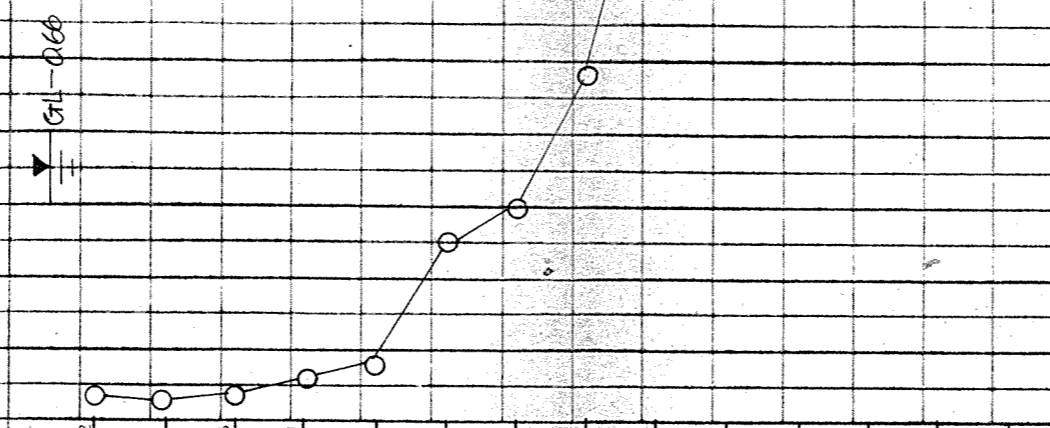
土質柱状図

No. 73

調査件名			
調査場所	(仮称) 船橋市清瀬工場建設敷地 地盤調査		
調査期間	昭和 55 年 8 月 31 日 ~ 昭和 55 年 9 月 1 日		
地盤高	15.972 (M)	地下水位G.L. -0.66 (M) (自然孔因)	
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm		
現場担当者			

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
I	I	I	I	I	I	I	I	I	I

標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対密度	標準貫入試験			
									深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (M) 数	30 打換算数	打撃数 (回)	
15.972	0.00											
15.272	0.70	0.70	表	土 質 砂	褐	草根混入、粘土主体 粘性大、含水大 若干距離粘土 有機物少量混入	系	系	1.15	3.7	2.1	12
13.272	2.70	2.00	シルト復粘	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 5.50M 付近粘性土多 量混入 岩屑 10~30% 混入 若干中粒で砂一把握なり	中	中	2.15	3	1.8	11
9.172	6.80	4.10	粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	3.15	3.6	2.1	13
7.272	8.70	1.90	粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	4.15	6	1.9	14
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	5.15	2	2.2	4
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	6.15	2.5	4.8	13
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	7.15	30	9.9	12
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	8.15	48	12.15	21
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	9.15	50	20.21	29
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	9.35	50	9	9
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	10.15	50	12.41	2
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	10.27	50	10	50
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	11.15	50	10	50
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	11.25	50	50	50
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	12.15	50	50	50
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	12.24	50	50	50
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	13.15	50	50	50
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	13.25	50	50	50
1.172	14.21		粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	14.10	50	11.45	5
			粘 土 質 砂	粘 土 質 砂	灰	全角に含水大なる 若干中粒に於る	中	中	14.21	41	15	1



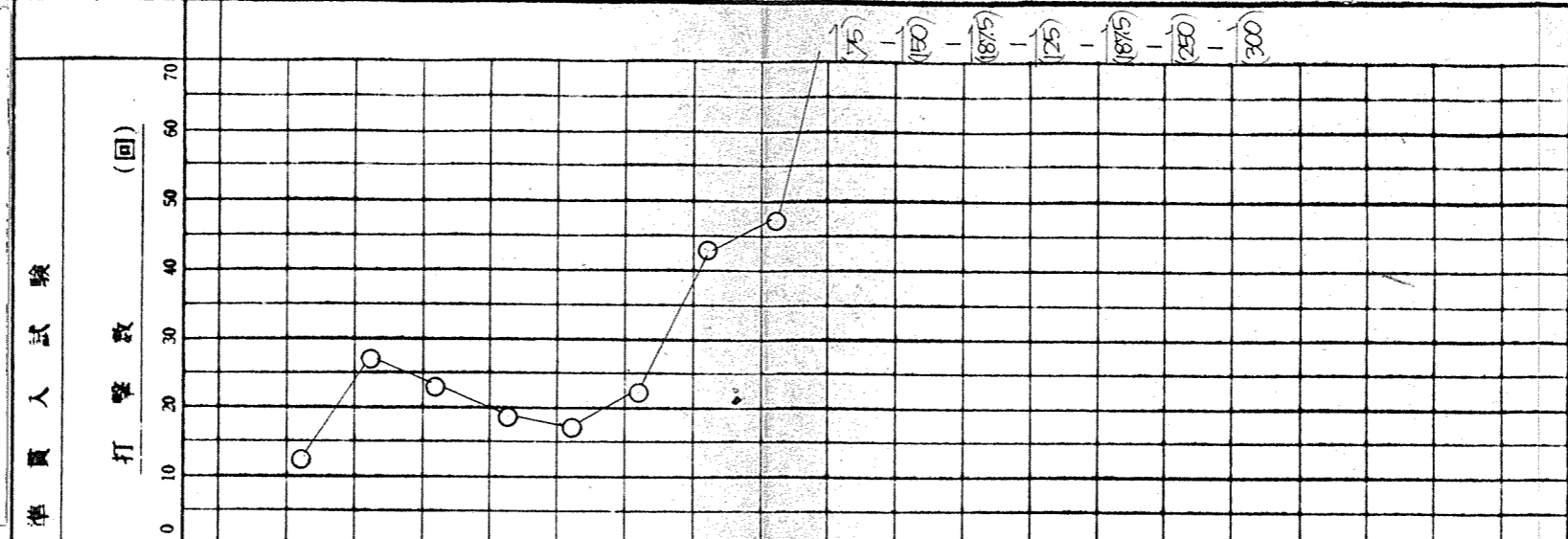
(75) - (25) - (50) - (66.6) - (187.5) - (36.4)

土質柱状図

調査件名: 74
 調査場所: (株) 南総建設工事場建設部 北農部直 横須賀市神保町 287 地
 調査期間: 昭和 55 年 9 月 9 日 ~ 昭和 55 年 9 月 10 日
 地盤高: 38.041 (M) 地下水位 G.L. (M) (自然孔内)
 使用機械: ロータリー式 口径 100 mm
 現場担当者: 66 %

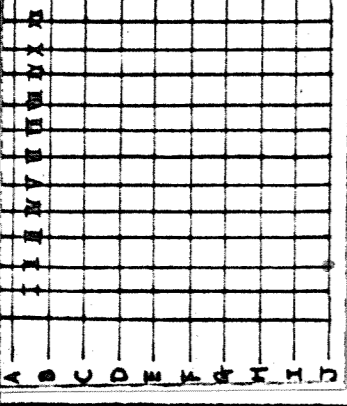
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
B																				
C																				
D																				
E																				
F																				
G																				
H																				
I																				
J																				

標尺 (M)	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験		
										深打 30打 cm 撃 換算数	10cm 毎の 打撃回数	10cm 毎の G.L. 換算数
0	38.041	0.00	0.40	表	土 層	褐色	異状なし					
1	37.641	0.40	1.10	固 結 土 層	粘土 層	褐色	若干凝り帯を帯る 下部にて固結岩層が増す					
2	36.541	1.50			ローム 粘土 層	褐色	150~2.0M 岩屑(泥岩) 主体の砂 全体中に粘土(茶褐色) 大まかなる 全体に泥水 20~30% 混入する 岩屑は泥岩、砂岩を主体 固結を呈し、規則的な地盤 下部岩層を増す					
3												
4												
5												
6	31.591	6.45	4.95		砂 層	褐色						
7	31.041	7.00	0.55		砂 層	褐色	凝り帯に固結する					
8	30.541	7.50	0.50		砂 層	褐色	凝り帯を主体					
9	28.541	9.50	2.00		砂 層	褐色	固結強く、もろ、凝り帯の固結 層					
10												
11												
12												
13	24.541	13.50	4.00		風 化 泥 岩	褐色	非常に硬質の凝り帯に凝り帯る 弱い風化を受けて崩れやす (カ) 面は固結を呈す 加、凝り帯の崩れが混入 かなり多くなる コアは割りにくい					
14												
15	22.841	15.20			泥 岩	褐色	上部層が崩れを受けて もろくなる かなり全体に入る 大まかなる					
16												
17												
18												
19												



土質柱状図

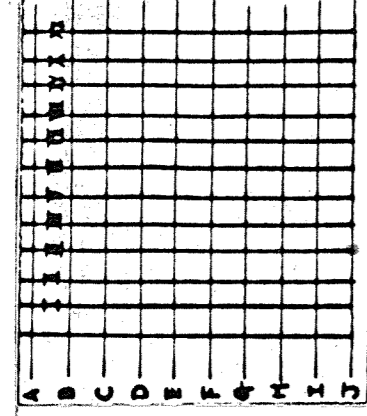
調査件名	46 75				
調査場所	(仮称) 留置場建設敷地 地盤調査 機復原市神保町 2187 他				
調査期間	昭和 55 年 9 月 5 日 ~ 昭和 55 年 9 月 6 日				
地盤高	標高 23.345 (M) 地下水位 G.L (M) (自然孔内)				
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm				
現場担当者					



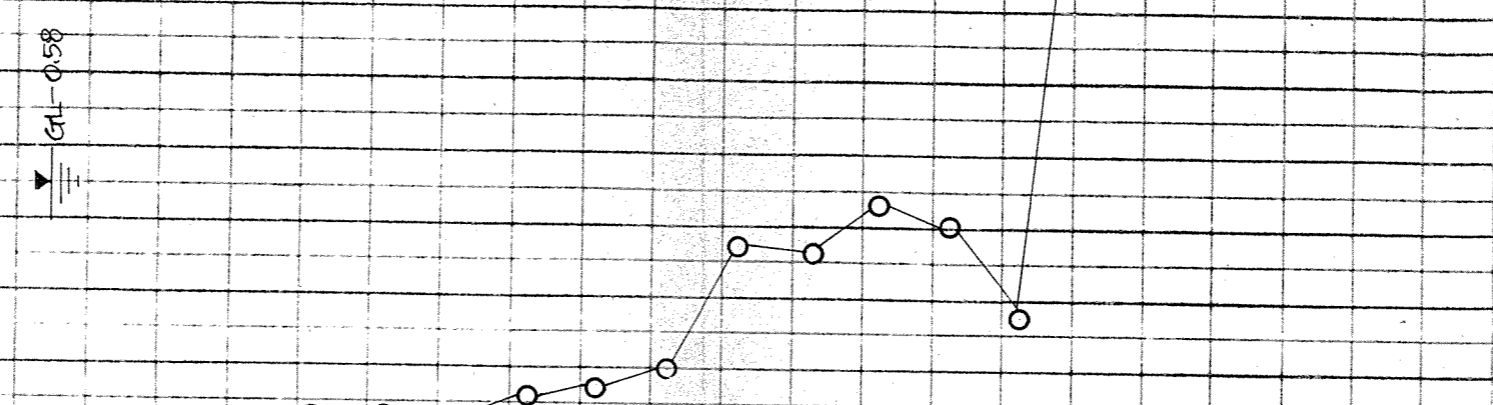
標尺 (M)	層厚 (M)	深度 G.L (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験					
									深打 30 cm 打撃回数	10 cm 毎の打撃回数	深打 30 cm 打撃 G.L 換算数	打撃数 (回)		
0		23.345												
1	1.50	21.845	粘土混り風化泥岩	暗褐色	風化強受け 上部若干の粘土を帯る 含有量少な				4	1.15				
2	1.10	20.745	風化泥岩	暗褐色	含有量少な 全層に風化強受け 2.50~2.60M 付近にて 全地味なる 粘土混り風化泥岩 4M 付近にて粘土含有量 混入 5M 以下部粘土混り風化泥岩 風化土中程少な 粘土混り風化泥岩			22	2.15					
3									19	3.15				
4									17	4.15				
5									19	5.15				
6	3.90	6.845	粘土混り風化泥岩	暗褐色					20	6.15				
7									50.15	7.15				
8									50.8	7.30				100
9	2.20	4.645	泥	暗黄褐色		全層に粘り風化を受け キルン面少量の風化を呈す 全層中粒			50.7	8.23				1875
10									50.7	9.15				242
11									50.7	9.22				242
12		11.195	泥	暗青灰色		全層に粘り風化を受け 2.50~100% 程度のエア ミクス			50.6	10.15				250
13									50.5	11.15				300
14									50.5	11.21				
15										12.15				
16										12.20				

土質柱状図

調査件名 (仮称) 南部着床工場建設敷地地復調査
 調査場所 横須賀市神甲町 2187 他
 調査期間 昭和 55 年 9 月 4 日 ~ 昭和 55 年 9 月 5 日
 地盤高 19.898 (M) 地下水位 G.L. - 0.58 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 HR 100 孔径 66 mm



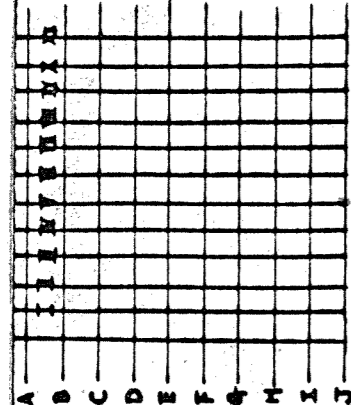
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對稠度	標準貫入試験 30打 10cm 毎の 度撃回数 G.L. 10cm M. 数算数	打撃数 (回)
0	19.898	0.00	0.50	表	土 舗	赤					
1	19.398	0.50	0.50	表	土 舗	赤	腐植物混入 中 砂質土を蒙る林状 腐植物の解凍			1.15	17
2										1.50	18
3										2.15	18
4							下部にて岩碎片が量含む			2.48	26
5							含む中粒 全体的に均一な状態			3.15	28
6										3.50	29
7	13.098	6.80	6.30		シルト復粘土塊	赤				4.15	28
8							腐植物混入 全体的に砂質土が量混入 含む中粒 粘土が量含む			4.47	29
9										5.15	29
10	10.398	9.50	2.70		岩砕混リシルト塊	赤				5.46	2
11	9.198	10.70	1.20		岩砕混リシルト塊	赤	少量の粘土が量混入			6.15	2
12							砂分の粗粒は全体的に粗く なる			6.45	2
13							果粒状の固結物多量混入 含む中粒			7.15	6
14	6.198	13.70	3.00		岩砕混リ岩砕	赤				7.45	2
15	4.998	14.90	1.20		岩砕混リシルト塊	赤	含む中粒 若干粘土含む			8.15	7
16							キリが多くコアに硬い 林葉の腐る 含む中粒			8.45	7
17	2.998	16.90	2.00		泥	赤				9.15	10
18	1.498	18.40	1.50		微細砂	赤	粗平均で非粘に凝りかたで 固結を呈す 腐植物多量含む			9.45	10
19							キリが多い 中 15~20mm 位の塊状 コア-土に入る			10.15	27
20	0.302	20.20			泥	赤				10.45	27
21										11.15	26
22										11.45	26
23										12.15	33
24										12.45	33
25										13.15	30
26										13.45	30
27										14.15	17
28										14.45	17
29										15.15	50
30										15.22	50
31										16.15	50
32										16.23	50
33										17.15	50
34										17.21	50
35										18.15	50
36										18.20	50
37										19.15	50
38										19.21	50
39										20.15	50
40										20.20	50



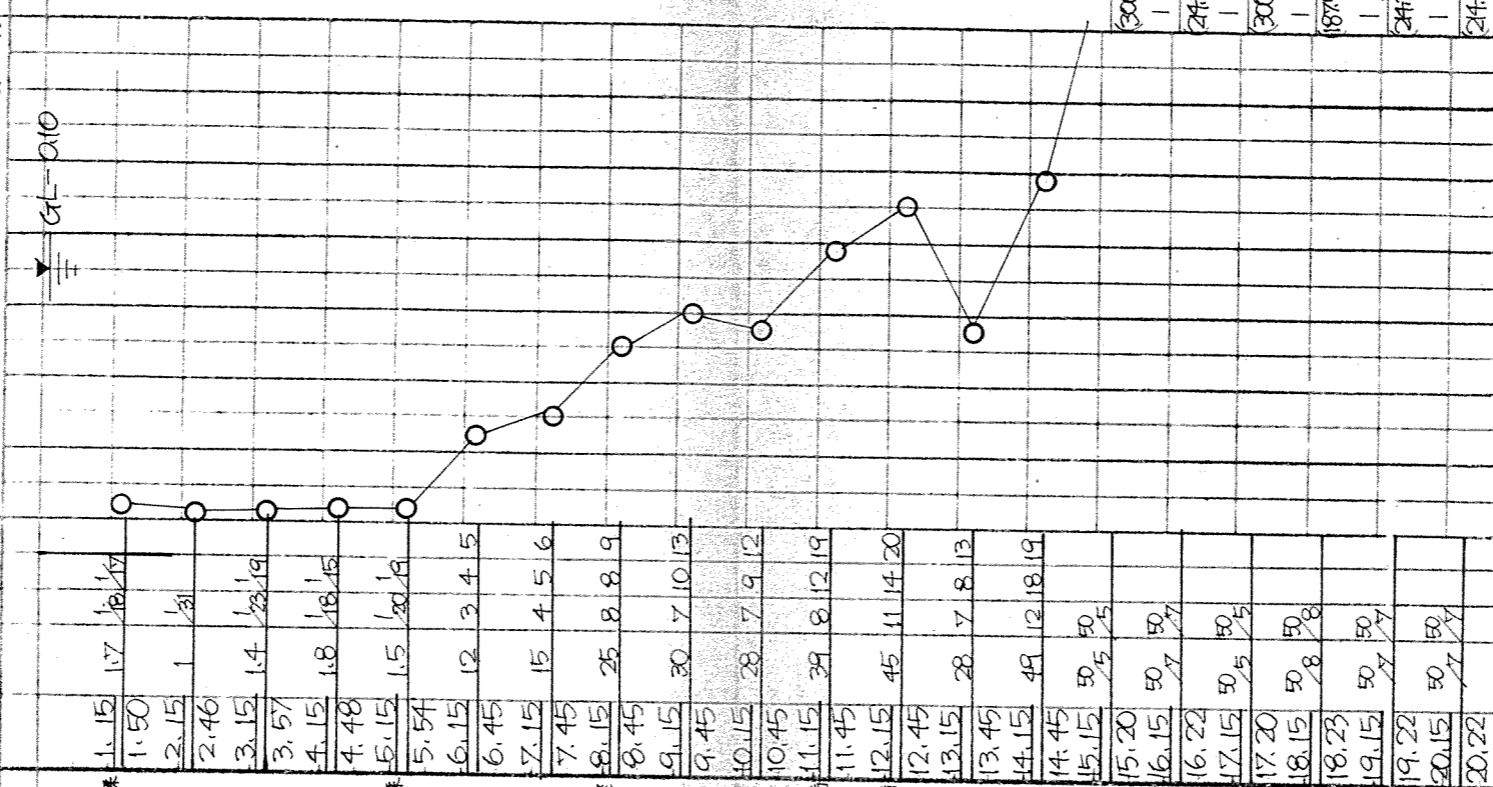
土質柱状図

No. 77

調査場所 (株) 南武青柳工場建設敷地 地質調査
 横須賀市神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 1 日 ~ 昭和 55 年 9 月 2 日
 調査地 標高 17.085 (M) 地下水位 G.L. - 0.10 (M) (自然湧出)
 使用機械 ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



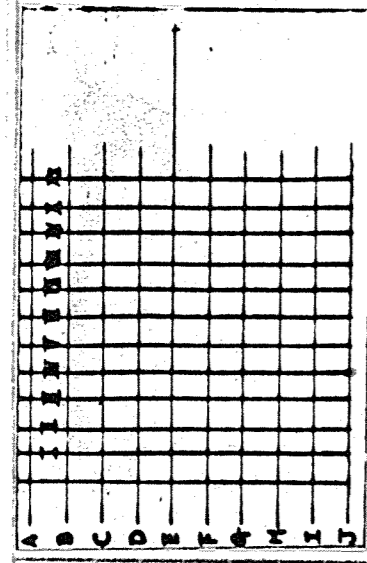
標尺 (M)	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對含水量	標準貫入試験	
										深打 30 打 10cm 毎の 度 撃 同 10cm G.L. M 数 算 数	打撃数 (回)
0	17.085	0.00	0.40	表	土層	褐色	草根少量混入				
1	16.685	0.40					含水多 上部腐植物混入 粘性大 砂・固結土少量混入 全相・砂質土少量混入				
2											
3											
4											
5											
6											
7	9.485	7.60	7.20		シルト質粘土層		下部にて含水多				
8											
9											
10											
11							11M 以下 下部 若 砂 30~40% 混入				
12							粘性土 分 散 状 混入				
13							若 砂 混入				
14	2.585	4.50	6.90		岩 質 混 入		若 砂 混入 又は 土 質 層 主体 混入				
15							カ ン 入 混 入				
16							50~100% 位の 粘 土 混 入				
17							若 砂 混入				
18											
19											
20	3.135	20.22			泥						
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											



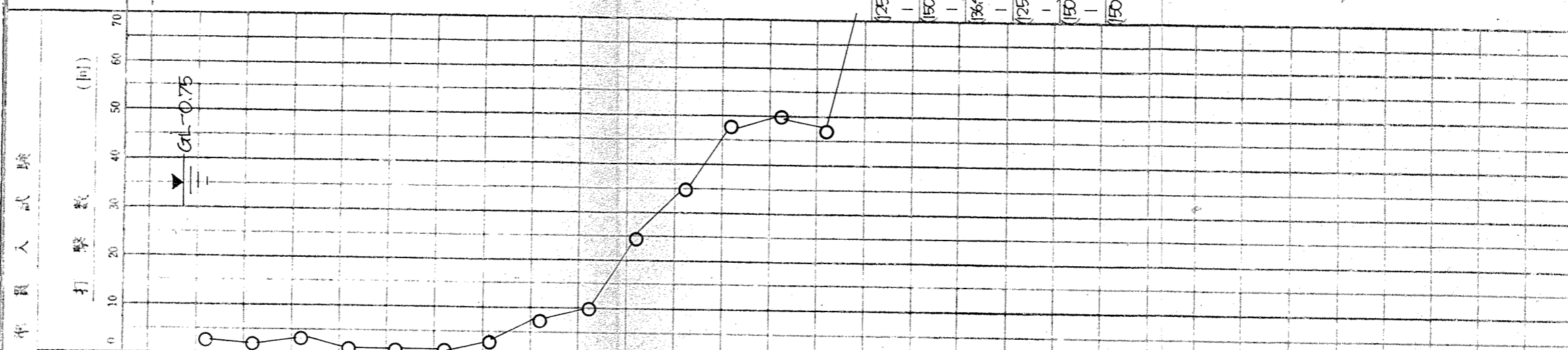
(300) - (242) - (300) - (1875) - (242) - (242)

土質柱状図

調査件名: (仮称) 南部清掃工場建設敷地 地質調査
 調査場所: 横須賀市神明町 287 他
 調査期間: 昭和 55 年 9 月 2 日 ~ 昭和 55 年 9 月 3 日
 調査地盤高: 17.641 (M) 地下水位 G.L. - 0.75 (M) (自然水位)
 使用機械: ローター式 KR 100 孔径 66 mm

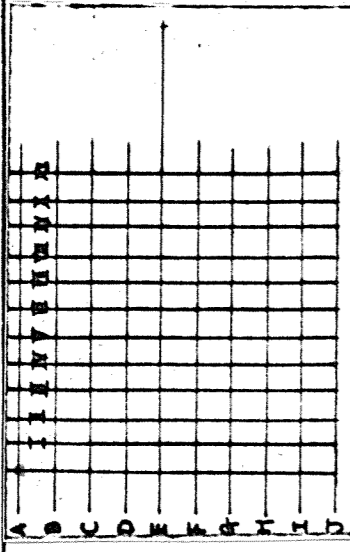


標尺 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對稠度	30cm 打撃回 (回)	10cm 打撃回 (回)	10cm 打撃回換算 M 数
17.641	0.00										
16.841	0.80	0.80	表	土層		草根少量混入			2.6	12	1.12
						粘性大、含水中粒、下部には細かい岩片混入、粘土の砂質土を含む			1.9	14	1.14
									2.47	14	1.14
									3.15	14	1.14
									3.46	14	1.14
									4.15	09	0.9
									4.50	09	0.9
									5.15	09	0.9
									5.47	08	0.8
						下部に岩片混入			6.15	08	0.8
						含水中粒			6.55	14	1.14
9.941	7.70	6.90		シルト質粘土					7.15	26	1.26
									7.50	14	1.14
						上部粘性土混入、岩片 10~30% 混入			8.15	7	2.23
									8.45	7	2.23
									9.15	10	3.34
									9.45	10	3.34
									10.15	24	7.89
7.141	10.50	2.80		粘り強い中粒砂					10.45	24	7.89
						中粒砂、やや細かい状態、粘り強い			11.15	35	9.12
						含水中粒、非常に硬く粘り強い、塊状となりやすい			11.45	48	10.17
									12.15	48	10.17
									12.45	50	13.17
									13.15	50	13.17
									13.45	47	12.15
									14.15	47	12.15
									14.45	50	12.41
						細かい砂、やや細かい状態、粘り強い			15.15	50	12.41
									15.27	50	12.41
						全体的に細かい、ゴアに粘り強い			16.15	50	10.50
									16.25	50	11.46
									17.15	50	11.46
									17.26	50	10
									18.15	50	12.40
									18.27	50	12.40
									19.15	50	10.50
									19.25	50	10.50
2.609	20.25			泥		泥			20.15	50	10.50
									20.25	50	10.50



土質柱状図

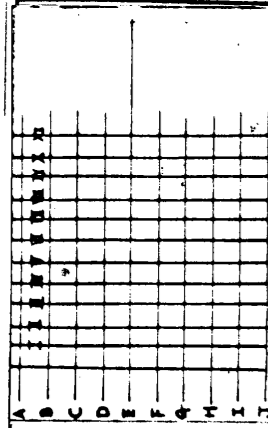
調査件名	78
調査場所	(原簿) 富田操場 建設敷地 地質調査
調査期間	昭和 55 年 9 月 10 日 ~ 昭和 55 年 9 月 11 日
地盤高	(M) 地下水位 G.L. - 1.80 (M) (自然孔内)
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm
現場担当者	



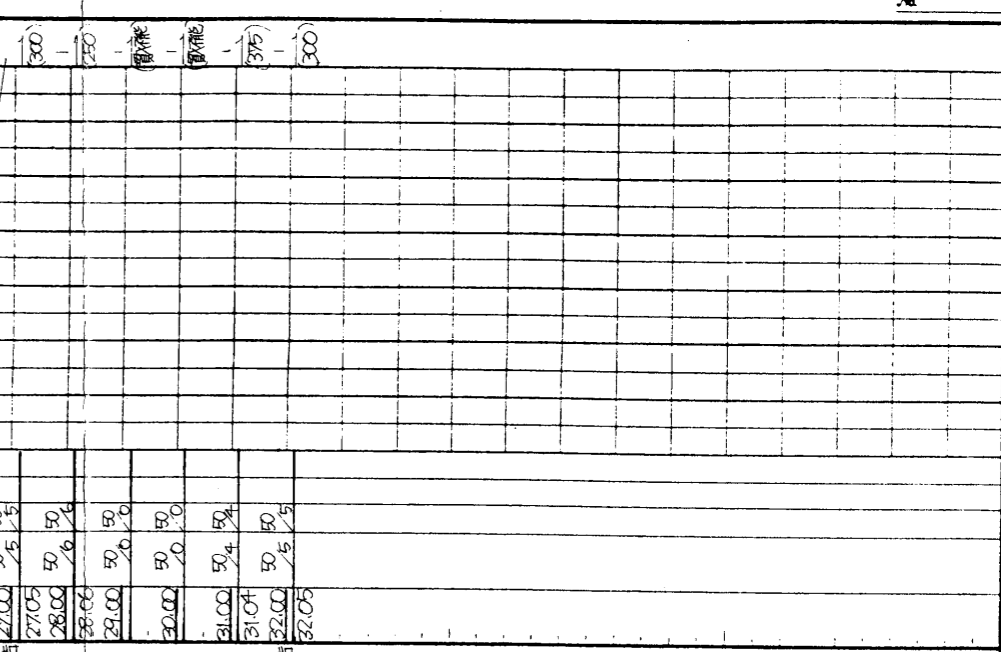
標尺 (M)	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験									
										深打 30打 cm 撃算数	10cm 毎の 打撃回数	打撃回数 (回)							
0		0.00																	
1		0.75	0.75	表	土層	灰	シルト状で砂岩混る		塵	1.15	9	3	3	3					
2				表		黒茶	1M内 凝灰質で硬い 腐植土混り粘土で硬く 粘着が非常に大きく 掘進手面になる		中	2.15	4	1	24	16					
3				表			掘進手面になる 腐植物多く混る		中	3.15	5	2	15	2					
4		3.80	3.05	表	シルト 復 粘土	灰	3.80Mより固結シルトが粘り 指で潰れ、サラサラしている 炭化物混入 (色調若干)		塵	4.15	10	3	3	4					
5				表			4.35Mより腐植土混り (茶灰) となり、キリが多くはびいている為 堆水が多い		塵	5.15	22	4	8	10					
6				表			2M 試料は全部落ちてしま う。6.75~7.40M 硬くなる		塵	6.15	16	6	5	5					
7				表			腐植土混り土層でも 若干堆水あり、離れ易い		固結	7.15	50	20	15	35					
8				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	8.15	26	6	11	9					
9				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		塵	9.15	34	10	9	15					
10				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		塵	10.15	12	3	4	5					
11		11.30	7.50	表	風化 泥 岩	灰	腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	11.15	50	19	31	9					
12				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	11.34	50	21	15	28	71				
13				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	12.00	21	15	28	71					
14				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	12.21	50	13	32	18					
15				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	13.00	50	13	32	18					
16				表	泥	岩	腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	13.13	50	20	21	29					
17				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	14.00	50	20	21	29					
18				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	14.20	50	15	27	23					
19				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	15.00	50	15	27	23					
				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	15.15	50	10	50						
				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	16.00	50	10	50						
				表			腐植土混り土層で 腐植土が大部分を占める		固結	16.10	50	10	50						

土質柱状図

調査件名 (橋梁) 首都圏環状4号線建設工事(第1期) 橋脚基礎掘削工事
 調査場所 横須賀市神明町 287 他
 調査期間 昭和 55年 9月 12日 ~ 昭和 55年 9月 13日
 地盤 標高 15.517 (M) 地下水位G.L. -0.95 (M) (自然掘削)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対湿度	相対稠度	標準貫入試験	
										30打 10cm層の 打撃回数 (回)	10cm層の 打撃回数 (回)
0	15.517	0.00									
1	14.417	1.10	1.10	表土	土質		粘性土主体で、草根等混入			2	1
2	13.767	1.75	0.65	表土	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			2	1
3	12.267	3.25	1.50	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			3	1
4	11.267	4.15	0.90	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			3	1
5	10.317	5.20	1.05	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			3	1
6	9.717	5.80	0.60	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			3	2
7							全層にシルト主体で、草根等混入			13	4
8							全層にシルト主体で、草根等混入			12	4
9	6.417	9.10	3.30	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			10	2
10	6.017	9.50	0.40	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			11	3
11							全層にシルト主体で、草根等混入			15	4
12							全層にシルト主体で、草根等混入			15	4
13							全層にシルト主体で、草根等混入			14	4
14	1.367	14.15	4.65	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			12	3
15							全層にシルト主体で、草根等混入			10	2
16	-0.233	15.75	1.60	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			5	2
17							全層にシルト主体で、草根等混入			5	1
18	2.333	17.95	2.10	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			10	2
19							全層にシルト主体で、草根等混入			11	3
20	4.033	19.60	1.75	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			10	2
21							全層にシルト主体で、草根等混入			5	2
22							全層にシルト主体で、草根等混入			6	2
23	7.333	22.90	3.30	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			15	5
24							全層にシルト主体で、草根等混入			28	8
25							全層にシルト主体で、草根等混入			20	7
26							全層にシルト主体で、草根等混入			25	7
27	10.933	26.50	3.60	シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
28							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
29							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
30							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
31							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
32	16.533	32.05		シルト	シルト質粘土	黄緑色	全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
33							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
34							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
35							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
36							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
37							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
38							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
39							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
40							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
41							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
42							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
43							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
44							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5
45							全層にシルト主体で、草根等混入			50	5



土質柱状図

46 80

調査名称
調査場所
調査期間
地盤高
使用機械
現場担当者

(仮称)首都圏清掃工場建設敷地 土質調査
機原質字相野町 2187 地
昭和 55年 9月 12日 ~ 昭和 55年 9月 13日
標高 10.778 (M) 地下水位 G.L. -1.10 (M) (自然原因)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm

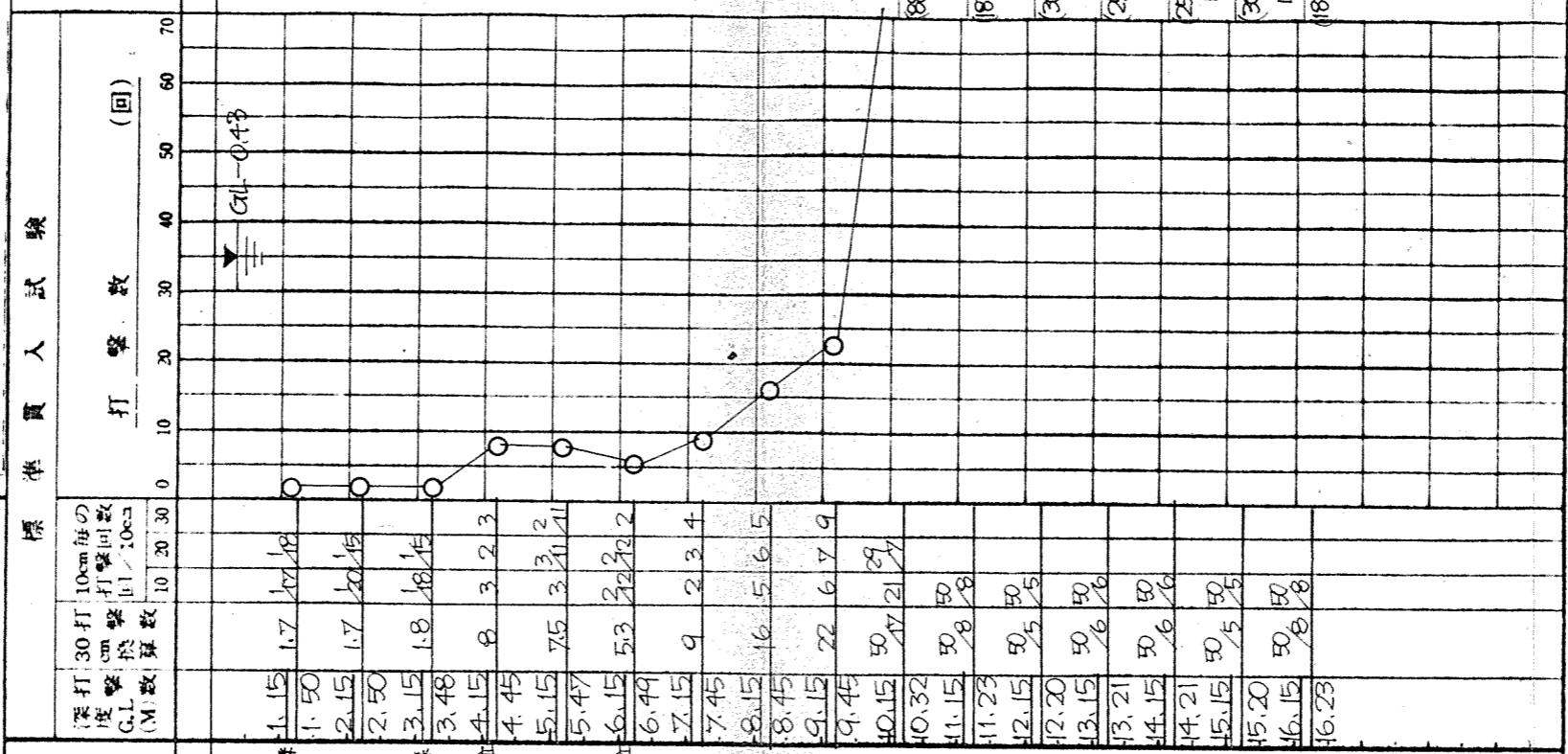
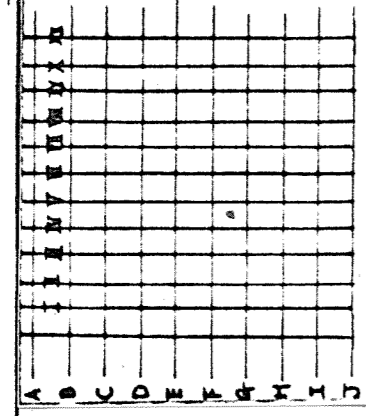
標尺	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対湿度	相対稠度	標準貫入試験				
									30打 10cm 間の打撃回数 (M) 数	10 20 30 40 50 60 70	打撃数 (回)		
0	10.778	0.00	×										
1	10.078	0.70	埋	土層	暗	上層(1.0M)より シルト、岩屑混入 腐植物混入				1.9	1.9		
2	8.178	2.60	1.00	シルト 復 粘 土	黒	1.40M 以下の粘土で 腐植土混入 若干砂混入 土層、砂岩の岩屑多く混入 腐植物少量混入				2.50	2.50		
3	6.028	4.75	2.15	粘 土	黒	粘泥質、細かい 含水多し 腐植物混入 (細かいもの)				10	10		
4										3.45	3.45		
5										4.15	4.15		
6										5.15	5.15		
7										6.45	6.45		
8										7.45	7.45		
9										8.45	8.45		
10										9.45	9.45		
11										10.45	10.45		
12										11.45	11.45		
13										12.45	12.45		
14										13.45	13.45		
15										14.45	14.45		
16										15.45	15.45		
17	5.922	16.60	11.85	シルト 復 粘 土	黒	14M 以下の腐植土の 少量混入 粘泥質、腐植物混入 15M 細い(腐植土)混入 含水多し				6	6		
18										7	7		
19										9	9		
20										6	6		
21										6	6		
22										4.8	4.8		
23										12	12		
24										17	17		
25										15	15		
26										6	6		
27										8	8		
28	17.222	28.00	11.40	粘 土	黒	22~23M 付近より 岩屑の多い状態で手間となる 腐植物混入 岩屑(砂岩)主体となる 25.80M 付近(砂岩)混入 岩屑混入 全層に細かい岩屑多く 混入				11	11		
29										9	9		
30										17	17		
31										9	9		
32										9	9		
33	22.252	33.03		泥	黒	上部 2.0M 付近(砂岩)混入 粘土質、腐植物混入 2.0M 付近(砂岩)混入 粘土質、腐植物混入 2.0M 付近(砂岩)混入 粘土質、腐植物混入 2.0M 付近(砂岩)混入 粘土質、腐植物混入				11	11		
34										9	9		
35										15	15		
36										17	17		
37										8	8		
38										11	11		
39										9	9		
40										17	17		
41										9	9		
42										9	9		
43										9	9		
44										9	9		

土質柱状図

No. 81

調査件名	(仮称) 南部清浄工場建設敷地地盤調査		
調査場所	機原賀市神明町 2187 他		
調査期間	昭和 55 年 9 月 11 日 ~ 昭和 55 年 9 月 11 日		
地盤高	標高 11.262 (M) 地下水G.L. - 0.43 (M) (自然孔因)		
使用機械	ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm		
現場担当者			

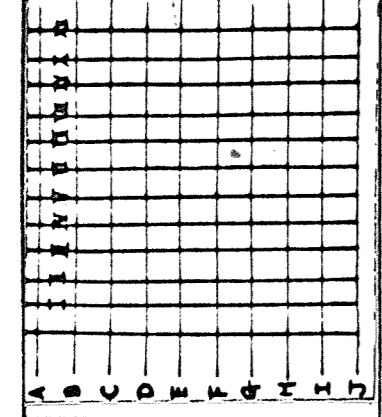
標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験			
										深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数 (回)	
0	11.262	0.00			土層異様		管根混入、粘土状						
1	10.862	0.40	0.40				粘性大、含砂、 全体に腐植物混入し 下部は多くなる				1.7	1.7	1.7
2							腐植物少量混入 修復少量混入				1.7	1.7	1.7
3	8.212	3.05	2.65		シルト質粘土		280~3.05M 腐植土				1.8	1.8	1.8
4	7.362	3.90	0.85		砂質シルト		腐植物少量混入 粗砂 25~35% 混入				8	3	2
5							全体に含砂量多くなる 不修復地盤状態				7.5	3	1
6							全体に貝殻細砂混入 岩層 10~40% 混入				5.3	2	2
7							修復少量混入 6M 粘土、含砂高くなる				9	2	3
8	3.662	7.60	3.70		岩質凝りシルト		凝固砂、推石				16	5	6
9	2.762	8.50	0.90		シルト		細砂 15~25% 混入 シルト面露化				22	6	7
10	1.762	9.50	1.00		風化泥岩		風化泥岩、岩質凝り 細砂、シルト				50	17	21
11	0.612	10.65	1.15		砂質粘土		非常に硬く、シルト面露化 細砂、シルト				50	17	21
12							全体に修復材混入 砂質				50	17	21
13							全体にシルト多くなる シルト面露化				50	17	21
14							シルト多くなるシルト面に シルト面露化				50	17	21
15							シルト多くなるシルト面に シルト面露化				50	17	21
16	4.962	16.23			泥岩		シルト多くなるシルト面に シルト面露化				50	17	21



土質柱状図

No. 82

調査件名 (仮称) 南部市浄水場建設敷地地盤調査
 調査場所 横須賀市神明町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 11 日 ~ 昭和 55 年 9 月 12 日
 地盤高 10.062 (M) 地下水位 G.L. -0.72 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験	
									深打 30 打 10cm 毎の G.L. 換算数	打撃数 (回)
0	10.062	0.00								
1	9.462	0.60	液	土 暗黒褐色		草根混入、粘土主体 含水率特大 少量の砂質分、礫石混入 2M 付近に有機物多量混入 1.50~2.70M 面孔混入	液	液	1.15 1.48 2.15 2.51	0 16 18 16
2	7.362	2.10	シルト 復粘	土 暗黒灰		先所体中礫石も呈す 若干の砂質分混入	中	中	3.15 3.45 4.15	13 23 7
3	6.512	0.85	岩砕混リシルト	土 暗青灰		岩砕約 5~20% 砂質分混入	中	中	4.45 5.15	8 9
4			砂	砂 暗		良砂細砂混入 含水率大 粗砂若干混入	中	中	5.45 6.15	7 4
5	4.612	1.90				中位~密な状態 全体に良砂細砂混入 有機物多量混入	中	中	7.45 8.15	17 15
6						シルトは 20~30% 位 粗砂の混入も混る 全体に均質な状態 礫石多量混入	中	中	9.45 10.15	6 6
7						上部にて良砂細砂混入 加、砂質分微量混る	中	中	11.45 12.15	5 8
8						岩砕約 10~40% 位も主体 とす	中	中	13.45 14.15	4 3
9						岩砕は泥岩、砂岩を主体と す 加、良砂細砂混入 全体に不均質な状態にて 混る	中	中	15.45 16.15	5 6
10	-0.438	10.50	シルト 復粘 粗砂 暗青灰			17~18.50M 細砂分多量 混入 含水率中位	中	中	17.45 18.15	4 2
11						20M 付近に砂質分(細砂) 多量混入	中	中	19.45 20.15	4 4
12						下部にて浮石多量混入	中	中	21.45 22.15	5 8
13	12.538	22.60	岩 砕 混リ シルト 暗青灰			粗砂非常に細かく均一にて 混る	中	中	23.15 23.28	13 38
14	13.688	23.75	軟 復 砂 岩 暗			非常に硬質にて安定する 全体に均質混入 加、若干も混る	中	中	24.15 24.23	50 50
15	15.138	25.80	泥	岩 暗青灰		粗砂均一、混る	中	中	25.15 26.15	50 10
16	16.438	26.50	軟 復 砂 岩 暗			シルト多量混入、粘土コアと なり、大半が粘土コア と混る 加、粘層状に分布して存在する	中	中	27.22 28.15	50 50
17	19.138	29.20	泥	岩 暗青灰			中	中	29.15 29.20	50 50

(15.4) - (187.5) - (87.5) - (150) - (24.2) - (300) - (300)

土質柱状図

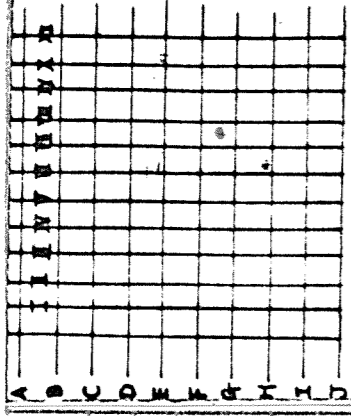
No. 83

調査場所
調査期間
調査地
使用機械
現場担当者

(仮称) 南部清掃工場建設敷地 地盤調査
機検調査神門町 287 地

昭和 55 年 9 月 12 日 ~ 昭和 55 年 9 月 13 日

標高 9.087 (M) 地下水位 G.L. - 0.15 (M) (自記)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm



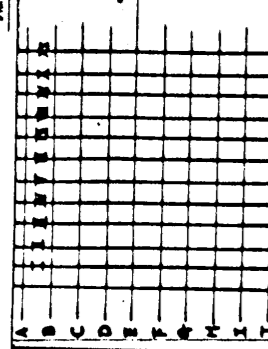
標尺	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相對密度	相對濕度	標高	打撃数 (回)
0	9.087	0.00	0.40	表	土 植 被 馬		草根混入、粘土状 粘土(含水)状 腐植物少量混入			1.7	10
2	7.037	2.05	1.65	粗	中 質 粘 土		軟弱状 1.90~2.05M 腐植土混入 粗砂質、含水多量			11	10
3	6.387	2.70	0.65	細	粘 土		粘細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			29	10
4	5.187	3.90	1.20	粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			30	10
5	4.287	4.80	0.90	粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			17	10
6	3.587	5.50	0.70	粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			14	10
7				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			17	10
8				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			15	10
9				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			13	10
10				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			17	10
11				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			13	10
12				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			10	10
13				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			12	10
14				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			12	10
15				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			18	10
16				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			22	10
17				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			15	10
18				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			13	10
19				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			17	10
20	10.463	9.55	14.05	粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			50	10
21				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			18	10
22				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			50	10
23				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			16	10
24				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			50	10
25				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			50	10
26				粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			50	10
27	18.112	27.20		粘	粘 土		粘中細砂混入 粘中細砂、粘中細砂 粘中細砂、粘中細砂			50	10

(83) (938) (1071) (100) (150) (150) (250) (300)

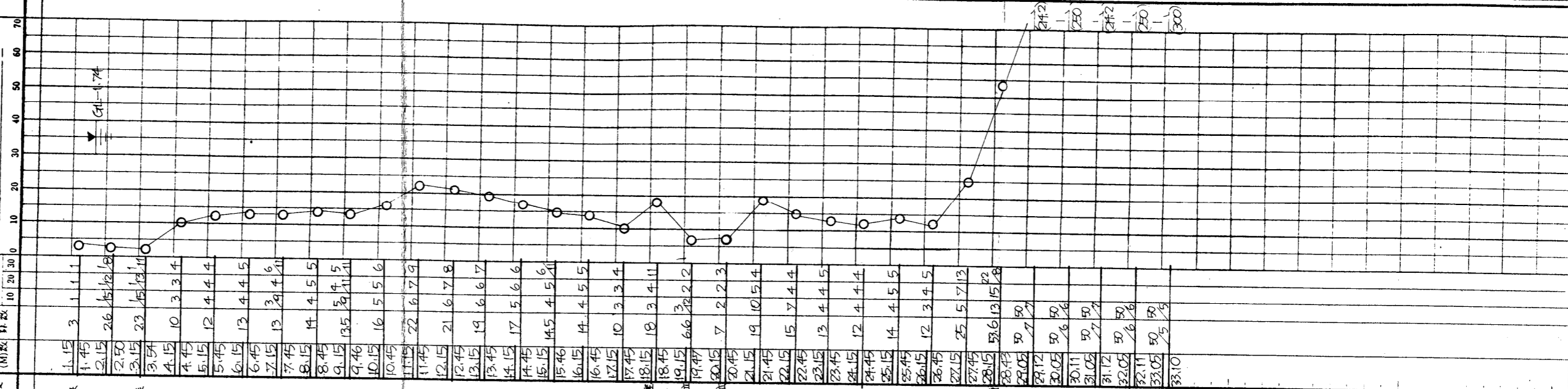
土質柱状図

№ 85

調査件名 (仮称) 首途清理工場建設敷地地盤調査
 調査場所 穂原資産神門町 287-1 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 13 日 ~ 昭和 55 年 9 月 14 日
 地盤 7-567 (M) 地下水位 G.L. -1.74 (M) (自然掘削)
 使用機械 ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対湿度 (%)	相対密度 (%)	標準貫入試験	
									30打度 (M) 数	10cm毎の打撃回数 (回)
2.567	0.00								3	11
5.067	2.50	2.50	埋	土層	灰	上部 軽石が混入 岩砕石が混入 下部 細砂が混入			26	15
3.667	3.90	1.40	0.50	岩砕混り砂質シルト質	灰	全柱に岩砕が混入 腐植物が混入			23	15
5.133	2.70	8.80		シルト混り細砂質	灰	全柱に少量の腐植物 少量の腐植物が混入 全柱に岩砕が混入 加えて岩砕が多い箇所 不均質な層がある 全柱に割れ合がある			10	3
9.033	6.60	3.90		岩砕混りシルト質細砂質	灰	全柱に少量の腐植物 少量の腐植物が混入 粗砂が混入 合砂が混入			22	6
13.233	20.80	4.20		岩砕混りシルト質	灰	全柱に少量の腐植物 混入 非割れ合層がある 加えて岩砕が多い箇所			14	4
19.833	27.40	6.60		岩	灰	全柱に岩砕が混入 全柱に腐植物が混入 岩砕が混入 全柱に若干のシルトが混入			12	3
25.533	33.10			泥	灰	下部に岩砕が混入 全柱に非割れ合層がある 腐植物の混入がある 加えて岩砕が混入 全柱に非割れ合層がある 全柱に若干のシルトが混入 不均質な層がある 土丹がある			12	3



46

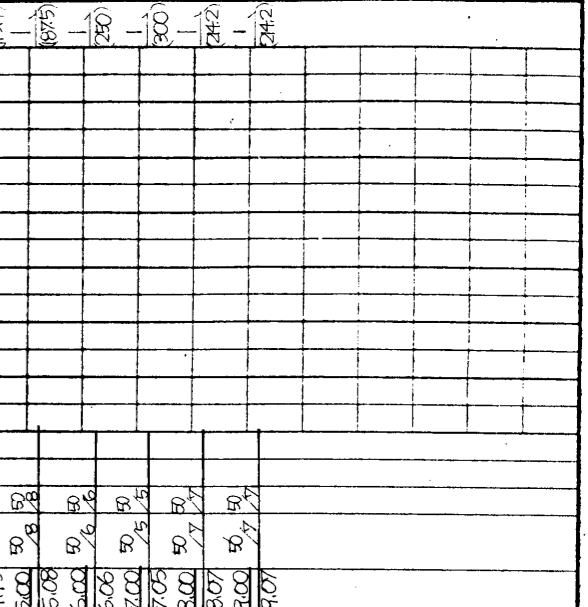
土質柱状図

№ 86

調査件名
調査場所
調査期間
地盤
使用機械
現場担当者

(特殊) 建設現場建設地地盤調査
機電質研神明町 2187 他
昭和 55 年 9 月 13 日 ~ 昭和 55 年 9 月 14 日
7:56 (M) 地下水位 G.L. - 2.23 (M) (自然孔内)
ロータリー式 KR 100 孔径 66 mm

標尺 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対稠度	標準貫入試験	
									30打 10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
7.56	0.00								4	1.12
5.41	2.15	2.15	埋	土基		全相に粘土質泥状土状 物理土状			11	3.44
4.96	2.60	0.45		粘土混り土質		全相に粘土混り土質 細粒土状			2	1.12
4.06	3.50	0.90		粘土		全相に粘土混り土質 細粒土状			10	3.34
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			14	4.46
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			17	4.67
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			10	3.34
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			11	3.44
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			15	4.56
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			17	5.66
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			16	5.66
9.19	16.75	3.26		シルト質細砂		下部に粘土質泥状土状 細粒土状			17	5.57
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			12	3.44
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			7	2.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			6	2.22
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			6	2.22
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			7	2.32
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			14	4.55
15.24	22.90	6.15		粘土混り砂質シルト		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			6	2.22
16.04	23.60	0.70		シルト混り岩砂		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			6	2.22
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			5	1.13
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			7	3.13
19.94	27.50	3.90		岩砂混りシルト		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			19	5.68
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			16	5.56
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			6	2.13
22.24	29.90	2.40		シルト混り岩砂		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			5	2.21
24.24	31.80	1.90		岩砂混りシルト		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			43	15.13
25.94	33.50	1.70		砂		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			29	12.12
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
						全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23
31.51	38.07			泥		全相に粘土質泥状土状 細粒土状			50	13.23



土質柱状図

№ 87

調査件名

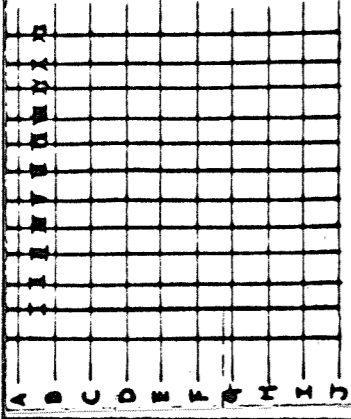
調査場所 (仮称) 首都圏整備工場の建設敷地、地盤調査、
機原原町神明町 287 地

調査期間 昭和 55 年 9 月 16 日 ~ 昭和 55 年 9 月 16 日

地盤高 7.587 (M) 地下水位 G.L. -1.95 (M) (自然孔内)

使用機械 ロータリ一式 KR 100 孔径 66 mm

現場担当者

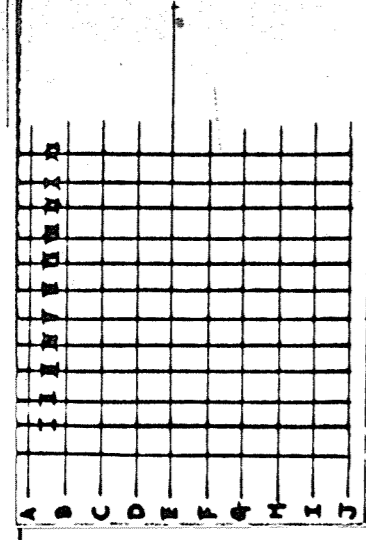


標尺 (M)	標高 (M)	深度 G.L. (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色調	観察記事	相対密度	相対含水量	標準貫入試験		
										深打 30 打 10cm 毎の G.L. 数算数	深打 30 打 10cm 毎の 打撃回数	打撃数 (回)
0	7.587	0.00										
1	6.087	1.50	1.50	埋	土層	灰	上部岩砕 下部細砂を主体とする	系				
2							全粒に細化粗砂充填 全粒に少量の小さな岩砕混入					
3												
4												
5	2.787	4.80	3.30	シルト 復 細 砂 層	砂 層	灰	全粒に少量の長形片、腐植物、 岩砕を混入 含む					
6	1.087	6.50	1.70	細	砂 層	灰	非常に粗れた層である 全粒に腐植物少量混入 細 岩砕の多い所有り 下部岩砕が多い	接				
7												
8												
9	1.313	8.90	2.40	岩 砕 混 リ シ ル ト 層	泥	灰	上部 砂岩の所が多い 全粒に細化の混んだ土層 である 非常にキレリが多い	固 結				
10												
11	3.743	11.33		泥	岩 層	灰		固 結				
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												

土質柱状図

№ 88

調査件名 (仮称) 首都圏建設敷地地質調査
 調査場所 横須賀市相模町 2187 地
 調査期間 昭和 55 年 9 月 15 日 ~ 昭和 55 年 9 月 15 日
 地盤高 標高 7.599 (M) 地下水位 G.L. - 1.80 (M) (自然孔内)
 使用機械 ローター式 KR 100 孔径 66 mm
 現場担当者



標尺	標高 (M)	深度 G.L (M)	層厚 (M)	土質記号	土質名	色 調	観察記事	相対密度	相対湿度	標準貫入試験	
										深打 30 打 10cm 毎の 度撃回數 G.L 数算数	10 20 30
0	7.599	0.00									
1	6.099	1.50	1.50	埋	土 質		上部は岩砕 下部で細砂を主体とする	中 密		8	1 4 3
2							全体的に少量の腐植物と 少量のハコバ、岩砕混入	ゆるい 中 密		6	1 2 3
3	4.399	3.20	1.70	シルト 復 細 砂 質	破 産 質		全体的に少量の長繊維と 少量の腐植物、岩砕混入 450M 付近の腐植物と 若干シルトを含む	中 密		10	2 3 5
4										16	5 5 6
5										23	7 7 9
6	0.999	6.60	3.40	細	破 産 質		全体的に少量の腐植物と 岩砕を混入 又、長繊維の混入 粘土不純物が層である 泥を含む	中 密		20	6 7 7
7										18	5 6 7
8										20	6 6 8
9										22	6 7 9
10										23	7 7 9
11	-3.90	11.50	4.90	シルト 混り 細 破 産 質	破 産 質		全体的に岩砕主体とする 少量の長繊維と少量の腐植 物混入	中 密		21	6 7 8
12										19	6 6 7
13	-6.00	13.60	2.10	岩	破 産 質 緑 灰		比較的層で 少量の長繊維、腐植物混入 加、岩砕が多い所がある	中 密		15	5 4 6
14										6.7	2 2 4
15										13	4 4 5
16	-9.10	16.70	3.10	岩 砕 混り 細 破 産 質	破 産 質 緑 灰		腐植物混入	中 密		19	6 7 6
17							腐植物混入	中 密		50	23 25 27
18							腐植物混入	中 密		50	24 26
19	-11.30	18.90	2.20	泥 質 破 産 質	破 産 質 暗 黄 灰		非常にシルトが多く 加、砂岩を挟む 全体的に腐植物の混入、 土層である	中 密		50	25 26
20										50	28 30 32
21										50	32 34
22										50	35 37
23	-15.68	23.28		泥 質 破 産 質	破 産 質 暗 黄 灰			中 密		50	38 40

